

第3節 遺物

出土遺物には陶磁器、瓦、金属製品、石製品等がある。今回の報告では、陶磁器及び瓦について、まとめて出土した資料の幾つかを選んで詳述し、その他個別資料の特徴については、観察表(第3～25表)等の記載に譲ることとする。

なお土師器皿の分類について試案を提示した(第110図上)。分類基準の妥当性等、検討の経緯について議論の余地は多いと思われるが、ここでは概略のみ簡単に付言しておく。A、B、Cは京都系土師器皿を軸とした系統の差異を念頭においたもので、京都系流入以前からの在在地系、京都系、京都系衰退後の新たな系統に対応させた。京都系B類については、オリジナルに近い薄手・精製品B1と、形態的に忠実とは言い難い厚手の製品B2とを想定しているが、その区別には曖昧な部分が残る。C類については、様々な系譜が想定されるが、現状では、京都系の特徴のうち、維持されやすい要素(口縁端部の造作、体部・口縁部の伸び・立ち上がり)が明瞭には窺えないものをまとめた。このうちC1類としたものは、従来ほとんど認識されていなかった一群である。京都系の終焉前後に形成されるようであるが、今後の資料の増加を待って、細分や特徴の解明を進めたい。C2類は近世金沢の土師器皿の基調を成すもので、兼六園(江戸町跡推定地)第Ⅲ遺構面出土土師器皿分類[伊藤1992]によるⅠ～Ⅲ類とその後継タイプを指す。C2-I1類は、およそ元和期(1615～1624)以後に盛行するが、底部内外面の調整痕の差異によりa・bの二群に分かれる。aは内面に一方方向の細かな条線(皮革等の擦痕か)、外面に指押しえ痕を残す。bは内面に不定方向のナデ(布ナデか)、外面に板目ないし筈目状の圧痕を残す。城内・城下各所の遺跡では、aが先行し、寛永期(1624～1644)にはbが優勢になる傾向がある。ただしこれはC2-I1類内部に限った現象であり、bの調整痕はC1類や京都系B2類等、引いては他地域の中世土師器等にも広く見られる。

以下では、先に陶磁器、続いて瓦出土遺構・層について説明する。陶磁器・瓦が共伴している事例もあるが、別個に取り上げることとする。

[2002-7 地点VII層・VI層、2002-32 地点] (第112図P26～第114図P74、P80～P87)

第112図P26～P29は、東ノ丸附段造成土(VII層)に含まれていたもので、中国磁器青花芙蓉手鉢(碗)、京都系土師器皿B2類が見られる。P30～第114図P74は、背後(南側)の石垣1110Nの上位、東ノ丸から投棄されたと思われる陶磁器で、VI層から出土したものの他、上層出土資料も同様の時期の製品は併せて掲載した。P30～P51は中国磁器供膳具で、景德鎮系が多い。P44～P46は景德鎮系の五彩皿で、染付に上絵付をのせた製品である。金沢城内でも類例が少ない優品である。P52～P66は陶器で、P60・P62は中国製品(華南三彩)の壺小片である。P64は薄手で緻密な胎土をもつ中国製の鉄釉製品で、小型の壺としたが茶入の可能性もある。国産陶器供膳具はあまり図化していないが、肥前陶器を主として小片・細片は多い。P52・P58は瀬戸・美濃織部製品、P53・P56は肥前、P55は備前の製品である。P59の播鉢は肥前製品。壺・瓶の類には瀬戸・美濃織部(P65)、肥前(P66)の他、信楽(P61・P63)が加わる。第114図P67～P74は土師器皿でC2-I1類で占められる。

第114図P80～P87はやや東に離れた2002-32地点出土資料である。P83・P84は中国磁器青花製品で向付(鉢)としたが、袖掛かりの状態等から古染付と見られる。P85も青花で、獅子等の動物・霊獣を象った香炉・置物の類と思われる。なお陶磁器の多くは火災に遭った形跡を示している。

これら陶磁器は、器種組成、土師器皿の形状からは、17世紀初頭～前半の年代が考えられる。この時期は、元和6年(1620)の本丸火災、寛永8年(1631)の大火が知られるが、東ノ丸附段石垣の年代観、後述する瓦の在り方からすると、寛永8年大火の被災資料とするのが妥当である。

[2004-1 (2003-8) 地点SK11] (第115図P94～第117図P144)

本遺構は本丸附段の初期遺構面Ⅰ(新)に属する。P94～P96は中国磁器青花碗で、普及品である。

P97～P105 は国産陶器供膳具で、肥前陶器が主体である。碗の形状は端反が目立つ。搦鉢は肥前陶器 (P106) の他、越中瀬戸 (P107～P109) も見られる。本遺構からは土師器皿が多量に出土している (第 117 図)。タイプは C2-I 1 類で占められる。サイズは 12～13cm 台が大多数で、P125・P126 のように 10cm 台以下のものがわずかに存在する。I 1a 類 (P111～P124) と I 1b 類 (P125～P144) がほぼ等量混在して出土しており、層位の上下で比率等に大きな変異は認められないこと等から、両タイプは一定期間並存していたと推測される。これら土師器皿の多くで油煙痕が見られ、用途の最終的な在り方が灯明用であったことを示す。なお金箔を貼ったものも確認されている (P144)。陶磁器・土師器皿の個別・組成の特徴から、これらが廃棄された年代は、寛永 8 年 (1631) 前後と考えられる。

[2004-1 (2003-8) 地点 SK15] (第 119 図)

本遺構は本丸附段の初期遺構面 I (古) に属し、陶磁器類の他魚骨がまとまって出土した。

陶磁器は多くはないが、この段階の組成を代表するものである。P165・P166 は中国磁器青花碗で、普及品と言えるものである。P167 は軟質施釉陶器碗で、天目形を呈する。内面は緑釉、外面は白泥化粧掛け後、高台側から緑釉を流している。P168～P170 は肥前陶器皿・鉢で、P171 は信楽陶器の壺である。P172～P187 は土師器皿で、京都系土師器皿 B2 類 (P172～P175) と、非京都系の C1 類 (P176～P187) の両者が共伴する。京都系 B2 類は口径 15～16cm を測る大型品であるが、いずれも油煙痕が付着している。C1 類は、見込みに強い凹線があり、体部を中折れ気味とするもの (P176～P181)、体部が内湾気味で底面に蓆目状の圧痕がつくもの (P182)、外形が全体的に丸みを帯び、底部と体部の境が目立たないもの (P183～P187) 等に分類される。P188 は焼塩壺、P189 は小型の皿のように図化した。焼塩壺の蓋となる可能性がある。土師器皿は、近世金沢で類例が知られていなかったもので、SK14 (第 118 図 P163・P164)、SK18 (第 120 図 P190～P193) 等とともに貴重な事例である。年代については 17 世紀第 1 四半期でも前半頃 (慶長後期) と推定される。

[2002-3 地点Ⅱ層・2002-5 地点Ⅱ層]

2002-3 地点・2002-5 地点は、遺構の報告では別区域としたが、ともに丑寅槽北側の平坦面に位置しており、17 世紀後半頃の瓦廃棄層 (Ⅱ層) が検出されている。

第 126 図 T1・T2、第 127 図 T20・T21 は軒丸瓦である。連珠三巴文 (T20・T21) の他、無軸梅鉢文 (T1・T2) がある。第 132 図 T56・T57 は軒平瓦で中心飾りが梅鉢文となるもの。T58 は越前赤瓦である。第 136 図 T109～第 137 図 T111、第 140 図 T130～第 141 図 T138 は丸瓦である。T110・T133 等の内面には、玉縁部に密な、体部に列点状の疎らな刺縫痕が認められる。また T132 の上に代表される刻印を伴うものも若干見られる。第 147 図 T167、第 148 図 T176・T177 は平瓦である。T176 は上刻印を伴う。全般的に平瓦の方が刻印は多い。上刻印を伴う平瓦は、前面端部を丁寧なナデで仕上げる特徴をもつ。また本層では図示していないが、この他に磚 (腰瓦) が若干出土している。以上のように本層の特徴は、梅鉢文瓦・越前赤瓦を伴うこと、刻印をもつ平瓦が多いこと、磚が存在していること等が挙げられる。

[2002-22 地点Ⅱ層・2002-23 地点Ⅴ層]

東ノ丸東側、高石垣 1131E の下端に位置する調査地点で、ともに瓦の廃棄層が認められた。第 126 図 T6～T8 の軒丸瓦、第 133 図 T65～T67 の軒平瓦、第 137 図 T114～第 138 図 T119 の丸瓦、第 147 図 T168・T169 の平瓦、第 151 図 T200・T201 の熨斗瓦・棟込瓦等は 2002-22 地点Ⅱ層出土資料である。軒丸瓦は三巴文で巴文間に十字文を配する。軒平瓦は中心飾りが三葉文となるタイプであるが、T66 は後述する 2002-7 地点Ⅵ層・2004-1 (2003-8) 地点 SK11 等で主体をなす大型品で、脇の唐草文の反転も大きい。一方 T65・T67 は小型で、脇の唐草文がやや形骸化している。丸瓦にも大振りのもの (体部幅 15cm 以上、T114 等) と細身のもの (T116 等) とが見られる。第 126 図 T9～第 127 図 T19 の軒丸瓦、第 133 図 T68～T72 の軒平瓦、第 138 図 T120～第 139 図 T123 の丸瓦、第 147 図 T170～T173 の

平瓦等は、2002-23 地点V層出土資料で、軒平瓦の様構成や、薄手・細身の丸瓦 (T122)・平瓦 (T170) を含むこと等、2002-22 地点II層と類似した内容である。軒丸瓦では、2002-22 地点II層では顕著でなかった小振り・右巻三巴文 (T13~T17、瓦当径 13~14cm) が目立つ。

以上の特徴は、石川橋盛土 3 [伊藤 1997] 出土資料と類似する。盛土 3 は肥前磁器や土師器 C2-I 類でも後出的な一群が共存しており、1640 年前後の廃棄年代が考えられる。当該資料にも当てはまるように思えるが、強い熱を受けた個体もあり、寛永 8 年 (1631) の大火被災資料の再利用、あるいは二次堆積という見方も否定できないため、確定は避けておきたい。

[2002-7 地点VI層]

先に陶磁器の様相について触れたが、出土量としては瓦が極めて多い。また熱を受けている瓦が多い。陶磁器と同じく、本来VI層に属していたと思われる上層出土資料も合わせて掲載した。第 128 図 T22~T28 の軒丸瓦は左巻三巴文で、小振りなもの、十字文をもつものは見られない。第 133 図 T73~第 134 図 T79 は軒平瓦である。文様は、唐草文が強く複雑に反転する三葉文が主体である。第 142 図 T139~T142 は丸瓦、第 149 図 T181・T182 は平瓦で、ともに重厚なもので占められる。丸瓦の凹面に残る切り離し痕は、認識できるものはほぼコビキ B である。

平成 17 年度に調査した本丸西側の堀、2004-1 (2003-8) 地点 SX02、同地点 SK13 周辺等、本丸の火災があった元和 6 年 (1620) 頃に廃絶したと思われる遺構出土資料は、金箔軒丸瓦 (第 130 図 T39・T40)、桐文軒平瓦 (第 134 図 T89)、コビキ A の丸瓦、極めて厚手の平瓦 (第 150 図 T189) 等が目立ち、本資料群や後述する SK11 出土資料と異なる。これらから本資料は、寛永 8 年 (1631) の火災に係り廃棄されたものと考えられる。

[2004-1 (2003-8) 地点 SK11]

本遺構からは、調査区東壁際北側の一角から瓦がまとまって出土した。第 129 図 T33~T38 の軒丸瓦、第 134 図 T85~T88 の軒平瓦、第 143 図 T147~第 144 図 T152 の丸瓦、第 149 図 T184~第 150 図 T188 の平瓦等がある。軒平瓦の様構成、丸瓦・平瓦の形状等、全体の特徴は 2002-7 地点VI層と類似している。火災を受けた痕跡は明瞭ではないが、陶磁器の組成や、遺構埋立の状況等から、寛永 8 年 (1631) の大火前後の廃棄年代が考えられる。

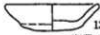
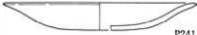
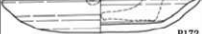
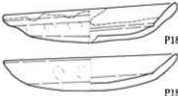

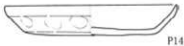
[2004-6 地点V層]

三十間長屋の西側に位置する 2004-6 地点の V 層は、越前赤瓦を主体とする瓦が大量に含まれる。第 131 図 T51~T53・第 132 図 T55 の軒丸瓦、第 135 図 T101~第 136 図 T108 の軒平瓦、第 146 図 T160~T165 の丸瓦、第 150 図 T191~T196 の平瓦等が出土している。このうち T51 は無軸梅鉢文の軒丸燻し瓦である。越前赤瓦の瓦当文様としては、軒丸には左巻・右巻の三巴文、軒平には中心飾りが半葉文となるものが見られる。軒平瓦の場合、半葉文の葉脈表現、唐草文の形骸化等により、時期的な変化を窺わせる差異があり、丁寧な造作をもつ一群 (T102・T105・T108)、前者より形骸化傾向にある一群 (T103・T104・T106) に大別できる。T102・T105 等は、福井県越前町所在の上鍵谷窯跡採集資料や福井城下町遺跡に同范品が認められる¹⁾。燻し瓦は少量であるが、上記の梅鉢文軒丸瓦の他、磚 (腰瓦) 等がある。

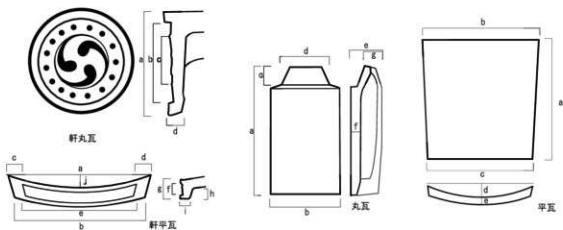
越前赤瓦の占める割合は異なるが、梅鉢文・磚等の在り方から、前述した 2002-3・5 地点II層と同じ頃廃棄されたと考えられる。IV~V層からは少量であるが、17 世紀後半頃の陶磁器 (第 124 図 T251・T252) が伴出しており、年代の一端を示している。

註

1) 上鍵谷窯跡・福井城下町遺跡資料との照合については、堀大介 (越前町教育委員会)・河村健史 (福井県教育庁埋蔵文化財調査センター) の両氏に御協力頂き、吉岡康暢・久保智康・森島康雄各氏と共に検討したものである。

A 在地系 京都系流入以前からの系統を引くもの				~16C末	
B 京都系	1 概して薄手			~16C末	
	2 概して厚手			~17C初	
C 京都系要素が 顕著でないもの 京都系終焉前後 に形成か	1 京都系(B2)と共伴 17世紀初以後不明瞭 形状多様				17C初 慶長頃?
	2 17世紀前半 以後へ連続	I 1 底部平坦、体部 立ち上がり急、 口縁端内屈	a 底部内面 一方向条痕 底部外面 指押さえ痕		17C初~ 元和頃~
		17世紀前半以後 の主たる系統	b 底部内面 不定方向ナゲ 板(筵)目状 圧痕 底部外面		17C前半 寛永頃

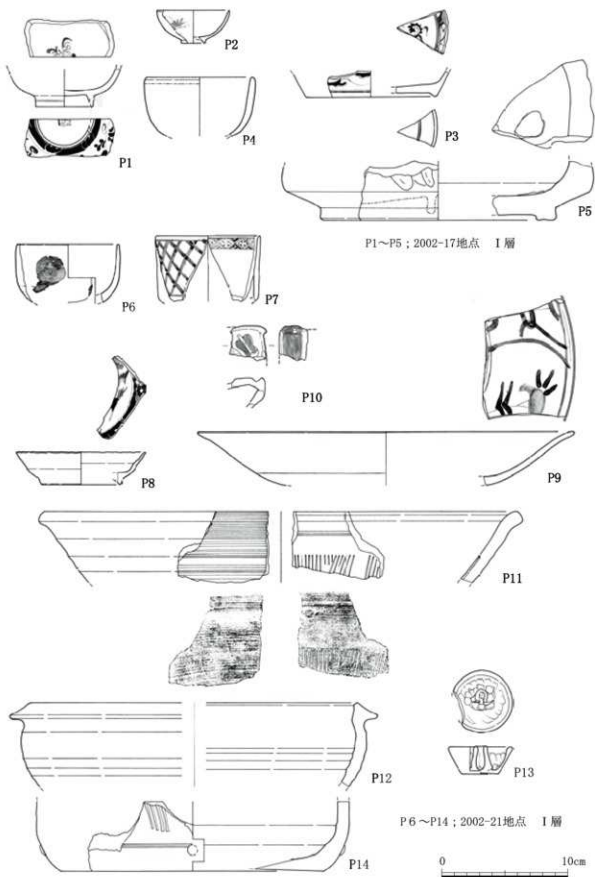
土師器皿の分類



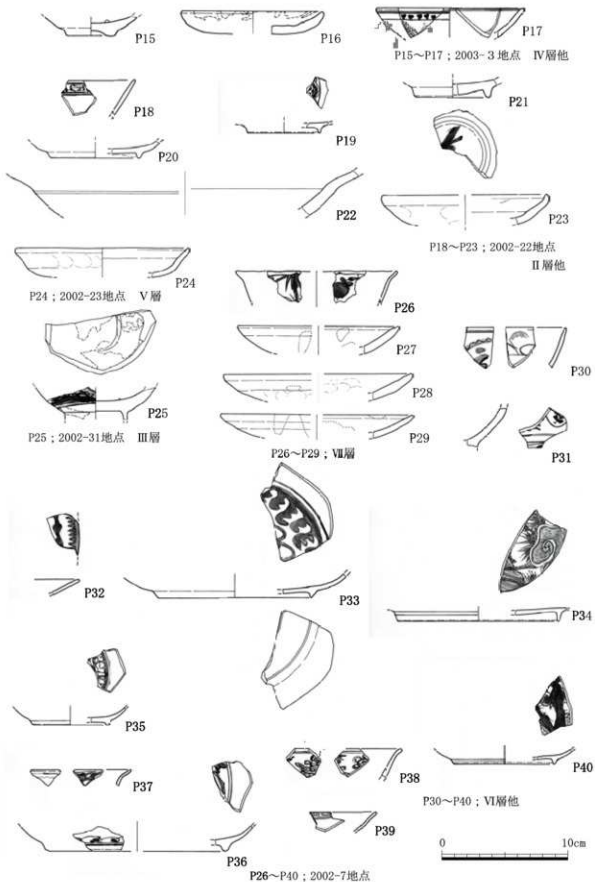
瓦計測部位

- 軒丸瓦(軒部) a 瓦当径 b 文様区径 c 内区径 d 瓦当厚
 軒平瓦(軒部) a 上弧幅 b 下幅 c 右周縁 d 左周縁 e 文様区幅
 f 文様区厚 g 瓦当厚 h 頸高 i 頸下部厚 j 弧深
 丸瓦 a 全長 b 体部幅 c 玉縁長 d 玉縁幅 e 体部高
 f 体部厚 g 玉縁高
 平瓦 a 全長 b 広端幅 c 狭端幅 d 弧深 e 厚

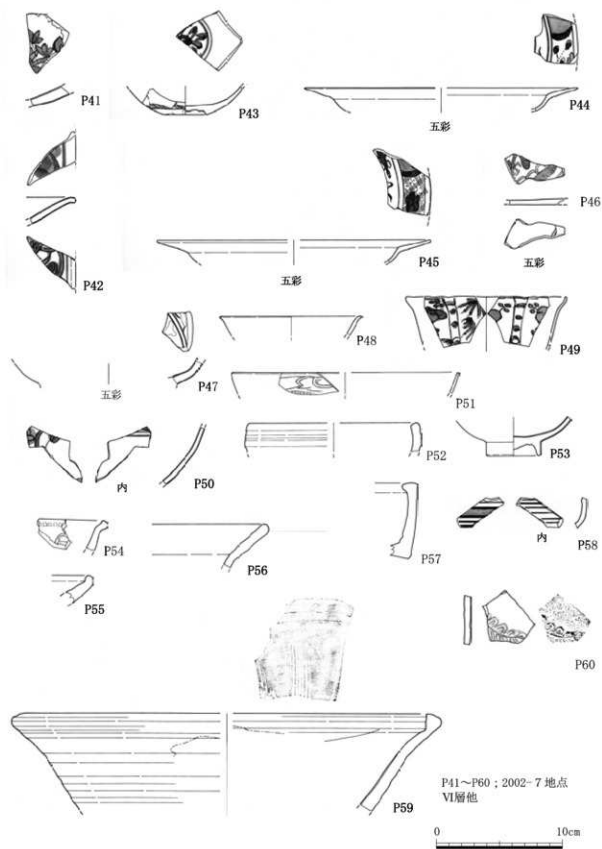
第110図 土師器皿の分類・瓦計測部位



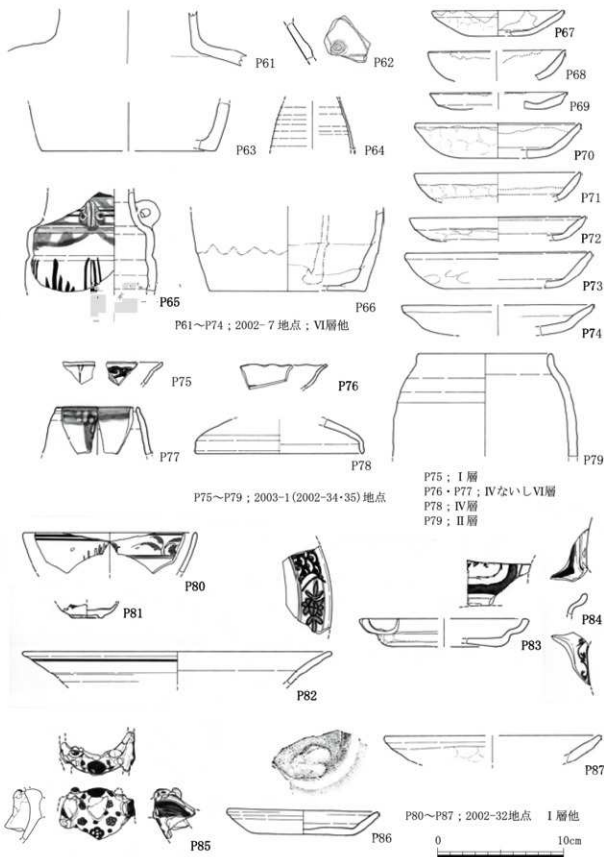
第111图 出土遺物実測図 陶磁器 (1) (S=1/3)



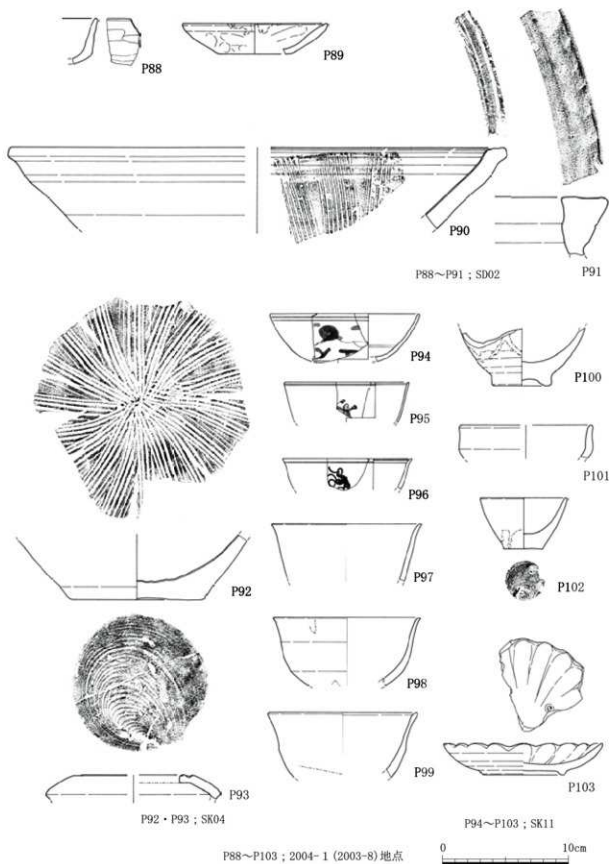
第112図 出土遺物実測図 陶磁器(2) (S=1/3)



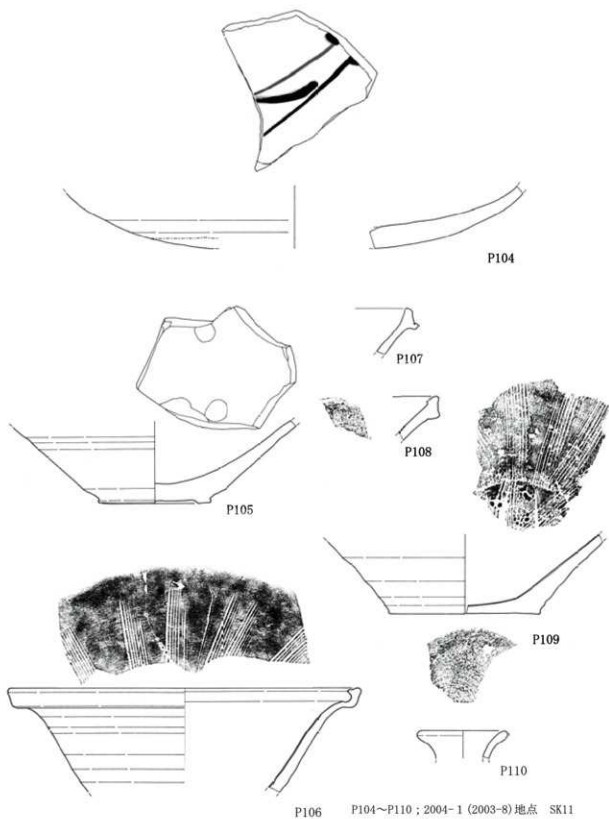
第113図 出土遺物実測図 陶磁器 (3) (S=1/3)



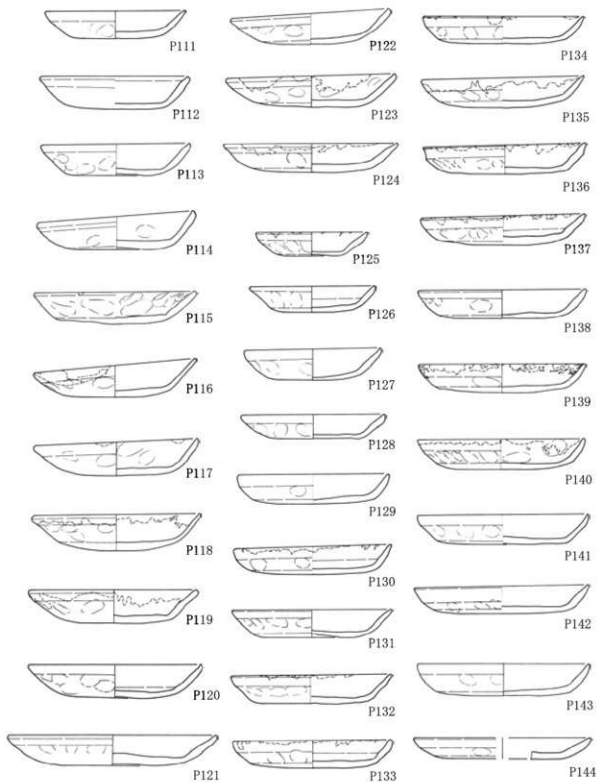
第114図 出土遺物実測図 陶磁器(4) (S=1/3)



第115图 出土遗物实测图 陶磁器 (5) (S=1/3)



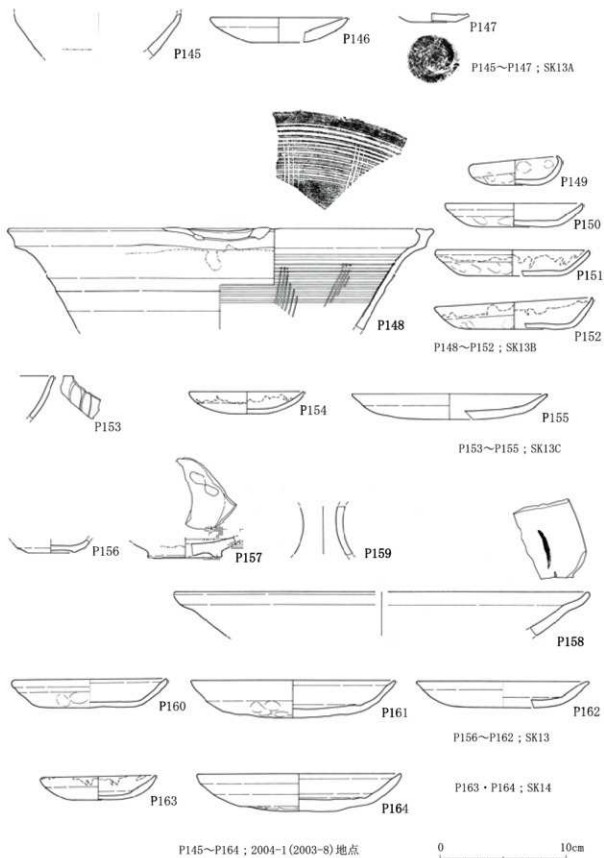
第116图 出土遺物実測図 陶磁器(6) (S=1/3)



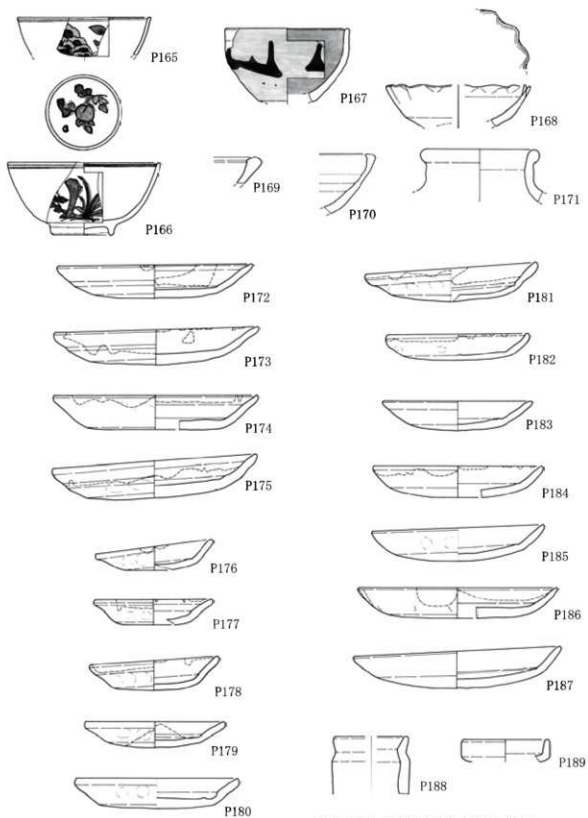
P111~P144; 2004-01(2003-8)地点 SK11



第117图 出土文物实测图 陶磁器(7) (S=1/3)



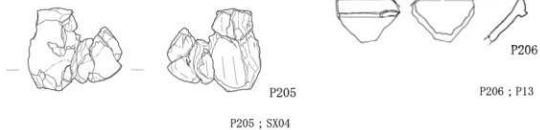
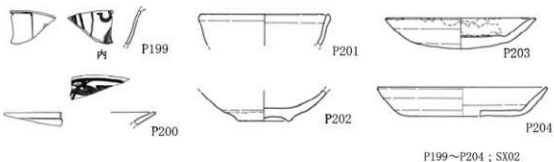
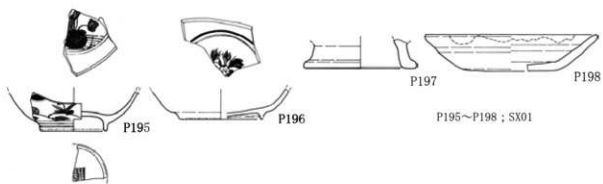
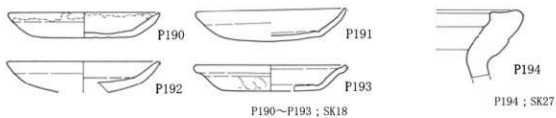
第118图 出土遺物実測図 陶磁器 (8) (S=1/3)



P165~P189; 2004-1(2003-8)地点 SK15

0 10cm

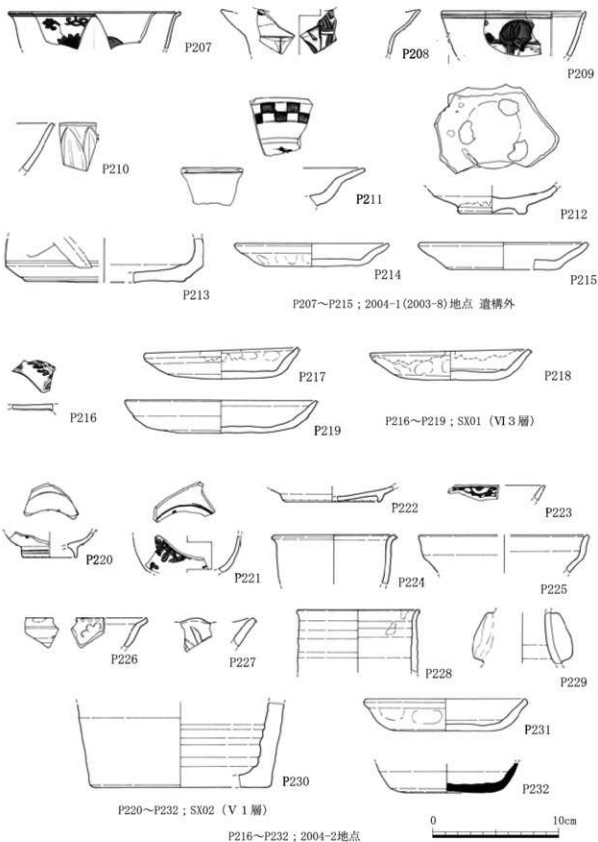
第119图 出土遗物实测图 陶磁器(9) (S=1/3)



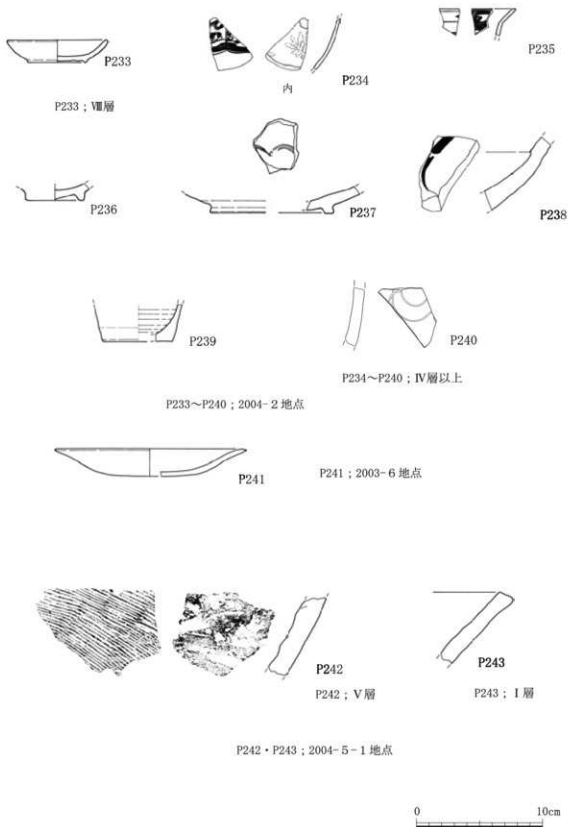
P190~P206; 2004-1 (2003-8) 地点



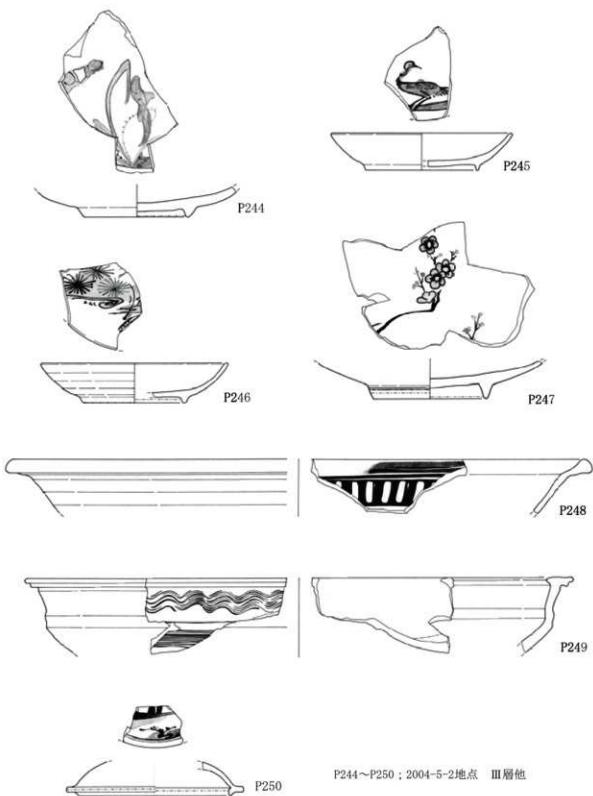
第120图 出土物実測図 陶磁器 (10) (S=1/3)



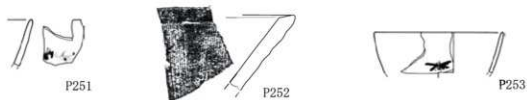
第121図 出土遺物実測図 陶磁器 (11) (S=1/3)



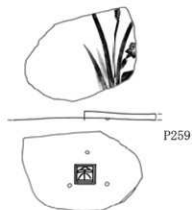
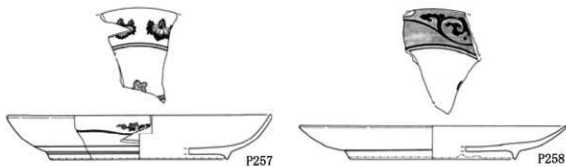
第122図 出土遺物実測図 陶磁器 (12) (S=1/3)



第123図 出土遺物実測図 陶磁器 (13) (S=1/3)



P251・P252；IV・V層

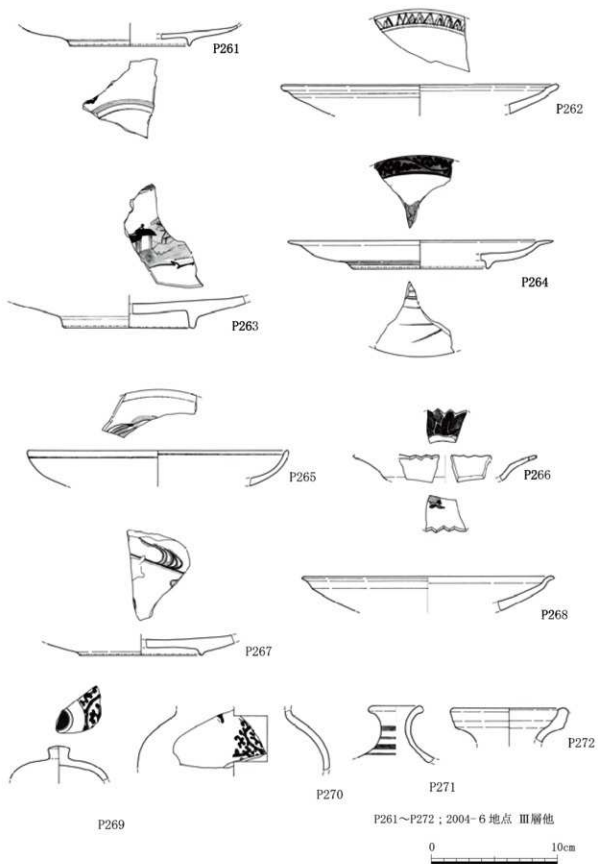


P253~P260；III層他

P251~P260；2004-6地点



第124图 出土遺物実測図 陶磁器 (14) (S=1/3)



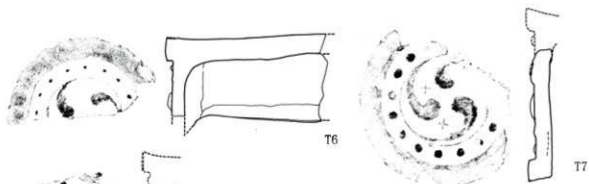
第125図 出土遺物実測図 陶磁器 (15) (S=1/3)



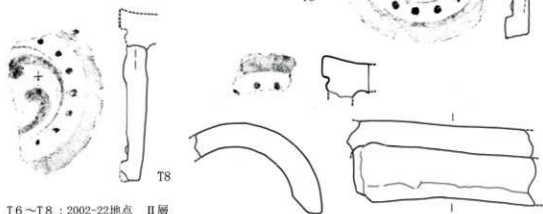
T1・T2；2002-3地点 II層



T3～T5；2003-3地点
IV層



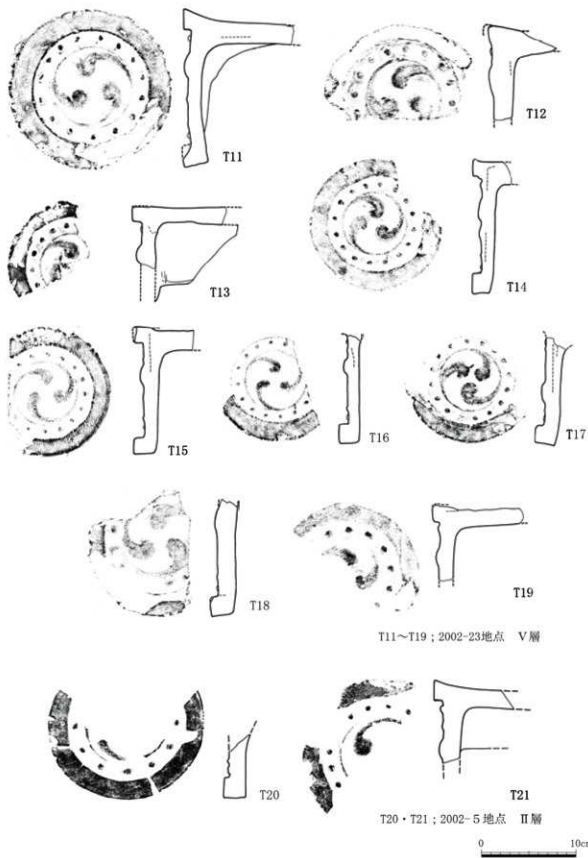
T6～T8；2002-22地点 II層



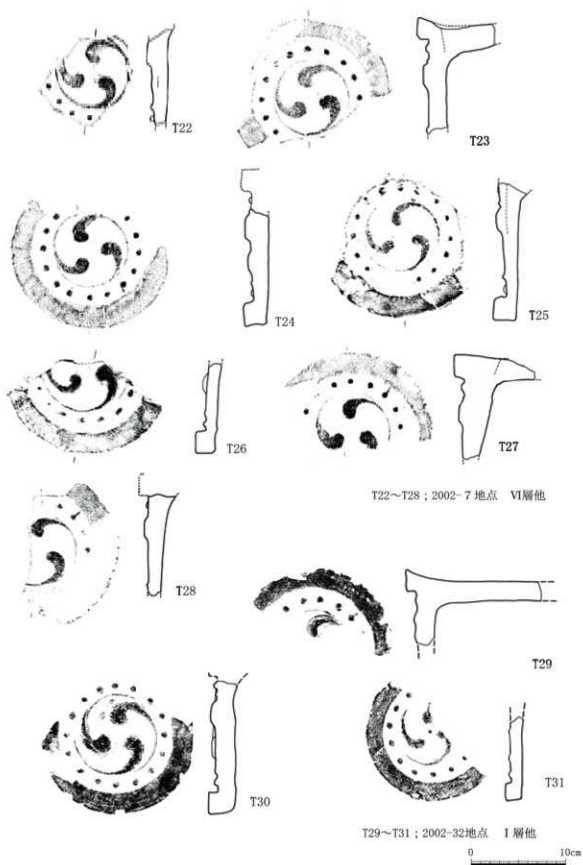
T9・T10；2002-23地点 V層

0 10cm

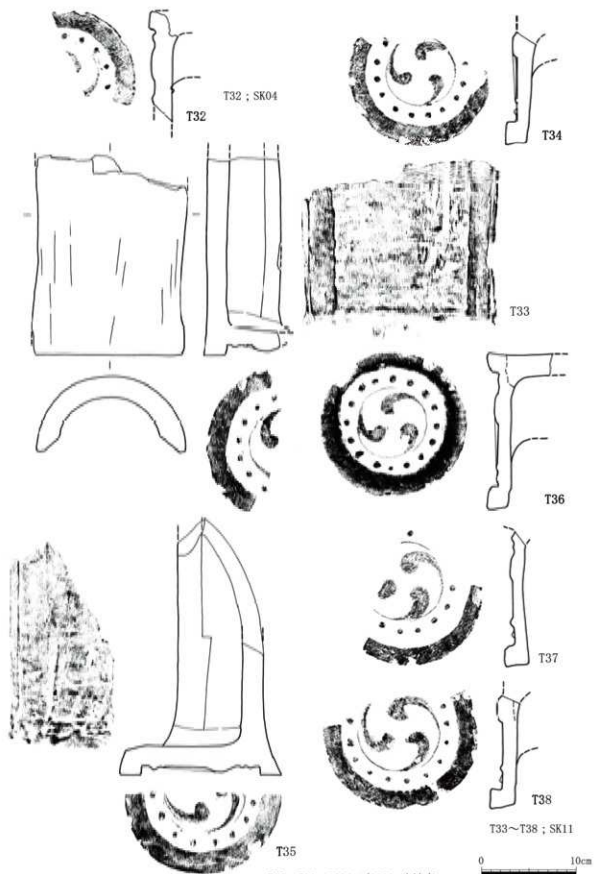
第126図 出土遺物実測図 瓦(1) (S=1/4)



第127图 出土遺物実測図 瓦(2) (S=1/4)

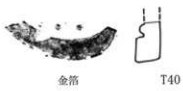
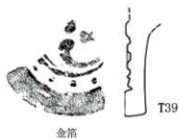


第128図 出土遺物実測図 瓦(3) (S=1/4)

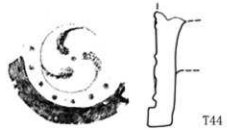
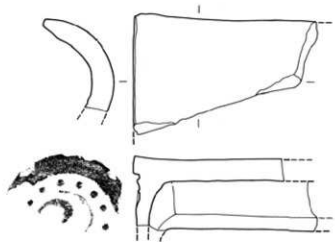
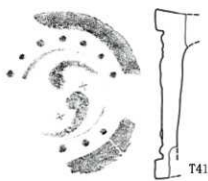


T32~T38 ; 2004-1 (2003-8) 地点

第129图 出土遺物実測図 瓦 (4) (S=1/4)



T39・T40 ; SX02

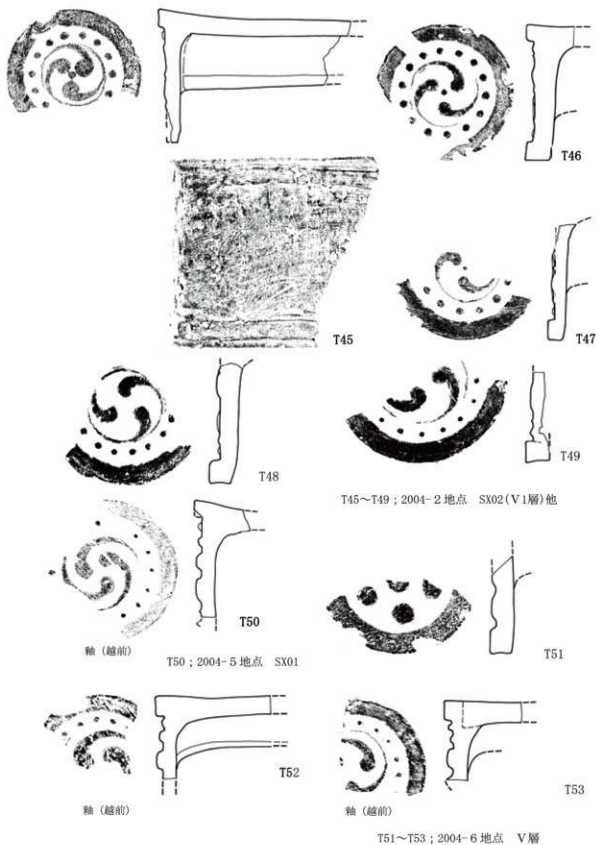


T41~T44 ; W5区他遺構外

T39~T44 ; 2004-1 (2003-8) 地点

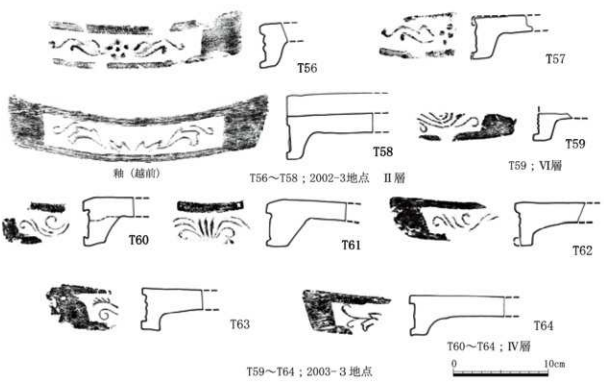
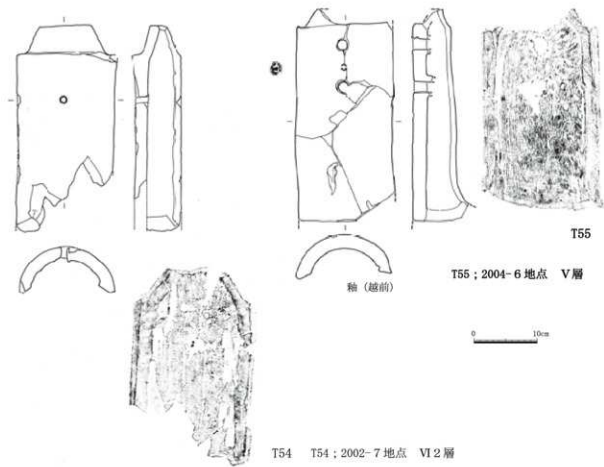


第130図 出土遺物実測図 瓦(5) (S=1/4)

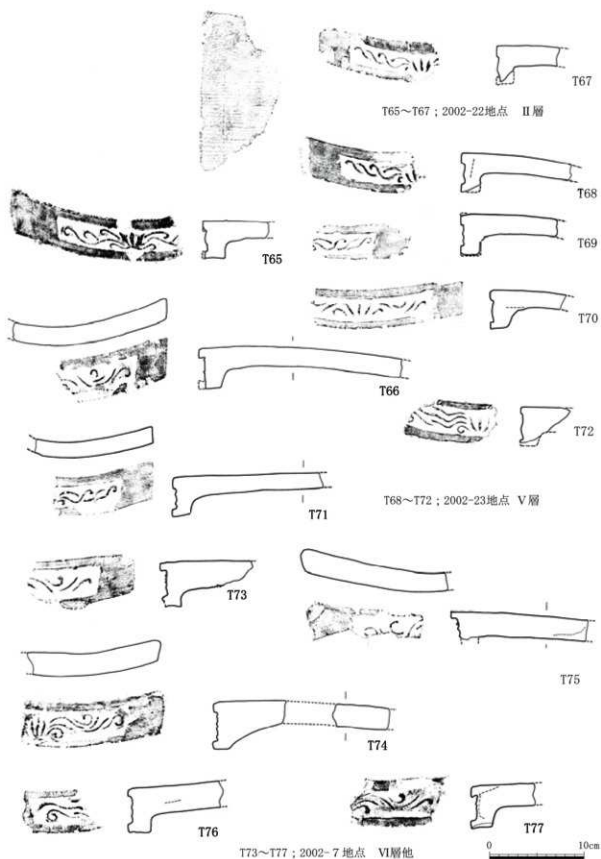


第131图 出土遺物実測図 瓦 (6) (S=1/4)

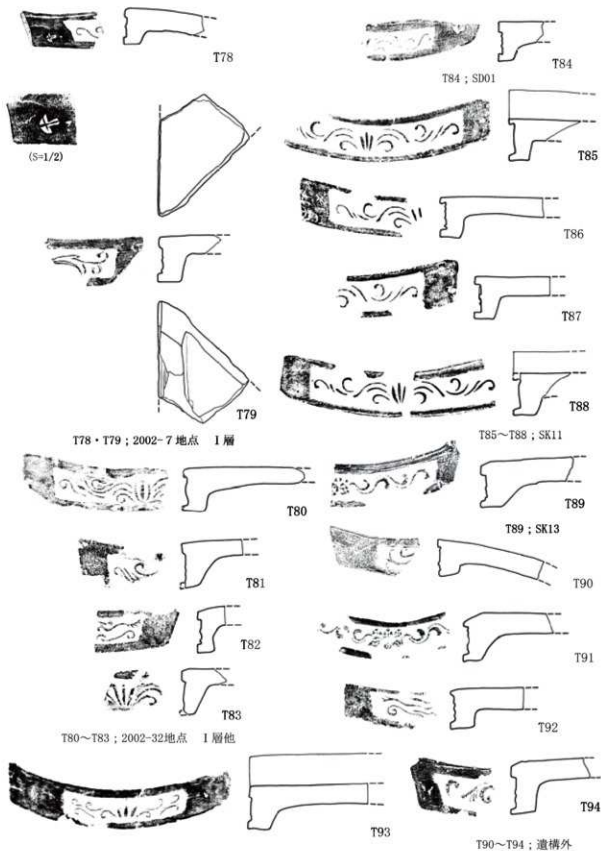
0 10cm



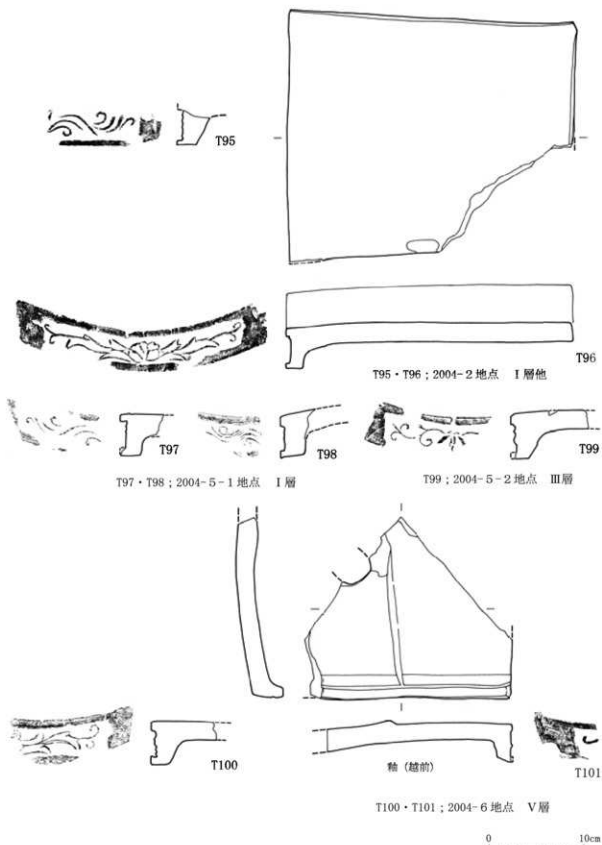
第132図 出土遺物実測図 瓦(7) (S=1/4、1/6)



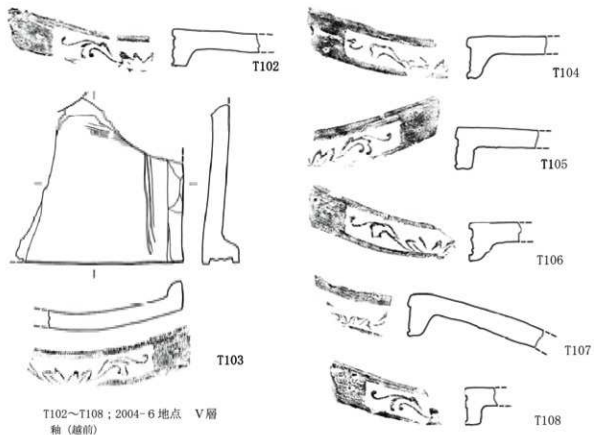
第133图 出土遺物実測図 瓦(8) (S=1/4)



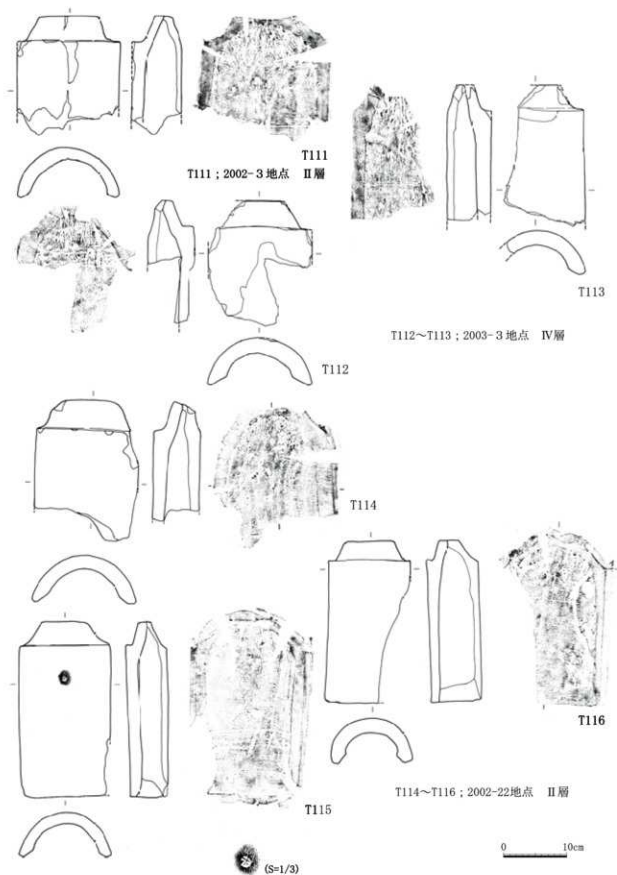
第134図 出土遺物実測図 瓦(9) (S=1/4)



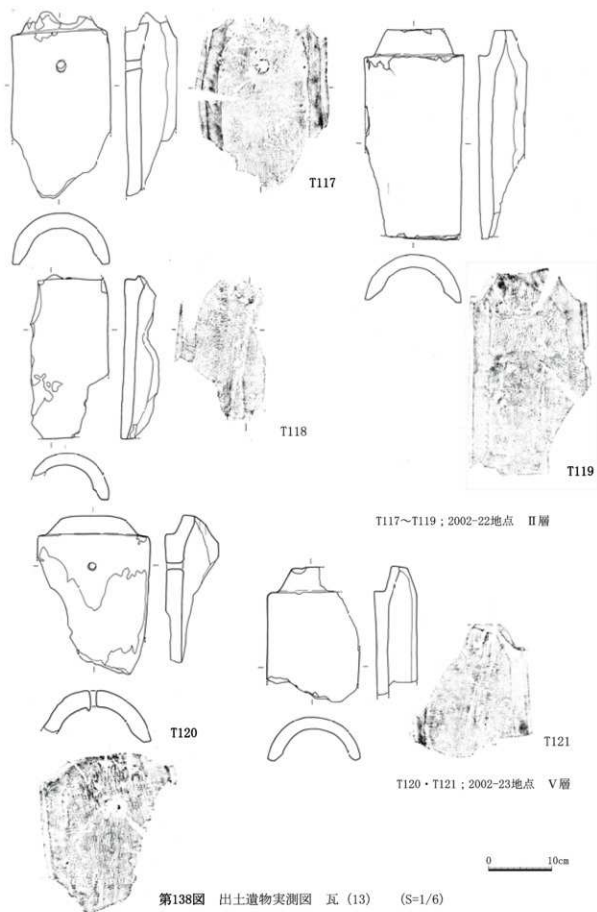
第135図 出土遺物実測図 瓦 (10) (S=1/4)



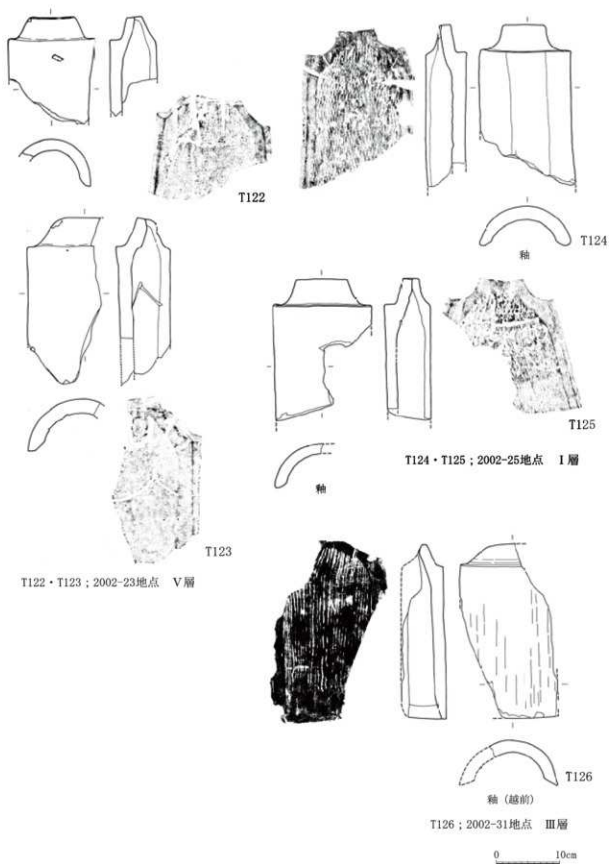
第136図 出土遺物実測図 瓦 (11) (S=1/4、1/6)



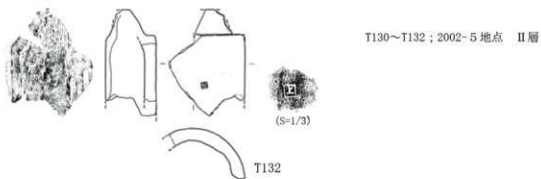
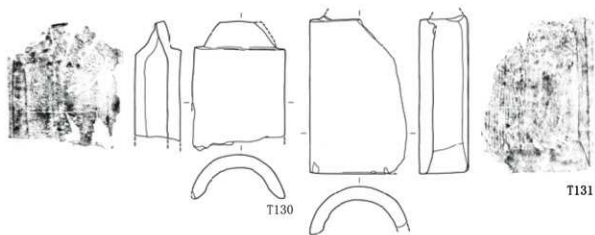
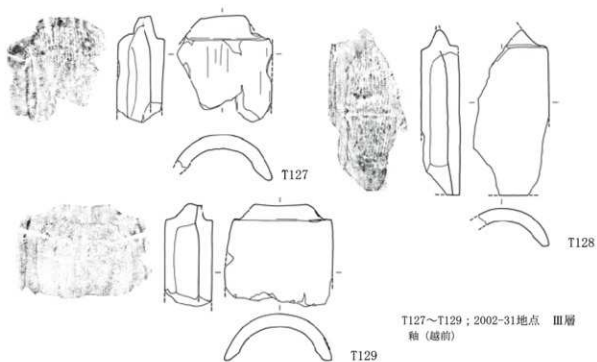
第137图 出土遺物実測図 瓦 (12) (S=1/6)



第138図 出土遺物実測図 瓦 (13) (S=1/6)

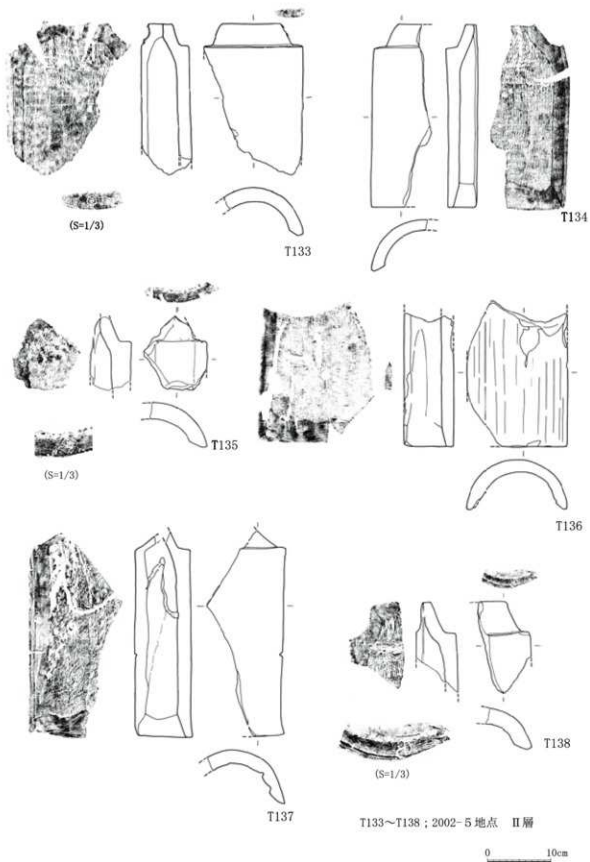


第139図 出土遺物実測図 瓦 (14) (S=1/6)

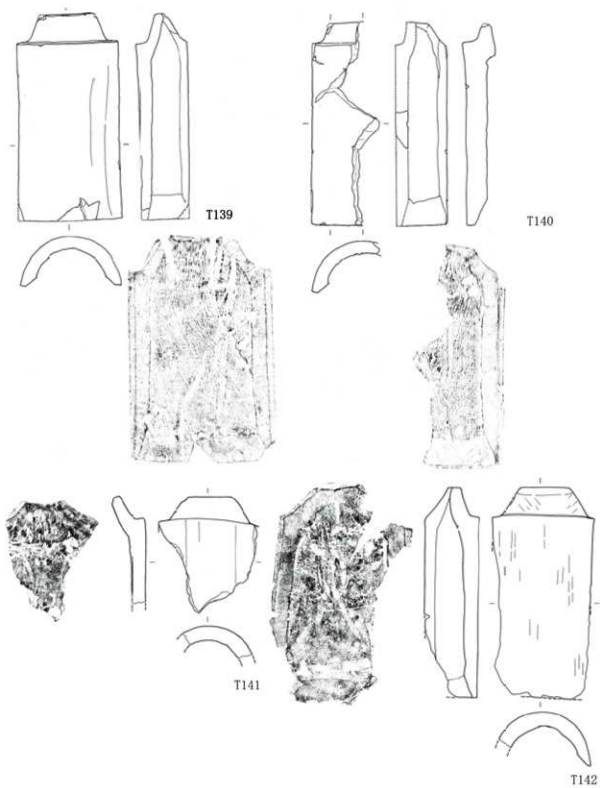


0 10cm

第140図 出土遺物実測図 瓦(15) (S=1/6)



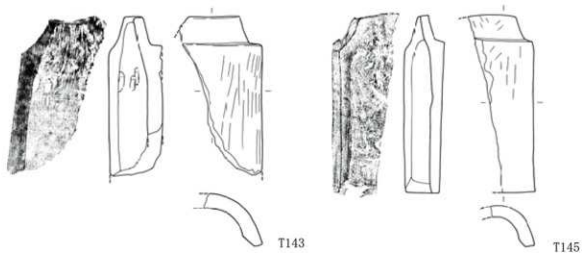
第141图 出土遺物実測図 瓦 (16) (S=1/6)



T139~T142 ; 2002-7 地点 VI 2 層

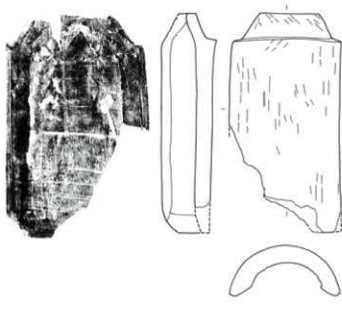
0 10cm

第142図 出土遺物実測図 瓦 (17) (S=1/6)



T143

T145

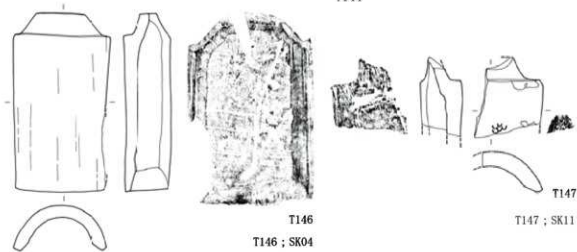


T144

T143 : SD01裏込

T144・T145 ; 1層

T143~T145 ; 2002-32地点



T146

T147

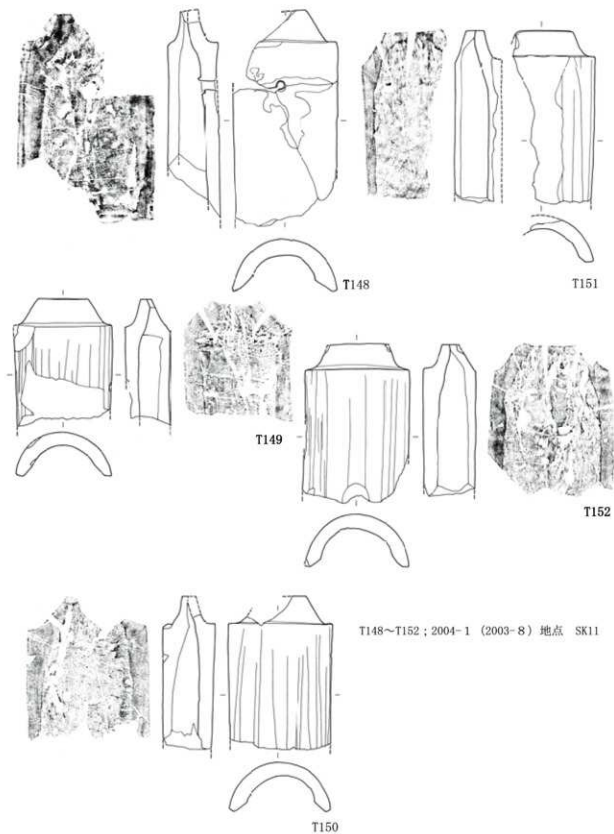
T146 ; SK04

T147 ; SK11

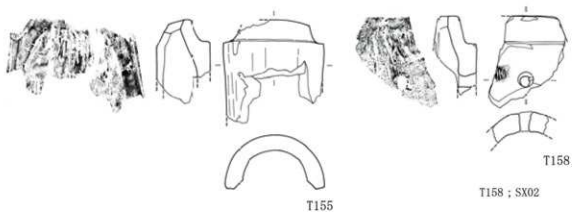
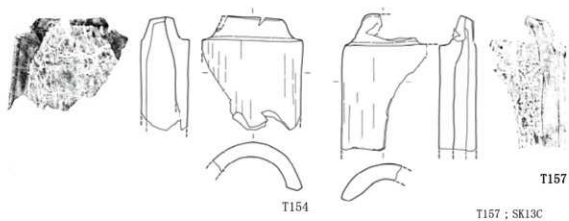
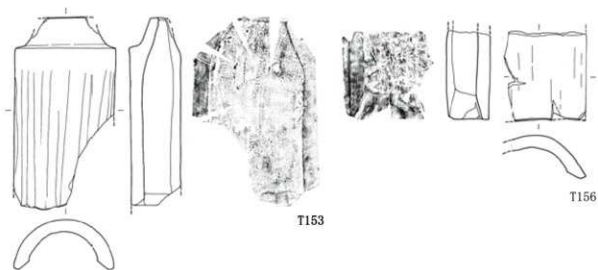
T146・T147 ; 2004-1 (2003-8) 地点

0 10cm

第143图 出土遺物実測図 瓦 (18) (S=1/6)



第144図 出土遺物実測図 瓦 (19) (S=1/6)

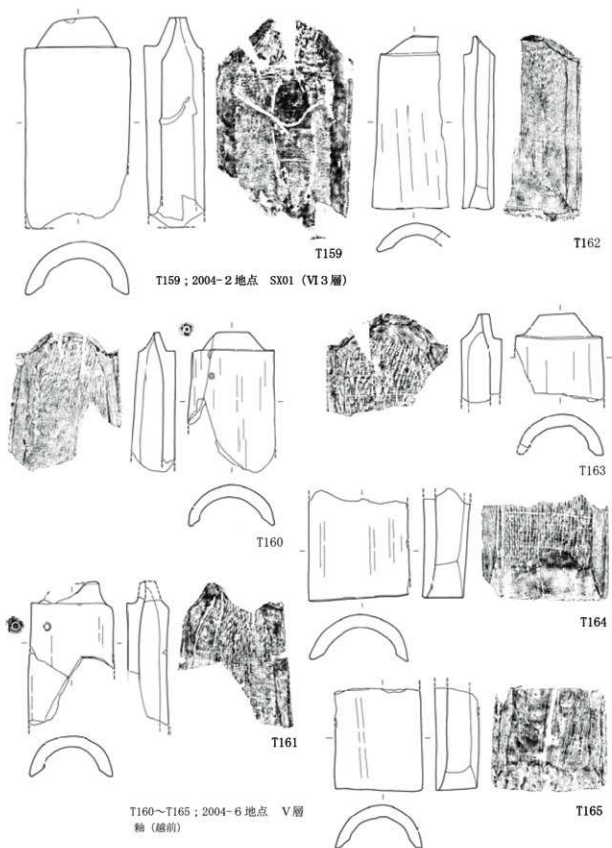


T153~T156 ; SK11

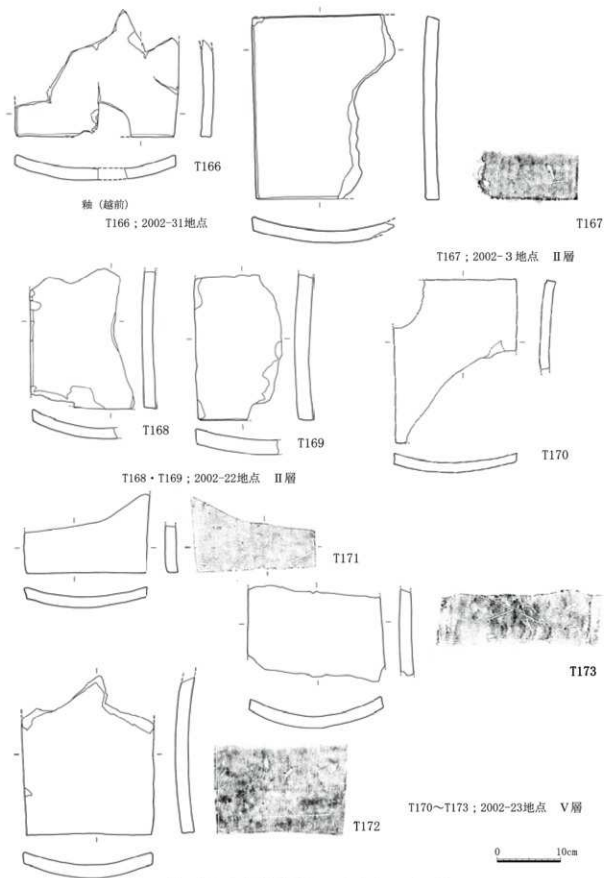
T153~T158 ; 2004-1 (2003-8) 地点

0 10cm

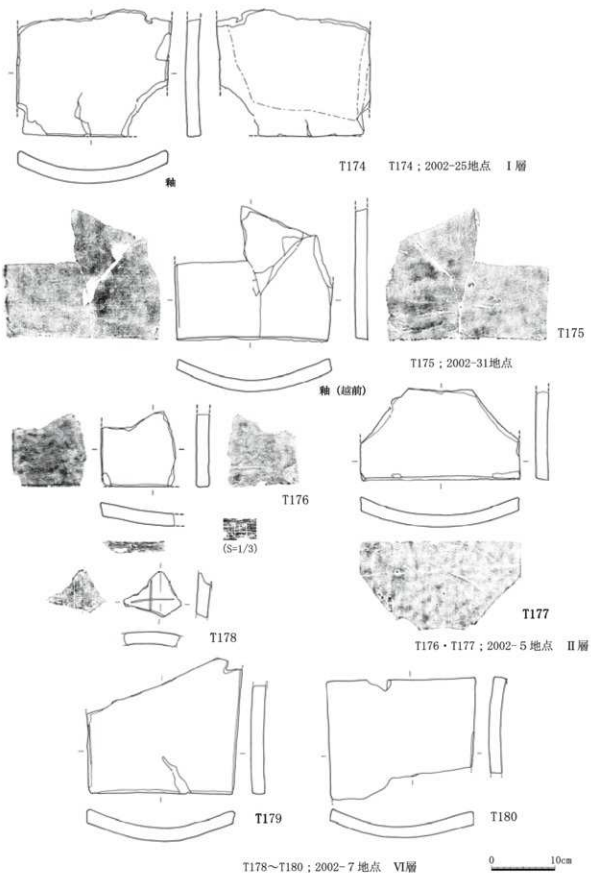
第145图 出土遺物実測図 瓦 (20) (S=1/6)



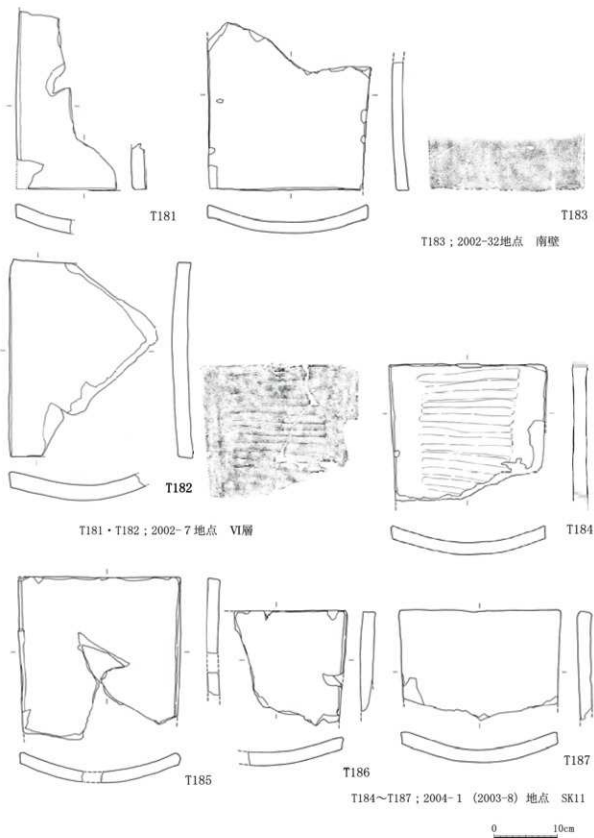
第146図 出土遺物実測図 瓦 (21) (S=1/6)



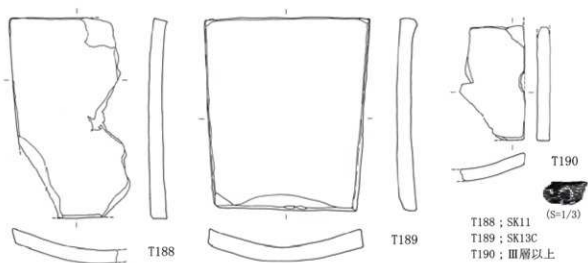
第147図 出土遺物実測図 瓦 (22) (S=1/6)



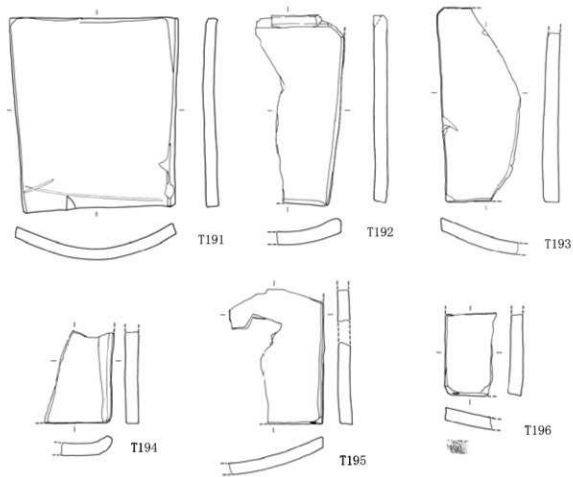
第148図 出土遺物実測図 瓦 (23) (S=1/6)



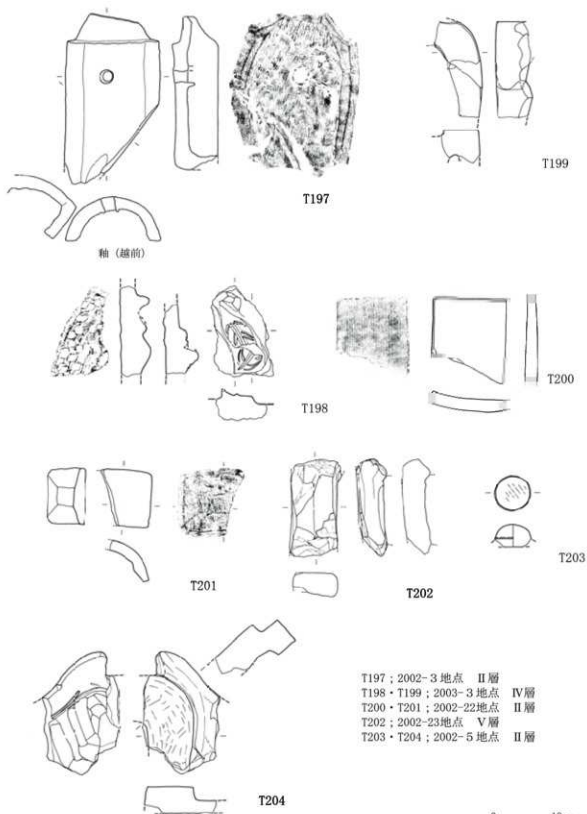
第149図 出土遺物実測図 瓦 (24) (S-1/6)



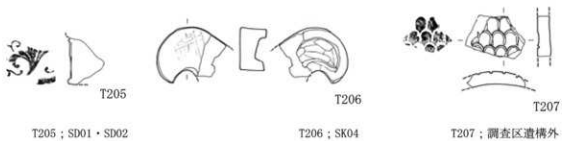
T188~T190; 2004-1 (2003-8)地点



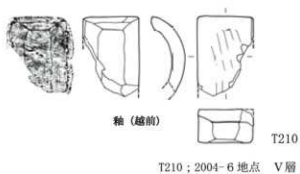
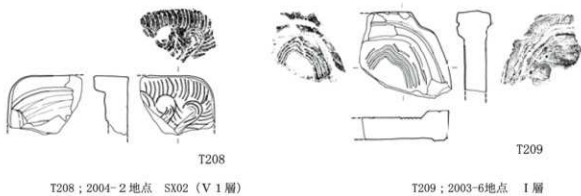
第150図 出土遺物実測図 瓦 (25) (S=1/6)



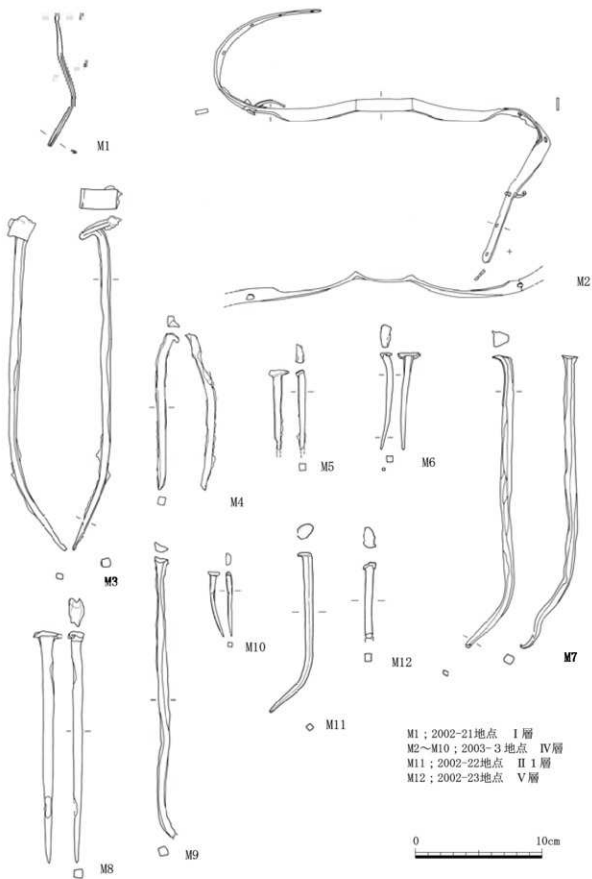
第151図 出土遺物実測図 瓦 (26) (S=1/6)



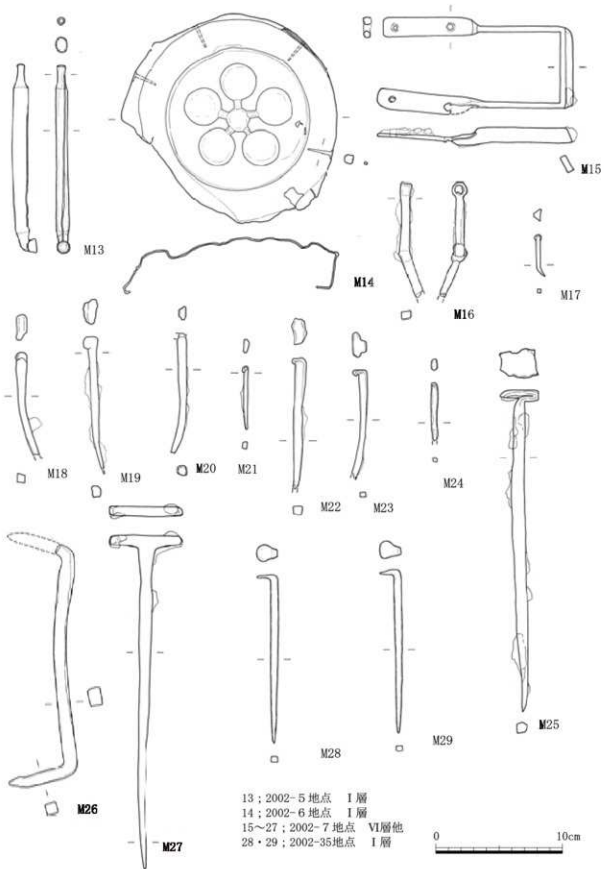
T205~T206 ; 2004-1 (2003-8) 地点



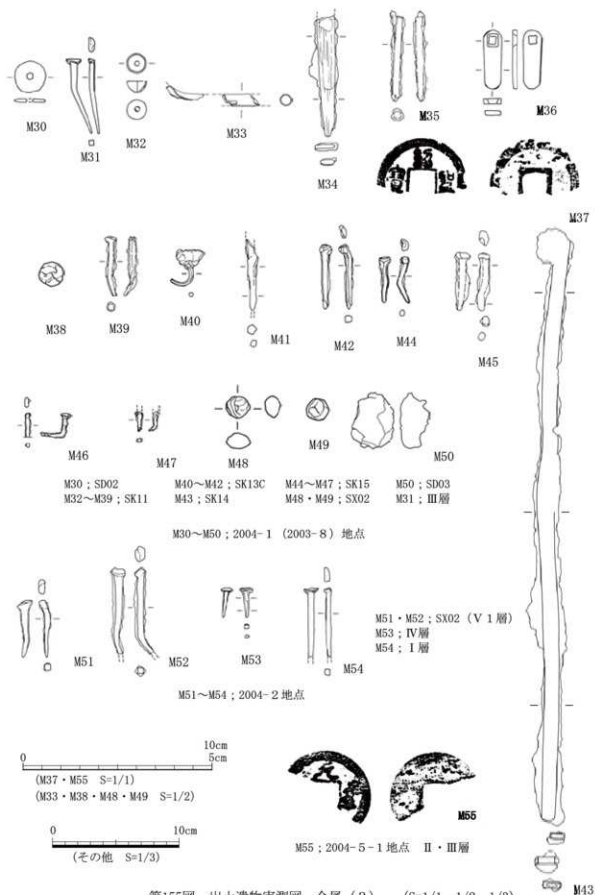
0 10cm



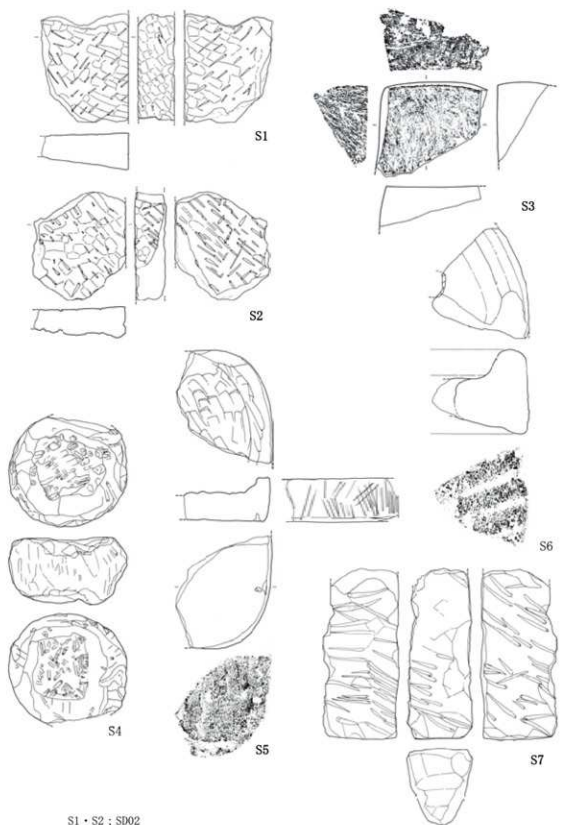
第153图 出土遺物実測図 金属(1) (S=1/3)



第164図 出土遺物実測図 金属(2) (S=1/3)



第155図 出土遺物実測図 金属(3) (S=1/1、1/2、1/3)



S1・S2；SD02

S3；SK13B

S4；SK20

S5；SK26

S6；SX02

S1～S6；2004-1（2003-8）地点

S7；2004-2地点 SX02（V 1層）

第156図 出土遺物実測図 石製品 (S=1/4)

0 10cm

第3表 陶磁器類表1

図	組No.	調査年	地区名	区名	遺傳・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	底部・蓋部	軸差・裝飾等	胎土・O内色調	産地	支那No.	IDNo.	特記事項
111	P1	2002	17		I層	磁器	碗	丸形		4.6	コクロ	染付	密窓(灰白)	瀬戸・美濃	H1704	200201-0034		
	P2	2002	17		I層	磁器	小碗	残半球形	5.8	1.9	2.7	染付	密窓(白)	肥前	H1702	200201-0032		
	P3	2002	17		I層	磁器	鉢	楕円形		10.2	コクロ	染付+白磁土(胎)	密窓(白)	肥前	H1703	200201-0033	被熱	
	P4	2002	17		I層	陶器	碗	丸形	8.4		コクロ	灰欄(灰牙)一 フ	細砂(淡黄~灰)	再興九谷	H1705	200201-D146		
	P5	2002	17		I層	陶器	水鉢		18.4		コクロ	灰欄(灰白)	粗(灰白)	瀬戸・美濃	H1706	200201-D147	被熱	
	P6	2002	21-1		I層	磁器	碗	丸形	8.1		コクロ	染付(印用)	密窓(灰白)	肥前	H1708	200201-0038	被熱	
	P7	2002	21-1		I層	磁器	碗	半球形	8.2		コクロ	染付	密窓(灰白)	肥前	H1705	200201-0035		
	P8	2002	21-1		I層	磁器	皿	波状口縁	10.2	6.3	2.6	コクロ	染付	密窓(灰白)	肥前	H1707	200201-0037	被熱
	P9	2002	21-2		I層	磁器	皿		30.0		コクロ	染付	密窓(灰)	肥前	H1709	200201-0039		
	P10	2002	21-1		I層	磁器	水筒				コクロ	型作り	密窓(灰白)	肥前	H1706	200201-0036		
	P11	2002	21-1		I層	陶器	楕円鉢	口縁外反	38.0		タタキ	全面鉄軸	細砂多(灰)	肥前	H1720	200201-D151		
	P12	2002	21-1		I層	陶器	鉢		26.2		コクロ	外面鉄泥	細砂・霰(灰褐~ 灰赤)	越前	H1708	200201-D149		
P13	2002	21-1		I層	土器	梁筒	無台	4.9	2.9	2.3	手づくり	精良(純粉)	在地	H1709	200201-D150			
P14	2002	21-1		I層	土器	火鉢			21.0		輪転→ 回転台	粗砂・霰(純黄橙 ~純橙)	在地	H1707	200201-D148			
112	P15	2003	3-2		IV層	陶器	碗		11.2	3.9	コクロ	灰欄(牙)一フ	堅緻(橙)	肥前	H1804	200301-0004		
	P16	2003	3-2		IV層	土器	皿	C2-1 la			手づくり	細砂(黄黄橙)	在地	H1805	200301-0005	油煙痕		
	P17	2003	3-1		I層	磁器	皿	基筒底	11.6		コクロ	青花	気泡(淡黄)	漳州窯	200301-0002	小野仁群		
	P18	2002	22		II2層	磁器	碗			5.7	コクロ	青花	密窓(灰白)	京巻窯	200201-0024	被熱		
	P19	2002	22		II2層	磁器	皿			5.7	コクロ	青花	密窓(白)	京巻窯	200201-0023			
	P20	2002	22		經面精査	磁器	皿	端反		7.0	コクロ	白磁	密窓(白)	中国	H18025	200201-0025		
	P21	2002	22		II2層	陶器	皿			5.9		灰欄 底部外面 露筋	密窓(灰黄)	不明	H18026	200201-0026	息込輪底台車 燒名成 底部外 面露筋	
	P22	2002	22		II2層	陶器	平鉢				コクロ	灰軸	細砂(灰黄~揚 灰)	肥前	H1703	200201-D144		
P23	2002	22		II3層	土器	皿	C2-1 1	13.0		手づくり		霰・粗砂・海綿骨 片(純黄橙)	在地	H18027	200201-0027			
P24	2002	23		V層	土器	皿	C2-1 1	13.8		手づくり		粗砂・赤色粉・海綿 骨片(純黄橙)	在地	H18028	200201D-028			

単位:cm

第4表 陶磁器観察表2

図	標本	調査年	地点	区分	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	胎土・表胎等	胎土・内色調	産地	実測No.	IDNo.	特記事項
112	P25	2002	31		Ⅲ層	磁器	碗	丸形	4.0			ロクロ	染付	緑瓷(白)	肥前	H17810	200201-0040	被熱 船瓦器 着
	P26	2002	7		Ⅷ層	磁器	鉢	輪花	12.8			ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16901	200201-0001	芙蓉手
	P27	2002	7		Ⅷ層	土器	皿 B2	B2	12.8			手づくね		細砂(黄灰緑)	在地	H16502	200201D002	油煙瓶
	P28	2002	7		Ⅷ層	土器	皿 B2	B2	14.9			手づくね		細砂(黄灰)	在地	H16303	200201D003	油煙瓶
	P29	2002	7		Ⅷ層	土器	皿 B2	B2	15.3			手づくね		細砂(黄灰)	在地	H16301	200201D001	油煙瓶
	P30	2002	7		Ⅷ1層	磁器	碗	丸形				ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16906	200201-0006	
	P31	2002	7		Ⅰ層	磁器	碗?					ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16817	200201-0017	
	P32	2002	7		V12層	磁器	皿					ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16902	200201-0002	
	P33	2002	7		V11層	磁器	皿		12.4			ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16905	200201-0005	
	P34	2002	7		Ⅲ2層	磁器	皿		12.8			ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16908	200201-0007	
	P35	2002	7		Ⅲ2層	磁器	皿		6.1			ロクロ	青花	緑瓷(白)	景徳鎮	H16907	200201-0008	
	P36	2002	7		北ST IV層	磁器	皿	輪花	14.7			ロクロ型打	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16811	200201-0011	被熱
	P37	2002	7		北ST Ⅲ1層	磁器	皿					ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16810	200201-0010	
	P38	2002	7		Ⅰ層	磁器	皿	染反				ロクロ	青花	気泡(灰白)	景徳鎮	H16814	200201-0014	小野B1群
	P39	2002	7		Ⅰ層	磁器	皿					ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16815	200201-0015	
	P40	2002	7		Ⅰ層	磁器	皿		8.1			ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16816	200201-0016	被熱
113	P41	2002	7		V12層	磁器	皿					ロクロ	白泥+青花	緑瓷(灰白)	海州窯	H16904	200201-0004	被熱
	P42	2002	7		Ⅰ層	磁器	皿					ロクロ	白泥+青花	気泡(純黄緑)	海州窯	H16818	200201-0018	被熱
	P43	2002	7		Ⅰ層	磁器	皿	基筒底	3.4			ロクロ	白泥+青花	気泡(純黄緑)	海州窯	H16813	200201-0013	小野C群
	P44	2002	7		Ⅰ層	磁器	皿	筒皿	22.0			ロクロ	五彩(青花+赤)	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16819	200201-0019	被熱
	P45	2002	7		Ⅰ層	磁器	皿	筒皿	22.0			ロクロ	五彩(青花+赤)	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16820	200201-0020	
	P46	2002	7		Ⅰ層	磁器	皿					ロクロ	五彩(青花+赤)	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16821	200201-0021	被熱
	P47	2002	7		Ⅰ層	磁器	皿					ロクロ	白泥+緑+五彩	緑瓷(灰白)	海州窯	H17901	200201-0001	被熱
	P48	2002	7		V12層	磁器	皿	染反	11.3			ロクロ	白磁	緑瓷(白)	中国	H16307	200201D007	芙蓉手
	P49	2002	7		V12層	磁器	鉢	輪花	12.7			ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16903	200201-0003	被熱
	P50	2002	7		北ST IV層	磁器	鉢					ロクロ	青花	緑瓷(灰白)	景徳鎮	H16812	200201-0012	被熱
	P51	2002	7		Ⅰ層	陶器	鉢?		22.0			ロクロ	刻文+輪(下 明)	緑瓷(白)	中国	H16D19	200201-0019	被熱
	P52	2002	7		V12層	陶器	碗	奇茶碗	13.4			ロクロ	鉄梅	粗(浅黄)	瀬戸・美濃	H16D15	200201-0015	織部
	P53	2002	7		Ⅰ層	陶器	碗			4.2		ロクロ	底 反輪(透明) 底 部外面施釉	緑瓷(灰白)	肥前	H16D21	200201-0021	

単位:cm

第5表 陶磁器観覧表3

図	順No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	胎土・内色調	産地	実測No.	IDNs	特記事項
113	P54	2002	7		V1層	陶器	皿	折縁皿				口コ	磁素(灰白)	越中瀬戸外	H16D18	200201-D018	山下窯?
	P55	2002	7		V11層	陶器	大皿					口コ	磁素(黄灰)	備前	H16D11	200201-D011	
	P56	2002	7		I層	陶器	平鉢					口コ	磁砂多(灰黄緑)	肥前	H17D91	200201-D142	
	P57	2002	7	北8T	皿1層	陶器	鉢					口コ	白色粘土(黄緑)	信楽	H16D16	200201-D016	
	P58	2002	7		皿2層	陶器	向付					口コ	気泡多(褐灰)	瀬戸・美濃	H16B99	200201-B099	瀬部
	P59	2002	7		I層	陶器	擂鉢	口縁内面肥厚	32.0			口コ	磁素(灰)	肥前	H16D22	200201-D022	
	P60	2002	7		V11層	陶器	壺					口コ	磁素(黄灰)	中国	H16D69	200201D069	華南三彩 被熱
114	P61	2002	7		V11層	陶器	壺					口コ	磁素、白色粒等(灰濁)	信楽	H16D10	200201D010	
	P62	2002	7		V11層	陶器	壺					口コ	磁素(黄灰)	中国	H16D17	200201-D017	華南三彩
	P63	2002	7		V1層	陶器	壺		13.9			口コ	赤・粗砂(灰黄緑)	信楽	H17D62	200201-D143	
	P64	2002	7		I層	陶器	壺?					口コ	磁素、磁状(褐灰)	中国	H18D280	200201-D091	茶入?
	P65	2002	7		I層	陶器	瓶					口コ	気泡(灰白)	瀬戸・美濃	H16B22	200201-B022	瀬部 被熱 磨径 10.5
	P66	2002	7		I層	陶器	瓶		12.4		タタキ?	磁素、緑・赤(灰黄)	肥前	H16D20	200201-D020		
	P67	2002	7		I層	土器	皿	C2-11a?	10.4	5.2	2.1	手づくね	粗砂(浅黄緑)	在地	H16D24	200201-D024	油煙皿
	P68	2002	7		V11層	土器	皿	C2-11	10.8			手づくね	粗砂・磁砂・赤色粒(黄灰)	在地	H16D13	200201-D013	油煙皿
	P69	2002	7		V11層	土器	皿		10.8			手づくね	粗砂、粗砂・磁砂(浅黄緑)	在地	H16D14	200201-D014	油煙皿
	P70	2002	7		I層	土器	皿	C2-11a	13.1	8.0	2.8	手づくね	粗砂・赤色粒(黄)	在地	H16D23	200201-D023	油煙皿
	P71	2002	7		V12層	土器	皿	C2-11	13.2			手づくね	粗砂(黄灰)	在地	H16D94	200201D094	油煙皿
	P72	2002	7		V12層	土器	皿	C2-11	14.0			手づくね	粗砂・海綿骨片(褐灰)	在地	H16D95	200201D095	油煙皿
	P73	2002	7		V11層	土器	皿	C2-11a	14.8	8.8	2.9	手づくね	粗砂(浅黄緑)	在地	H16D12	200201-D012	
	P74	2002	7		V12層	土器	皿	C2-11b	15.3			手づくね	薄・粗砂、海綿骨片(黄灰)	在地	H16D96	200201D096	底部外面圧痕

単位:cm

第6表 陶磁器観察表4

図	標本No.	調査年	地点	区分	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	軸座・裝飾等	胎土・O内色調	産地	実測No.	IDNo.	特記事項
114	P75	2003	1	北柱	I層	磁器	碗?	輪花				ロクロ型打	青花	緻密(白)	景徳鎮	H18501	200201-B001	芙蓉手 被熱
	P76	2003	1		IVないしVI層	磁器	皿	波状口縁				ロクロ	白磁	緻密(白)	中国	H182001	200301-D001	
	P77	2003	1		IVないしVI層	陶器	碗		6.5			ロクロ	緑釉	気泡(淡青)	瀬戸・美濃	H182002	200301-D002	
	P78	2003	1		IV層	乳白器	蓋		13.4			ロクロ	黒釉	細砂・淡青		H182003	200301-D003	
	P79	2002	34		II層	陶器	壺		10.6			ロクロ	無釉	細砂・淡青(風橙~ 風藍)	不明	H17004	200201-D145	
	P80	2002	32		I層	磁器	碗		13.6			ロクロ	青花	緻密(灰白)	景徳鎮	H16825	200201-E25	
	P81	2002	32		I層(表土)	磁器	小杯			2.4		ロクロ	青花 高台付露胎	景徳鎮	200201-E30	200201-E30		
	P82	2002	32		I層(表土)	磁器	皿	鐔皿	24.4			ロクロ	青花	緻密(灰)	通州窯	H16828	200201-E28	
	P83	2002	32		南壁面輪査	磁器	向付	変形角形				型作り?	青花	気泡多(灰白)	景徳鎮	H16826	200201-E26	袖切れ有 古 染付? 被熱
	P84	2002	32		I層(表土)	磁器	向付	変形角形				型作り?	青花	緻密(白)	景徳鎮	H16827	200201-E27	袖切れ有 古 染付?
	P85	2002	32		I層(表土)	磁器	香炉	獸形?				型作り?	青花	緻密(白)	景徳鎮	H16829	200201-E29	被熱
	P86	2002	32	南ST		土器	皿	C2-11a	11.9	8.2	1.9	手づくね	細砂・海綿骨片 (黄灰)	在地	H16029	200201-D029	見込一方向ナ テ+指押込文	
	P87	2002	32	南ST		土器	皿	C2-11	17.1			手づくね	溝・粗砂・海綿骨 片(黄胎)	在地	H16030	200201-D030		
	P88	2004	1	W2	SK4	陶器	碗	香形				ロクロ	灰釉(灰白)	粗砂・海綿骨片 (黄胎)	不明	H180111	200401-D076	
115	P89	2004	1	E3	SK11	土器	皿	C2-11	11.4	5.6	2.5	手づくね	溝・黄土塊微(淡 黄)	在地	H180112	200401-D077	袖擦痕	
	P90	2003	8	W2	SD02	陶器	摺鉢		(39.5)			鉄泥	溝・黄土塊微(黄胎)	越前	H180032	200301-D027		
	P91	2003	8	W2	SD02	陶器	甕					ねじ立て	粗砂・練込状(暗 紫)	越前	H180031	200301-D026		
	P92	2004	1	E4	SK0	備石内 陶器	摺鉢			11.0		ロクロ	体部以下黒釉 溝(暗)	肥前	H180110	200401-D075		
	P93	2003	8	W4	SK4	陶器	不明		7.4			ロクロ	灰釉(灰カーフ)	信濃?	H180007	200301-D006		
	P94	2004	1	E2	SK11	磁器	碗		11.9			ロクロ	青花	緻密(白)	景徳鎮	H18506	200401-B001	
	P95	2004	1	E2	SK11	磁器	碗		9.8			ロクロ	青花	緻密(白)	中国	H18807	200401-B002	
	P96	2004	1	E2	SK11	磁器	碗		10.4			ロクロ	青花	緻密(白)	景徳鎮	H18808	200401-B003	

第7表 陶磁器観覧表5

図	順№	展示年	地点	区画	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	軸重・裝飾等	胎土・O内色調	産地	実測№	IDNs	特記事項
115	P97	2004	1	E2	SK11	陶器	碗		11.8		ロクロ	ロクロ	灰輪(灰白)	細砂(灰白)	肥前	H18D041	200401-D008	
	P98	2004	8	E2	SK11	陶器	碗		11.6		ロクロ	ロクロ	灰輪(灰)	細砂(灰白)	肥前	H18D068	200301-D007	
	P99	2003	8	E2	SK11	陶器	碗		11.8		ロクロ	ロクロ	鉄輪	濃・粗砂・気泡(黄灰)	肥前	H18D011	200301-D010	
	P100	2004	1	E2	SK11	陶器	碗		4.8		ロクロ	ロクロ	灰輪(灰白)	細砂・粗砂(橙)	肥前	H18D039	200401-D006	
	P101	2004	1	W2	SK11	陶器	碗	天目	10.4		ロクロ	ロクロ	鉄輪	細砂・気泡(灰)	瀬戸・美濃	H18D043	200401-D010	
	P102	2004	1	E2	SK11	陶器	小杯		6.9	3.2	4.1	ロクロ	灰輪(灰白)	細砂(灰黄)	肥前	H18D040	200401-D007	
	P103	2004	1	E2	SK11	陶器	皿	菊皿	20.5	6.7	2.5	ロクロ型打	長石輪	細砂・気泡(橙)	瀬戸・美濃	H18D042	200401-D009	
	P104	2004	1	W2→	SK11	陶器	平鉢					ロクロ	灰輪・鉄輪	細砂・堅緻(灰)	肥前	H18D09	200401-S004	
	P105	2003	8	E2	SK11	陶器	鉢		8.9		ロクロ	ロクロ	灰輪(灰白)	濃・砂(赤褐)	肥前	H18D009	200301-D008	
	P106	2004	1	E2	SK11	陶器	摺鉢		27.3		ロクロ	ロクロ	鉄輪	粗砂・堅緻(褐灰)	肥前	H18D044	200401-D011	
	P107	2004	1	E2	SK11	陶器	摺鉢	口縁内面彫刻			ロクロ	ロクロ	鉄輪	粗砂・気泡(黄黄緑)	越中瀬戸	H18D045	200401-D012	
P108	2003	8	E2	SK11	陶器	摺鉢				ロクロ	ロクロ	鉄輪	濃・粗砂(浅黄緑)	越中瀬戸	H18D013	200301-D012		
P109	2003	8	E2	SK11	陶器	摺鉢		12.0		ロクロ	ロクロ	鉄輪	濃・粗砂(浅黄緑)	越中瀬戸	H18D012	200301-D011		
P110	2003	8	E2	SK11	陶器	瓶		6.6		ロクロ	ロクロ	鉄輪	気泡(灰黄)	?	H18D010	200301-D009		
117	P111	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-1 Ia	11.1	7.4	2.3	手づくね	粗砂・赤色粒(淡黄)	在地	H18D665	200401-D032		
	P112	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-1 Ia	11.7	7.8	2.7	手づくね	粗砂・赤色粒少(浅黄)	在地	H18D664	200401-D031		
	P113	2003	8	E2	SK11	土器	皿	C2-1 Ia	11.8	8.0	2.6	手づくね	粗砂・赤色粒(浅黄緑)	在地	H18D023	200301-D018		
	P114	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-1 Ia	12.3	8.7	3.2	手づくね	粗砂・赤色粒(淡黄)	在地	H18D015	200401-D003		
	P115	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-1 Ia	12.7	9.2	2.7	手づくね	赤色粒・砂(灰白)	在地	H18D061	200401-D028		
	P116	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-1 Ia	12.8	8.4	3.2	手づくね	粗砂・赤色粒多(淡赤黄)	在地	H18D062	200401-D029	油磨肌	
	P117	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-1 Ia	12.9	9.0	3.0	手づくね	粗砂・赤色粒(淡黄)	在地	H18D069	200401-D035	油磨肌	

単位:cm

第8表 陶磁器観察表6

図	標No.	調査年	地点	区号	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	軸線・裝飾等	胎土・O内色調	産地	実測No.	IDNo.	特記事項
117	P118	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11a	13.2	9.0	3.0	手づくね		緑・赤色粒、粗砂(浅黄褐色)	在地	HI8D017	200401-D005	抽摩紙
	P119	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11a	13.3	9.0	2.7	手づくね		粗砂多、赤色粒(浅黄褐色)	在地	HI8D051	200401-D018	抽摩紙
	P120	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11a	13.7	9.2	2.8	手づくね		粗砂・赤色粒(浅黄褐色)	在地	HI8D063	200401-D030	
	P121	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11a	16.6	8.2	2.5	手づくね		粗砂多、赤色粒(灰白)	在地	HI8D056	200401-D017	
	P122	2004	1	W2	SK11	土器	皿	C2-11a?	12.5	7.9	2.9	手づくね		赤色粒、砂(灰白)	在地	HI8D060	200401-D027	
	P123	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11a?	13.4	9.0	2.7	手づくね		粗砂・赤色粒(淡黄)	在地	HI8D070	200401-D036	抽摩紙
	P124	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11a?	13.8	9.7	2.4	手づくね		粗砂(浅黄褐色)	在地	HI8D055	200401-D022	抽摩紙
	P125	2004	1	W2	SK11	土器	皿	C2-12b	8.9	5.4	2.0	手づくね		赤色粒、粗砂(浅黄褐色)	在地	HI8D057	200401-D024	抽摩紙
	P126	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11b	9.9	7.0	2.1	手づくね		砂、赤色粒(浅黄褐色)	在地	HI8D053	200401-D020	
	P127	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11b	10.8	7.6	2.6	手づくね		粗砂・赤色粒(淡黄)	在地	HI8D068	200401-D034	
	P128	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11b	11.4	7.2	2.0	手づくね		粗砂・赤色粒(淡黄)	在地	HI8D066	200401-D033	
	P129	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11b	11.9	9.7	2.4	手づくね		粗砂・赤色粒(淡黄)	在地	HI8D016	200401-D004	
	P130	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11b	12.3	10.2	2.5	手づくね		粗砂(淡黄)	在地	HI8D054	200401-D021	抽摩紙
	P131	2003	8	E2	SK11	土器	皿	C2-11b	12.6	9.5	2.3	手づくね		赤色粒・粗砂、海面管針(浅黄褐色)	在地	HI8D021	200301-D016	
	P132	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11b	12.6	9.6	2.4	手づくね		粗砂並、赤色粒(浅黄褐色)	在地	HI8D052	200401-D019	抽摩紙
	P133	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-11b	12.7	10.2	2.3	手づくね		粗砂、赤色粒(黄褐色)	在地	HI8D056	200401-D023	抽摩紙

単位:cm

第9表 陶磁器観覧表7

図	標No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	軸葉・裝飾等	胎土・O内色票	産地	実測No.	IDNs.	特記事項																																																																																																																																																																																																																																																																																
117	P134	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-I 1b	12.7	10.3	2.3	手づくね		粗砂、赤色粒(浅黄粒)	在地	H18D049	200401-D016	油煙皿																																																																																																																																																																																																																																																																																
																			P135	2003	8	E2E 2~3	SK11	土器	皿	C2-I 1b	12.8	10.0	2.6	手づくね		漚・赤色粒、粗砂(淡黄)	在地	H18D014	200401-D002	油煙皿																																																																																																																																																																																																																																																														
																																					P136	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-I 1b	12.9	8.5	2.6	手づくね		漚、粗砂多(灰白)	在地	H18D047	200401-D014	油煙皿																																																																																																																																																																																																																																												
																																																							P137	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-I 1b	13.0	9.7	2.6	手づくね		漚・赤色粒、粗砂多(橙)	在地	H18D048	200401-D015	油煙皿																																																																																																																																																																																																																										
																																																																									P138	2003	8	E2	SK11	土器	皿	C2-I 1b	13.2	10.1	2.4	手づくね		赤色粒、粗砂(浅黄粒)	在地	H18D018	200301-D013																																																																																																																																																																																																									
																																																																																											P139	2004	1	W2 ~3	SK11	土器	皿	C2-I 1b	13.2	10.6	2.4	手づくね		赤色粒、粗砂(灰白)	在地	H18D059	200401-D026	油煙皿																																																																																																																																																																																						
																																																																																																													P140	2003	8	E2	SK11	土器	皿	C2-I 1b	13.3	10.9	2.5	手づくね		赤色粒・粗砂(黄粒)	在地	H18D019	200301-D014	油煙皿																																																																																																																																																																				
																																																																																																																															P141	2003	8	E2	SK11	土器	皿	C2-I 1b	13.6	10.6	3.0	手づくね		粗砂・赤色粒(浅黄粒)	在地	H18D022	200301-D017	油煙皿																																																																																																																																																		
																																																																																																																																																	P142	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-I 1b	13.6	10.7	2.6	手づくね		赤色粒、粗砂(浅黄粒)	在地	H18D058	200401-D025																																																																																																																																	
																																																																																																																																																																			P143	2003	8	E2	SK11	土器	皿	C2-I 1b	13.8	11.2	2.5	手づくね		赤色粒・粗砂、海面骨針(浅黄粒)	在地	H18D020	200301-D015																																																																																																															
																																																																																																																																																																																					P144	2004	1	E2	SK11	土器	皿	C2-I 1b	14.2	11.4	1.8	手づくね		赤色粒・雲母・粗砂(浅黄粒)	在地	H18D046	200401-D013	金箔																																																																																												
																																																																																																																																																																																																							118	P145	2004	1	E2	SK13-A	陶器	碗	天目			ロクロ	鉄輪		粗砂(淡黄)	瀬戸・美濃	H18D093	200401-D059																																																																										
																																																																																																																																																																																																																										P146	2004	1	E2	SK13-A	土器	皿	C1	10.9		2.0	手づくね		赤色粒、灰泡(黄粒)	在地	H18D094	200401-D049																																																								
																																																																																																																																																																																																																																												P147	2004	1	E1	SK13-A	土器	皿			3.8	ロクロ	ロクロ		粗砂、赤色粒多(橙)	在地	H18D095	200401-D061																																						
																																																																																																																																																																																																																																																														P148	2004	1	W1	SK13-B	陶器	摺鉢	口縁内面平滑	34.0			ロクロ	鉄輪		細砂、藍瀬(黄粒)	肥前	H18D096	200401-D062																			
																																																																																																																																																																																																																																																																																	P149	2004	1	W1	SK13-B	土器	皿	耳皿状	6.7	3.8	2.3	手づくね		粗砂、雲母多(黄粒)	在地	H18D099	200401-D064	

第10表 陶磁器観察表8

図	標No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	軸線・裝飾等	胎土・O内色調	産地	実測No.	IDNo.	特記事項
118	P150	2004	1	W1	SK13-B ト レ	土器	皿	C2-I Ia	10.8	7.4	1.9	手づくね		粗砂・赤色粒、雲 母多(浅黄)	在地	H18D998	200401-D003	
	P151	2004	1	W1	SK13-B	土器	皿	C2-I Ia	12.2	8.8	2.1	手づくね		粗砂・赤色粒(淡 黄)	在地	H18D100	200401-D065	抽摩痕
	P152	2004	1	W1	SK13-B	土器	皿	C2-I Ia	12.5	9.3	2.6	手づくね		粗砂・赤色粒(浅 黄)	在地	H18D101	200401-D066	抽摩痕
	P153	2004	1	W2	SK13-C	磁器	碗					ロクロ	阿文+青磁	赤色粒(灰白)	龍泉窯	H18D102	200401-D067	暴弁文
	P154	2004	1	W1	SK13C	土器	皿	C1	9.0	4.0	1.8	手づくね		赤色粒、気泡(純 黄)	在地	H18D103	200401-D068	抽摩痕
	P155	2004	1	W1	SK13C	土器	皿	C1	15.4	11.8	2.1	手づくね		粗砂・赤色粒少 (純黄)	在地	H18D104	200401-D069	
	P156	2004	1	W・ E1	SK13	陶器	皿		3.7			ロクロ	灰桶(灰白)	赤色粒、気泡(浅 黄)	肥前	H18D091	200401-D057	
	P157	2004	1	W1、 2	SK13サブ ト レ	陶器	皿		5.9			ロクロ	灰桶(灰白)	粗砂、気泡(灰)	肥前	H18D097	200301-D034	砂目積
	P158	2003	8	W1,2	SK13 ST	陶器	平鉢		32.8			ロクロ	薪給+灰桶	細砂(灰)	肥前	H18B03	200301-B003	
	P159	2003	8	W1	SK13	陶器	不明					ロクロ		細砂(研灰)	肥前	H18D24	200301-D019	被熱
	P160	2003	8	W1・ 2	SK13サブ ト レ	土器	皿	C2-I Ia	12.2	8.6	2.4	手づくね		粗砂・雲母、赤色 粒(浅黄)	在地	H18D25	200301-D020	
	P161	2003	8	W1・ 2	SK13サブ ト レ	土器	皿	B2	16.2	11.3	3.0	手づくね		粗砂・赤色粒(淡 黄)	在地	H18D26	200301-D021	
	P162	2004	1	W1	SK13南ト レ	土器	皿	B2	13.7	9.4	2.1	手づくね		粗砂・赤色粒(純 黄)	在地	H18D92	200401-D058	
	P163	2003	8	W2	SK14	土器	皿	C1	9.0	5.4	2.0	手づくね		粗砂、赤色粒(純 黄)	在地	H18D27	200301-D022	抽摩痕
	P164	2003	8	W2	SK14	土器	皿	B2	16.2	11.5	3.0	手づくね		粗砂・赤色粒(浅 黄)	在地	H18D28	200301-D023	
119	P165	2004	1	W2	SK15	磁器	碗		10.6			ロクロ	青花	麻器(白)	景徳鎮	H18B10	200401-B005	
	P166	2004	1	w2→ SK15	磁器	碗	碗		12.0	4.6	5.8	ロクロ	青花	麻器(白)	中国	H18B11	200401-B006	
	P167	2004	1	W2	SK15	陶器	碗		9.7			ロクロ	内:粉桶(青緑) 外:白泥+粉桶 (透明+緑)	細砂多(緑)	肥西	H18B12	200401-B007	軟質陶桶陶器

単位:cm

第11表 陶磁器規格表9

図	順No.	圖式	地点	区名	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	口縁	胎土・装飾等	灰輪(灰白)	胎土・O内色調	産地	実測No.	IDNs.	単位:cm	特記事項
119	P168	2004	1	W2	SK15	陶器	皿	板状口縁	11.5			ロクロ	細砂・堅磁(灰)			肥前	H18D072	200401-D038			
	P169	2004	1	W2	SK15	陶器	鉢					ロクロ	灰輪(黄緑)			肥前	H18D073	200401-D039			
	P170	2003	8	W2	SK15	陶器	鉢	片口				ロクロ	粗砂少・気泡(灰)			肥前	H18D029	200301-D024			
	P171	2003	8	W2	SK15	陶器	蓋?		8.6				鉄輪			信楽	H18D030	200301-D025			
	P172	2004	1	W2	SK15	土器	皿	B2	15.4	9.9	2.8	手づくね				在地	H18D077	200401-D043		油煙皿	
	P173	2004	1	W2	SK15	土器	皿	B2	16.1	10.5	3.1	手づくね				在地	H18D076	200401-D042		油煙皿	
	P174	2004	1	W2	SK15	土器	皿	B2	16.2	10.8	2.8	手づくね				在地	H18D079	200401-D045		油煙皿	
	P175	2004	1	W2	SK15	土器	皿	B2	16.2	11.9	3.9	手づくね				在地	H18D078	200401-D044		油煙皿	
	P176	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	9.2	5.8	2.5	手づくね				在地	H18D066	200401-D052		油煙皿	
	P177	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	9.3	5.9	2.1	手づくね				在地	H18D085	200401-D051		油煙皿	
	P178	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	10.1	6.7	2.8	手づくね				在地	H18D084	200401-D050		油煙皿	
	P179	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	11.0	7.4	2.1	手づくね				在地	H18D075	200401-D041		油煙皿	
	P180	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	12.9	9.2	2.5	手づくね				在地	H18D083	200401-D049		油煙皿	
	P181	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	13.6	9.0	3.2	手づくね				在地	H18D082	200401-D048		油煙皿	
	P182	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	11.2	8.7	2.3	手づくね				在地	H18D081	200401-D047		油煙皿	
	P183	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	11.8	7.4	2.4	手づくね				在地	H18D080	200401-D046		油煙皿	
	P184	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	13.4	11.0	2.6	手づくね				在地	H18D090	200401-D056		油煙皿	
	P185	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	13.6	10.3	2.9	手づくね				在地	H18D089	200401-D055		油煙皿	
	P186	2004	1	W1	SK15	土器	皿	C1	15.7	11.0		手づくね				在地	H18D088	200401-D054		油煙皿	
	P187	2004	1	W2	SK15	土器	皿	C1	16.4	13.0	3.4	手づくね				在地	H18D087	200401-D053		油煙皿	

第12表 陶磁器観察表10

図	標本No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	軸線・裝飾等	胎土・O内色調	産地	実測No.	IDNo.	特記事項
119	P188	2004	1	W2	SK15	土器	椀		5.7					赤色粒、細砂、粗砂	在地	H18D071	200401-D037	
	P189	2004	1	W2	SK15	土器	不明		6.7					細砂多、赤色粒(浅黄)	在地	H18D074	200401-D040	
120	P190	2004	1	W2	SK18	土器	皿	C1	12.0	8.3	2.1	手づくね		赤色粒(純黄橙)	在地	H18D105	200401-D070	抽摩痕
	P191	2004	1	W2	SK18	土器	皿	C1	11.8	8.4	2.7	手づくね		粗砂・赤色粒やや多い(純橙)	在地	H18D106	200401-D071	
	P192	2004	1	W2	SK18	土器	皿	C1	12.0			手づくね		赤色粒(純黄橙)	在地	H18D107	200401-D072	抽摩痕
	P193	2004	1	W2	SK18	土器	皿	C1	12.0	7.6	2.1	手づくね		粗砂・赤色粒並(純黄橙)	在地	H18D108	200401-D073	
	P194	2004	1	W2E	SK27	陶器	甕					鉄輪		粗砂(明灰黄)	越前	H18D109	200401-D074	
	P195	2003	8	W4	SX01	陶器	碗		5.2		ロクロ	青花		麻密(白)	景徳鎮	H18B04	200301-B004	横須心
	P196	2004	1	W4	SX01 上部	陶器	碗		6.7		ロクロ	青花		気泡(白)	景徳鎮	H18B13	200401-B008	
	P197	2003	8	W4	SX01	陶器	不明		9.0			灰輪		細砂、麻密(濁白) 不明	不明	H18D033	200301-D028	脚部?
	P198	2003	8	W4	SX01	土器	皿	B2	13.6	7.6	3.0	手づくね		赤色粒(純黄橙)	在地	H18D034	200301-D029	抽摩痕
	P199	2004	1	E6	SX02	陶器	碗	多角				青花		麻密(白)	景徳鎮	H18B14	200401-B009	
	P200	2004	1	E6	SX02	陶器	皿				ロクロ	白磁		麻密(白)	中国	H18B15	200401-B010	
	P201	2004	1	E6	SX02	陶器	碗		10.2		ロクロ	灰輪(脚オリーブ)		粗砂(反黄橙)	肥前	H18D113	200401-D078	
	P202	2004	1	W6	SX02	陶器	皿			4.2		ロクロ		粗砂微、細砂並	肥前	H18D114	200401-D079	
	P203	2003	8	W6	SX02	土器	皿	B2	11.8		2.5	手づくね		細砂・赤色粒並(純黄橙)	在地	H18D037	200301-D032	抽摩痕
	P204	2004	1	E6	SX02	土器	皿	C2-11	13.4	8.8	2.4	手づくね		粗砂少	在地	H18D115	200401-D080	
	P205	2004	1	WS	SX04	土製品	罎口							細砂多、黄(橙)	在地	H19-01		
121	P206	2004	1	W5	P13	陶器	溜鉢				ロクロ	鉄輪(鉄輪)		粗砂多(灰白)	越中瀬戸	H18D116	200401-D081	
	P207	2004	1	E1	第2層	陶器	碗		13.6		ロクロ	青花		麻密(白)	景徳鎮	H18B17	200401-B012	
	P208	2004	1	III層	上面	陶器	碗				ロクロ	青花		麻密(白)	景徳鎮	H18B18	200401-B013	
	P209	2003	8	E4	覆瓦	陶器	碗				ロクロ	青花		麻密(白)	景徳鎮	H18B05	200301-B005	
	P210	2003	8	W1	近代	陶器	碗	丸形	11.4		ロクロ	青花+青磁		麻密(白)	龍泉窯	H18D035	200301-D030	墨弄文
	P211	2004	1	WS層	II~III層	陶器	皿				ロクロ	青花		麻密(白)	景徳鎮	H18B16	200401-B011	

単位:cm

第13表 陶磁器観録表11

図	順No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成形・整形	胎土・釉色	産地	実測No.	IDNs.	特記事項
121	P212	2003	8	W3	褐色土	陶器	皿			5.3	ロクロ	砂少(灰白)	肥前	H18D038	200401-D033	砂目	
	P213	2003	8	武雄3	陶器	鉢?			12.8		ロクロ	粗(灰白)	瀬戸・美濃	H18D036	200301-D031		
	P214	2004	1	W5	11層以上	土器	皿	C2-11b	12.2	7.0	1.9	手づくね	薄蒸、粗砂多、焼土塊(浅黄橙)	在地	H18D118	200401-D063	
	P215	2004	2	W2西	基岩層	土器	皿	C2-11a	13.1	8.0	2.2	手づくね	在地	H18D117	200401-D062	油煙痕	
	P216	2004	2	2SX01(V1層)	磁器	磁器	皿				ロクロ	青花	景徳鎮	H18E20	200401-B015		
	P217	2004	2	3SX01(V1層)	土器	土器	皿	C2-11a	12.2	8.3	2.6	手づくね	薄蒸(浅黄橙)	在地	H18D126	200401-D091	油煙痕
	P218	2004	2	3SX01(V1層)	土器	土器	皿	C2-11a	12.5	9.5	2.5	手づくね	在地	H18D124	200401-D069	油煙痕	
	P219	2004	2	2SX01(V1層)	土器	土器	皿	C2-11b	15.2	12.0	2.6	手づくね	在地	H18D125	200401-D090		
	P220	2004	2	4SX02(V1層)	磁器	磁器	碗			4.1	ロクロ	細砂(白)	景徳鎮	H18E22	200401-B017	被熱	
	P221	2004	2	4SX02(V1層)	磁器	磁器	碗				ロクロ	青花	景徳鎮	H18E24	200401-B019		
	P222	2004	2	3SX02(V1層)	磁器	磁器	皿			7.5	ロクロ	気泡(白)	中国	H18D120	200401-D065		
	P223	2004	2	4SX02(V1層)	磁器	磁器?	碗?				型?	青花	景徳鎮	H18E23	200401-B018		
	P224	2004	2	4SX02(V1層)	陶器	陶器	碗	天目	9.6		ロクロ	細砂(黄緑)	肥前	H18D132	200401-D097		
	P225	2004	2	4SX02(V1層)	陶器	陶器	碗		13.2		ロクロ	粗砂(黄緑)	瀬戸・美濃	H18D133	200401-D098		
	P226	2004	2	4SX02(V1層)	陶器	鉢	鉢				ロクロ	粗砂(浅黄橙)	瀬戸・美濃	H18D131	200401-D096		
	P227	2004	2	3~4 SX02(V1層)	陶器	鉢	鉢				ロクロ	灰輪(灰緑)	瀬戸・美濃	H18D134	200401-D099	織部	
	P228	2004	2	4SX02(V1層)	陶器	鉢?	鉢?		9.6		ロクロ	粗砂液(灰黄)	?	H18D135	200401-D100	被熱	
	P229	2004	2	3SX02(V1層)	陶器	瓶	瓶				ロクロ	細砂(灰)	瀬戸・美濃	H18D121	200401-D086	被熱	
	P230	2004	2	4SX02(V1層)	土器	土器	壺?			13.4		粗砂並(暗灰黄)	肥前・美濃	H18D127	200401-D092		
	P231	2004	2	4SX02(V1層)	土器	土器	杯	C2-11a	12.7	7.9	2.7	手づくね	在地	H18D130	200401-D095		
	P232	2004	2	4SX02(V1層)	瓶底器	瓶底器	杯			7.6		粗砂並(灰)	瀬戸・美濃	H18D128	200401-D093	被熱	
122	P233	2004	2	1層層	陶器	皿		7.8	4.6	1.9	ロクロ	粗砂、粗砂並(灰)	瀬戸・美濃	H18D122	200401-D087	被熱	
	P234	2004	2	4IV層	磁器	碗					ロクロ	粗蒸(白)	景徳鎮	H18E21	200401-B016		
	P235	2004	2	3 I層	磁器	碗					ロクロ	粗蒸(白)	景徳鎮	H18E19	200401-B014		
	P236	2004	2	3IV層	陶器	碗			4.7		ロクロ	薄蒸、粗砂並(浅黄橙)	H18D119	200401-D084			
	P237	2004	2	4IV層	陶器	皿			9.9		ロクロ	粗(灰白)	瀬戸・美濃	H18D129	200401-D094		
	P238	2004	2	3 I層	陶器	鉢?					ロクロ	粗蒸(黄灰)	肥前	H18E25	200401-B020	被熱	
	P239	2004	2	2 II層?	陶器	壺			5.4		ロクロ	細砂多(暗灰)	肥前	H18D123	200401-D088	被熱	
	P240	2004	2	3 I層	陶器	壺?					ロクロ	細砂(灰)	肥前	H19-03			
	P241	2003	6	V層層	土器	皿	皿 B1			2.2	手づくね	赤色灰(黄)	在地	H18D006	200401-D001		

単位:cm

第14表 陶磁器觀察表12

図	標No.	調査年	地点	区系	V層	遺構・層位	素材	器種	形状特徴	口径	底径	器高	成車・整形	胎土・内色調	産地	実測No.	IDNo.	特記事項
122	P242	2004	5-1		I層	陶器	甕		夕方口				口方口	細面青針, 石灰(灰)	珠洲	H18D136	200401-D101	
	P243	2004	5-1		I層	陶器	搦鉢		口方口	8.1			口方口	細密(白)	肥前	H18D137	200401-D102	
	P244	2004	5-2		III層	磁器	皿		口方口	8.1			口方口	細密(白)	肥前	H18E27	200401-B022	
	P245	2004	5-2		III層	磁器	皿		口方口	14.3	3.0		口方口	細密(白)	肥前	H18E28	200401-B023	
	P246	2004	5-2		III層	磁器	皿		口方口	14.8	7.8	3.2	口方口	細密(白)	肥前	H18E26	200401-B021	
	P247	2004	5-2		III層	磁器	皿		口方口	9.0			口方口	細密(白)	肥前	H18E29	200401-B024	
	P248	2004	5-2		III層	陶器	鉢		口方口	45.8			口方口	細砂(褐色)	肥前	H18E31	200401-B027	
	P249	2004	5-2		III層	陶器	鉢		口方口	41.0			口方口	細砂(灰褐色)	肥前	H18E32	200401-B026	
	P250	2004	5-2		I層	磁器	蓋		口方口	14.2			口方口	細密(白)	肥前	H18E30	200401-B025	口径:最大外径
	P251	2004	6		IV・V層	陶器	碗		口方口				口方口	細砂(浅黄)	古九谷	H18E33	200401-B028	
	P252	2004	6		IV・V層	陶器	搦鉢		口方口				口方口	堅緻(灰)	越前	H19-02		
	P253	2004	6		III層	磁器	碗		口方口	10.2			口方口	細密(白)	肥前	H18E42	200401-B037	被熱
P254	2004	6		I・II層	磁器	碗		口方口	7.7			口方口	細密(白)	肥前	H18E36	200401-B031	被熱	
P255	2004	6		I・II層	磁器	碗		口方口	7.7			口方口	細密(白)	肥前	H18E40	200401-B035	被熱	
P256	2004	6		III層	磁器	碗		口方口	8.1	3.0		口方口型打	細密(白)	肥前	H18D138	200401-D103	被熱	
P257	2004	6		III層	磁器	皿		口方口	26.8	13.9	3.5	口方口	細密(白)	肥前	H18E44	200401-B039	被熱	
P258	2004	6		III層	磁器	皿		口方口	21.0	13.0		口方口	細密(白)	肥前	H18E47	200401-B043	被熱	
P259	2004	6		III層	磁器	皿		口方口	9.7			口方口	細密(白)	肥前	H18E48	200401-B043	被熱	
P260	2004	6		III層	磁器	皿		口方口	9.7			口方口	細密(白)	肥前	H18E41	200401-B036	被熱	
P261	2004	6		III層	磁器	皿		口方口	9.4			口方口	細密(白)	肥前	H18E43	200401-B038	被熱	
P262	2004	6		III層	磁器	皿		口方口	21.8			口方口	細密(白)	肥前	H18E45	200401-B040	被熱	
P263	2004	6		SK01	磁器	皿		口方口	10.2			口方口	細密(白)	肥前	H18E34	200401-B029	被熱	
P264	2004	6		I・II層	磁器	皿		口方口	21.0	10.6	2.2	口方口	細密(白)	肥前	H18E35	200401-B030	被熱	
P265	2004	6		I・II層	磁器	皿		口方口	20.6			口方口	細密(白)	肥前	H18E37	200401-B032	被熱	
P266	2004	6		I・II層	磁器	皿		口方口	14.5			口方口	細密(白)	肥前	H18E38	200401-B033	被熱	
P267	2004	6		I・II層	磁器	皿		口方口	9.6			口方口	細密(白)	肥前	H18E39	200401-B034	被熱	
P268	2004	6		III層	磁器	皿		口方口	19.6			口方口	細密(白)	肥前	H18D140	200401-D105	被熱	
P269	2004	6		III層	磁器	蓋		口方口				口方口	細密(白)	肥前	H18E49	200401-B044	被熱	
P270	2004	6		III層	磁器	瓶		口方口				口方口	細密(白)	肥前	H18E50	200401-B045	被熱	
P271	2004	6		III層	磁器	瓶		口方口	3.6			口方口	細密(白)	肥前	H18E46	200401-B041	被熱	
P272	2004	6		III層	陶器	壺		口方口	9.0			口方口	細砂多(赤黒)	肥前	H18D139	200401-D104	被熱	

単位:cm

第15表 瓦麗岩表1

軒丸瓦(軒部) a 瓦当径 b 文様区径 c 内区径 d 瓦当厚

図	標高	調査年	地点	区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	地盤	IDNo.	特記事項
126	T1	2002	3	II層	Ⅰ.5L	17.6+	13.0+	2.1	H17D026	200201-D117	無軸梅鉢文		
	T2	2002	3	II層	Ⅰ.5L	16.8+	11.0+	2.0	H17D043	200201-D134	無軸梅鉢文		
	T3	2003	3	IV層	Ⅰ.5L	13.3+	11.2+	9.0	2.4	H18D141	200301-D035	連珠三巴文(左巻)	
	T4	2003	3	IV層	Ⅰ.5L	8.5+	6.2+	4.4+	2.9	H18D142	200301-D036	連珠三巴文(左巻)	
	T5	2003	3	IV層	Ⅰ.5L	13.2	10.9	7.5	2.3	H18D143	200301-D037	連珠三巴文(左巻)	
	T6	2002	22	II層	Ⅰ.5L	8.6+	6.3+	4.3+	H16D073	200201-D073	連珠三巴文(左巻)	粗砂多	
	T7	2002	22	II層	Ⅰ.5L	18.2+	11.1+	9.8	2.6	H16D057	200201-D057	連珠三巴文(左巻)	砂・石多、粗、二次焼成
	T8	2002	22	II層	Ⅰ.5L	18.2+	14.2+	2.1	H16D056	200201-D056	連珠三巴文(左巻)		
	T9	2002	23	V層	Ⅰ.5L	16.8+	10.1+	2.6	H16D058	200201-D058	連珠三巴文(左巻)		
	T10	2002	23	V層	Ⅰ.5L	3.7+	1.6+		H16D064	200201-D064	連珠		
127	T11	2002	23	V層	Ⅰ.5L	16.7	12.2+	8.7	2.5	H16D072	200201-D072	連珠三巴文(左巻)	細砂多、粒子細
	T12	2002	23	V層	Ⅰ.5L	10.0+	8.2+	6.2+		H16D074	200201-D074	連珠三巴文(左巻)	
	T13	2002	23	V層	Ⅰ.5L	6.2+	4.6+	3.0+		H16D075	200201-D075	連珠三巴文(右巻)	ニヒキB、砂少、粘性大、二次焼成
	T14	2002	23	V層	Ⅰ.5L	14.2	10.2	6.9	1.9	H16D076	200201-D076	連珠三巴文(右巻)	
	T15	2002	23	V層	Ⅰ.5L	13.5	10.1	6.9	2.2	H16D077	200201-D077	連珠三巴文(右巻)	
	T16	2002	23	V層	Ⅰ.5L	11.5+	9.3+	6.5	2.2	H16D078	200201-D078	連珠三巴文(右巻)	砂少、粘性大
	T17	2002	23	V層	Ⅰ.5L	11.5+	9.4+	6.5	2.0	H16D079	200201-D079	連珠三巴文(右巻)	
	T18	2002	23	V層	Ⅰ.5L	11.6+	9.4+	7.4	2.5	H16D080	200201-D080	連珠三巴文(左巻)	砂少
	T19	2002	23	V層	Ⅰ.5L	8.0+	6.2+	4.2+		H16D081	200201-D081	連珠三巴文(右巻)	線状
	T20	2002	5	II層	Ⅰ.5L	16.7+	12.4+	10.0+	2.4	H17D040	200201-D123	連珠三巴文(右巻)	砂・石少、キ/細(灰白)
	T21	2002	5	II層	Ⅰ.5L	17.5+	13.1+	10.5+		H17D042	200201-D131	連珠三巴文(左巻)	砂多(灰)
	T22	2002	7	VI3層	Ⅰ.5L	8.6+	8.6+	7.9		H16D038	200201-D038	連珠三巴文(左巻)	砂少、粒子細、二次焼成?
	T23	2002	7	VI2層	Ⅰ.5L	12.2+	10.1+	8.1+		H16D037	200201-D037	連珠三巴文(左)	細砂多、二次焼成
	T24	2002	7	VI2層	Ⅰ.5L	12.3+	10.0+	8.0	2.1	H16D039	200201-D039	連珠三巴文(左巻)	砂多、粒子粗、1~2mm小石、二次焼成
	T25	2002	7	VI2層	Ⅰ.5L	14.3+	12.1+	7.9	2.3	H16D040	200201-D040	連珠三巴文(左巻)	
	T26	2002	7	VI2層	Ⅰ.5L	9.2+	6.9+	6.0+	1.7	H16D036	200201-D036	連珠三巴文(左巻)	砂若干多
	T27	2002	7	調査区南壁	Ⅰ.5L	10.8+	8.5+	6.3+		H16D041	200201-D041	連珠三巴文(左巻)	細砂多、石少、范キズ
	T28	2002	7	I層	Ⅰ.5L	12.8+	10.5+	7.9+		H16D042	200201-D042	連珠三巴文(左巻)	細砂多、石少、范キズ
	T29	2002	32	北ST	Ⅰ.5L	15.8+	11.3+	7.2+		H17D010	200201-D101	連珠三巴文(左巻)	砂・石多(灰白)
	T30	2002	32	I層(表土)	Ⅰ.5L	16.9+	12.3+	9.6	2.9	H17D012	200201-D103	連珠三巴文(左巻)	細砂多(灰白)

単位:cm

第16表 瓦羅辨表2

軒丸瓦(軒部) a 瓦当径 b 文様区径 c 内区径 d 瓦当厚

図	欄No.	調査年	地区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	瓦当厚	IDNo.	特記事項	単位:cm		
128	T31	2002	32	I層(灰土)	ハズシ	14.5+	6.5	1.7	H17D013		200201-D104	連珠三巴文(左巻)、砂(白灰)			
129	T32	2004	1	E4	SK04	14.6+	10.2+	7.6+	H18D164		200401-D106	連珠三巴文(右巻)			
T33	2004	1	E2	SK11	ハズシ	8.3+	5.7+	4.6+	H18D167		200401-D109	連珠三巴文(左巻)、コピキ			
T34	2004	1	E2	SK11	ハズシ	11.9	9.4	8.1	2.2	H18D171		200401-D113	連珠三巴文(左巻)		
T35	2004	1	E2	SK11	ハズシ	17.0	12.6	8.6	2.7	H18D168		200401-D110	連珠三巴文(左巻)、コピキ、細砂多、靑子編		
T36	2004	1	E2	SK11	ハズシ	16.6	11.9	9.6	2.2	H18D169		200401-D112	連珠三巴文(左巻)		
T37	2004	1	E2	SK11	ハズシ	14.4+	12.6+	8.6	2.3	H18D170		200401-D111	連珠三巴文(左巻)		
T38	2004	1	E2	SK11	ハズシ	12.1+	10.0+	8.5+	2.7	H18D172		200401-D114	連珠三巴文(左巻)、細砂多、石少		
T39	2004	1	E6	SK02	ハズシ				2.3	H18D195		200401-D137	連珠三巴文(右巻)、金箔		
T40	2003	8	W6	SK02	ハズシ	4.3+	1.6+	0.3+	2.5	H18D159		200301-D053	連珠、金箔		
T41	2004	1	W3趾	上面	ハズシ	18.0	13.8	10.7	2.3+	H18D198		200401-D140	連珠三巴文(左巻)		
T42	2004	1	W5	款撫謨	ハズシ	7.4+	5.5+	3.7+	H18D199		200401-D141	連珠三巴文(右巻)、コピキ			
T43	2003	8	W5		ハズシ	9.0+	6.8+	5.4+	2.0	H18D160		200301-D054	連珠三巴文(左巻)、細砂多		
T44	2003	8	W5		ハズシ	12.4+	10.2+	7.9	2.6	H18D161		200301-D055	連珠三巴文(左巻)		
131	T45	2004	2	2	SK02(V1層)	ハズシ	14.2	10.5+	6.9	0.7	H18D201		200401-D143	連珠三巴文(右巻)、コピキ	
T46	2004	2	3	SK02(V1層)	ハズシ	14.4	10.7	7.3	2.6	H18D202		200401-D144	連珠三巴文(右巻)		
T47	2004	2	4	SK02(V1層)	ハズシ	10.3+	8.3+	6.4+	1.5	H18D203		200401-D145	連珠三巴文(右巻)、砂之少、キ刈堀		
T48	2004	2	3	SK02(V1層)	ハズシ	12.4+	10.0+	7.8	2.0	H18D205		200401-D147	連珠三巴文(左巻)		
T49	2004	2	3~4	I層	ハズシ	9.5+	7.3+	5.4+	2.5	H18D207		200401-D149	連珠三巴文(左巻)		
T50	2004	5-2		SK01	軸	16.1+	12.3+	9.4+	2.0	H18D212		200401-D154	連珠三巴文(左巻)、越前		
T51	2004	6		V層	ハズシ	8.2+	5.8+		2.3	H18D239		200401-D181	梅鉢文		
T52	2004	6		V層	軸	8.8+	6.6+	5.3+	H18D226		200401-D168	連珠三巴文(左巻)、越前			
T53	2004	6		V層	軸	8.6+	6.5+	5.3+	H18D227		200401-D169	連珠三巴文(右巻)、越前			

軒丸瓦(丸部) a 体部全長 b 体部幅 c 玉縁長 d 玉縁幅 e 体部高 f 体部厚 g 玉縁高 h 体部側縁端幅

図	欄No.	調査年	地区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	e	f	g	h	瓦当厚	IDNo.	特記事項	単位:cm
132	T54	2002	7	V12層	ハズシ	33.1+	16.0+	4.6+	13.5+	7.8+	1.9	6.4		H16D050	200201-D050	コピキB、粗砂多、靑子編、二次焼成	
T55	2004	6		V層	軸	33.8+	16.0	2.3+	5.7+	9.0+	2.3	7.6		H18D231	200401-D173	コピキB、越前、刻印	

第17表 瓦麗岩表3

軒平瓦(軒部) a 上弧幅 b 下幅 c 右周縁 d 左周縁 e 文様区幅 f 文様区厚 g 瓦当厚 h 顎高 i 顎下部厚

図	幅No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	e	f	g	h	i	來源No.	IDNo.	特記事項
133	T56	2002	3	II層	Ⅱ層	Ⅱ層	20.6+	19.8+		4.2	16.3+	3.1	4.6	2.6	2.9	HI7D050	200201-D141	梅鉢文、砂多、中々粘性多(灰白)
	T57	2002	3	II層	Ⅱ層	Ⅱ層						2.9	4.5	2.8	3.2	HI7D042	200201-D133	梅鉢文、砂多
	T58	2002	3	II層	Ⅱ層	梅鉢	27.2	25.5	3.6	4.5	18.9	2.9	4.6	2.9	2.9	HI7D049	200201-D140	半葉文、顔前、砂<少、粘性強、礫5状
	T59	2003	3	VI層	Ⅵ層	Ⅱ層	10.0+	10.0+	3.5	7.0+	7.0+	2.3+	2.9+	1.9	2.0	HI8D147	200301-D041	三葉文
	T60	2003	3	IV層	Ⅳ層	Ⅱ層	7.0+	7.0+		1.5	5.5+	2.7	4.7	3.1	2.2	HI8D144	200301-D038	三葉文
	T61	2003	3	IV層	Ⅳ層	Ⅱ層	6.8+	6.8+		8.0+	3.0	4.3	2.9	2.3	HI8D145	200301-D039	三葉文	
	T62	2003	3	IV層	Ⅳ層	Ⅱ層	10.2+	5.0+		3.1	8.2+	2.2	4.5	1.2	2.0	HI8D148	200301-D042	三葉文
	T63	2003	3	IV層	Ⅳ層	Ⅱ層	7.0+	7.0+		4.0	3.3+	2.8	4.3	1.6	2.0	HI8D149	200301-D043	三葉文、二次焼成
	T64	2003	3-2	IV層	Ⅳ層	Ⅱ層	9.4+	9.4+		3.0	6.0+	2.5	4.3	1.9	1.8	HI8D151	200301-D045	花文
	T65	2002	22	II3層	Ⅱ3層	Ⅱ層	17.5+	17.5+	4.7	12.7+	2.1+	4.0	1.6	2.4+	HI8D052	200201-D052	三葉文、細砂多、粒子細	
	T66	2002	22	II1層	Ⅱ1層	Ⅱ層	12.1+	9.5+		3.4	8.5+	2.5	4.4	1.9	2.1	HI8D054	200201-D053	三葉文
	T67	2002	22	II1層	Ⅱ1層	Ⅱ層	12.1+	10.4+	3.2+	9.3+	2.2	4.2	1.9	2.1	HI8D053	200201-D053	三葉文	
	T68	2002	23	V層	Ⅴ層	Ⅱ層	11.8+	12.8+	3.5+	8.2+	2.2	4.1	1.8	2.5	HI8D068	200201-D068	三葉文、砂少	
134	T69	2002	23	V層	Ⅴ層	Ⅱ層	11.3+	8.8+		3.7+	6.7+	2.2	4.5+	1.9+	2.0+	HI8D055	200201-D055	三葉文
	T70	2002	23	V層	Ⅴ層	Ⅱ層	15.3+	15.7+		3.7	12.6+	2.3	4.1	2.0	2.8	HI8D069	200201-D069	三葉文
	T71	2002	23	V層	Ⅴ層	Ⅱ層	12.6+	13.5+		3.7	7.0+	2.3	4.1	1.9	2.5	HI8D070	200201-D070	三葉文、細砂、粒子細
	T72	2002	23	V層	Ⅴ層	Ⅱ層	8.2+	8.2+		8.9+	2.7	4.2	1.5	2.5	HI8D071	200201-D071	三葉文	
	T73	2002	7	VI2層	Ⅵ2層	Ⅱ層	10.4+	10.5+	3.5	7.2+	2.9	4.5	1.6	2.7	HI8D034	200201-D034	三葉文、砂多	
	T74	2002	7	VI2層	Ⅵ2層	Ⅱ層	15.4+	15.8+	3.8	10.7+	3.2	4.7	2.7	1.4	HI8D033	200201-D033	三葉文	
	T75	2002	7	VI2層	Ⅵ2層	Ⅱ層	15.8+	15.8+		4.7	7.4+	2.1+	2.8+		HI8D032	200201-D032	三葉文	
	T76	2002	7	VI1層	Ⅵ1層	Ⅱ層	5.6+	7.5+		5.3+	3.0	4.7	2.6	3.4	HI8D031	200201-D031	三葉文、砂多、二次焼成	
	T77	2002	7	I層	Ⅰ層	Ⅱ層	10.0+	10.5+		8.3+	2.6	4.4	2.0	3.0	HI8D035	200201-D035	三葉文、砂<小石非常に多	
	T78	2002	7	I層	Ⅰ層	Ⅱ層	7.8+	6.5+	4.0		2.1	3.9	1.2	2.3	HI7D022	200201-D113	三葉文、刻印、砂少(時灰)	
	T79	2002	7	I層	Ⅰ層	Ⅱ層	10.3+	4.5+	2.5	7.3+	2.5	5.0	2.6	3.1	HI7D023	200201-D114	花文、砂非常に多(灰)	
	T80	2002	32	北ST		Ⅱ層	15.5+	12.2+	3.3	12.2+	3.2	4.6	1.9	2.9	HI7D011	200201-D112	三葉文、砂多(時灰)	
	T81	2002	32			I層(表土)	Ⅱ層				2.9		3.5		HI7D014	200201-D105	三葉文、砂多、粘性強(灰)	
T82	2002	32			I層(表土)	Ⅱ層				2.6		4.4	2.5	1.9	HI7D015	200201-D106	三葉文、砂<小石非常に多(灰)	
T83	2002	32			I層(表土)	Ⅱ層				2.9		2.9		HI7D016	200201-D107	三葉文、細砂多(灰)		
T84	2003	8	W3	SD01	Ⅱ層	6.0+	11.2+	4.7+	8.0+	2.3	4.2	1.1	1.5	HI8D240	200301-D059	三葉文		

単位:cm

第18表 瓦種別表1

軒平瓦(軒部) a 上弧幅 b 下幅 c 右周縁 d 左周縁 e 文様区幅 f 文様区厚 g 瓦当厚 h 顎高 i 顎下部厚

図	報No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	e	f	g	h	i	瓦型No.	IDNo.	特記事項	
	134	T85	2004	1	E2	SK11	いぶし	17.0+	21.6+	2.8	17.5	3.2	4.4	2.0	2.2	H18D173	200401-D115	三葉文、細砂、靑子細	
		T86	2004	1	E2	SK11	いぶし	12.4+		2.7	9.7+	2.8	4.2	2.1	2.1	H18D174	200401-D116	三葉文	
		T87	2004	1	E2	SK11	いぶし	12.7+	12.3+	3.5	9.2+	2.9	4.4	2.2	2.0	H18D175	200401-D117	三葉文、砂多	
		T88	2004	1	W22	SK11	いぶし	20.6+	22.6+		2.8	18.0+	3.1	4.5	1.7	2.3	H18D176	200401-D118	三葉文、砂非常に多
		T89	2004	1	W10	SK13	いぶし			2.4								細文、細砂多	
		T90	2004	1	W3	S09-S06付足	いぶし			5.0		2.8	4.9	2.2	4.3	H18D191	200401-D133	三葉文(垂下形砂)	
		T91	2003	8	W3-4	暗褐色土	いぶし	15.5+			15.0	3.0	4.2	2.6	2.0	H18D157	200301-D051	細文	
		T92	2003	8	E6		いぶし	10.2+	10.3+	3.0	8.0+	3.0	4.4	1.4	2.5	H18D158	200301-D052	三葉文、砂多	
		T93	2003	8			いぶし	25.0	24.8	6.0	5.2	13.5	2.6	4.8	2.0	2.3	H18D163	200301-D057	三葉文、砂ごく少、粘性強、融込状
		T94	2004	1	E1	遺構検出	いぶし	7.7+	6.0+		2.9	3.2+	3.5	5.6	2.8	2.6	H18D197	200401-D139	三葉文
		T95	2004	2	1~2	トレンチ内	いぶし											三葉文	
		T96	2004	2	3~4	I層	いぶし	26.9	26.0	2.5	2.5	21.0	2.8	4.2	1.7	1.8	H18D208	200401-D150	花文
		T97	2004	5-1	I層	いぶし	3.0+	4.6+		9.0+	2.7	4.5	2.1	2.2	2.2	H18D210	200401-D152	三葉文	
		T98	2004	5-1	I層	いぶし	6.5+	3.0+		7.3+	2.6	4.4	2.1	2.5	H18D211	200401-D153	三葉文		
		T99	2004	5-2	III層	いぶし	12.1+	2.4+		1.0+	10.9+	3.0	4.8	2.8	1.9	H18D213	200401-D155	垂下型三葉文、砂・小石非常に多	
		T100	2004	6		いぶし	13.1+	4.8+	2.6	10.7+	2.7	4.6	2.6	2.1	2.1	H18D216	200401-D158	花文	
		T101	2004	6	V層	釉				3.8	2.2+	2.8	4.0	2.3	1.7	H18D217	200401-D159	超前	
		T102	2004	6	V層	釉				5.0		2.7	3.9	1.8	1.5	H18D214	200401-D156	半葉文、超前	
		T103	2004	6	V層	釉			4.3		2.6	4.0	1.6	1.6	H18D215	200401-D157	半葉文、超前、砂非常に多		
		T104	2004	6	V層	釉	14.6+	15.0+		4.5	10.8	2.6	4.3	1.5	1.0	H18D218	200401-D160	半葉文、超前、細砂多	
		T105	2004	6	V層	釉	13.6+	14.2+	4.8	9.7+	2.6	4.4	2.3	1.7	H18D219	200401-D161	半葉文、超前		
		T106	2004	6	V層	釉	14.2+	15.0+		4.5	12.0+	2.7	4.0	1.9	1.4	H18D220	200401-D162	半葉文、超前	
		T107	2004	6	V層	釉	8.5+	4.5+			7.6	2.6	4.4	2.2	1.3	H18D221	200401-D163	超前	
		T108	2004	6	V層	釉	10.2+	11.7+		4.2+	7.9	2.6	4.0	2.0	1.6	H18D222	200401-D164	半葉文、超前	

軒平瓦(平部) a 全長 b 広縁幅 c 狭縁幅 d 顎深 e 厚

図	報No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	e	瓦型No.	IDNo.	特記事項	
	135	T96	2004	2	3~4	I層	いぶし	35.0	26.9	13.3	3.2	2.1	H18D208	200401-D150	花文
		T101	2004	6	V層	釉	21.8+	19.2+			1.9	H18D217	200401-D159	超前	

第19表 瓦敷調査表5

丸瓦 a 体部全長 b 体部幅 c 五線長 d 五線幅 e 体部高 f 体部厚 g 玉線高

図	順No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	e	f	g	集積率%	IDNo.	特記事項
136	T109	2002	3		II層	いぶし	21.3+	16.1	4.7	12.7	8.0	1.8	6.3	H17D048	200201-D139	コビキB、砂多、やぐ組(灰)
	T110	2002	3		II層	いぶし	29.8+	17.0	4.0	13.7	7.8	2.0	5.8	H17D044	200201-D135	コビキB、砂少(灰白)
	T111	2002	3		II層	いぶし	15.0+	16.6	4.1	12.6	8.0	2.0	4.3	H17D045	200201-D136	コビキB、砂、石(灰白)
	T112	2003	3		IV層	いぶし	20.0+	16.8	4.0	12.9+	7.6	2.5	5.5	H18D153	200301-D047	コビキB
	T113	2003	3		IV層	いぶし	22.7+	13.1+	4.2	3.0+	7.1	2.3	5.6	H18D152	200301-D046	コビキB
	T114	2002	22		II層	いぶし	22.3+	16.5	4.3	13.5	7.5	2.2	6.9	H16D090	200201-D090	コビキB、砂多・小石、二次焼成
	T115	2002	22		II層	いぶし	27.9	14.6	3.5	12.8	7.1	1.9	5.5	H16D086	200201-D086	コビキB、割印
	T116	2002	22		II層	いぶし	25.8	12.9	3.1	11.2	7.1	2.5	7.1	H16D087	200201-D087	コビキB
	T117	2002	22		II層	いぶし	29.5+	15.1	3.3+	12.9	8.3	2.4		H16D088	200201-D088	コビキB
	T118	2002	22		II層	いぶし	26.2+	10.5+			7.4	1.9		H16D089	200201-D089	コビキB、砂少、粘性強
	T119	2002	22		II層	いぶし	33.3	16.0	4.2	13.0	7.9	2.0	6.2	H16D048	200201-D048	コビキB
	T120	2002	23		V層	いぶし	25.5+	18.1	3.0	14.7	8.3	2.6	5.5	H16D063	200201-D063	コビキB、砂多、やぐ組、二次焼成
	T121	2002	23		V層	いぶし	21.55+	14.8	4.0	8.0	6.9	1.9	3.9	H16D065	200201-D065	コビキB、砂少
T122	2002	23		V層	いぶし	17.2+	13.9	3.8	10.6	7.5	1.9	4.9	H16D066	200201-D066	コビキB	
T123	2002	23		V層	いぶし	26.6+	11.6+	4.6	9.8+	8.6	2.2	5.2	H16D067	200201-D067	コビキB、粗砂・小石多	
T124	2002	25		I層	釉	25.8+	15.5+	4.4	11.0	6.5	2.3	4.0	H17D068	200201-D069	コビキB、砂・石多、粗(滑層釉)	
T125	2002	25		I層	釉	22.8+	15.8	4.2	12.1	7.4	1.6	4.4	H17D069	200201-D100	砂非常に多、粗	
T126	2002	31		III層	釉	28.0	15.7	3.6		7.2	1.9	4.1	H17D001	200201-D092	コビキB、趣前、砂少(灰)	
T127	2002	31		III層	釉	13.2+	15.2+	3.9	12.0+	7.3	2.2	5.1	H17D002	200201-D093	コビキB、趣前、(滑層釉)	
T128	2002	31		III層	釉	26.5+	12.1+	2.7+	5.6+	6.2	2.0	3.2+	H17D003	200201-D094	コビキB、趣前、砂少(滑層釉)	
T129	2002	31		III層	釉	13.0+	17.3	2.4	13.8	7.5	2.1	5.8	H17D004	200201-D095	コビキB、趣前、(灰層釉)	
T130	2002	5		II層	いぶし	14.6+	14.6	4.7	11.3+	7.3	2.1	4.6	H17D029	200201-D120	コビキB、砂少(灰白)	
T131	2002	5		II層	いぶし	24.6+	15.3+	0.8+		7.8	2.2		H17D030	200201-D121	コビキB、砂多、Icm石(灰白)	
T132	2002	5		II層	いぶし	17.1+	12.1+		4.1	1.5+	8.1+	1.9	3.8+	H17D031	200201-D122	コビキB、砂多(灰白)
T133	2002	5		II層	いぶし	24.4+	15.8	3.7+	12.7	7.7	2.0	5.0	H17D024	200201-D115	コビキB、割印、砂少、粘性強(灰)、練込状	
T134	2002	5		II層	いぶし	29.4	4.0	4.0	6.4+	8.2+	2.0	2.0+	H17D036	200201-D127	コビキB、砂少、粘性弱(灰)	
T135	2002	5		II層	いぶし	11.9+	10.2+			7.2+	3.0	4.7	H17D037	200201-D128	割印、砂多、粘性弱(灰)	
T136	2002	5		II層	いぶし	23.6+	16.2		8.0	2.0			H17D035	200201-D126	コビキB、細砂多(灰白)	
T137	2002	5		II層	いぶし	33.0+	12.6+	3.0+	5.3+	8.8+	2.3	5.7+	H17D038	200201-D129	コビキB	

単位:cm

第20表 瓦種別表6

丸瓦 a 体部全長 b 体部幅 c 瓦綫長 d 瓦綫幅 e 体部高 f 体部厚 g 瓦綫高

図	種別	標準年	部点	区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	e	f	g	瓦綫高	ID%	特記事項	
141	T138	2002	5		II層	いぶし	18.7*	8.6*	4.9*	7.1*	6.6*	2.3	3.6	H17D039	200201-D130	刻印、砂・石少(灰)	
142	T139	2002	7		V12層	いぶし	33.1	16.4	4.9	13.0	7.9	2.0	6.4	H16D049	200201-D049	コビキB、砂・石多、二次焼成	
T140	2002	7		V12層	いぶし	32.1+		3.6*	8.3*	2.6	5.4*	H16D051	200201-D051	コビキB			
T141	2002	7		V12層	いぶし	18.7*	15.5*	3.5	13.5	5.3	13.4*	3.5	H17D021	200201-D112	砂・石多、粘性小(灰白)		
T142	2002	7		V12層	いぶし	34.1	16.3	4.8	13.8	8.7	2.2	5.7	H17D025	200201-D116	コビキB、砂多、粗(赤褐色)		
143	T143	2002	32		SD01裏込	いぶし	21.0*	12.4*	4.7	11.0*	8.5	2.4	5.4	H17D019	200201-D110	コビキB	
T144	2002	32		I層(灰土)	いぶし	35.3	17.8	4.3	14.6	8.1	2.6	5.6	H17D017	200201-D108	コビキB、砂・石非常に多、粘性弱(灰)、二次焼成		
T145	2002	32		I層(灰土)	いぶし	28.7		4.3	6.7*	1.9	4.0*	H17D018	200201-D109	砂・石非常に多、粘性弱(灰)、二次焼成			
T146	2004	1		E.W4	SK04	いぶし	28.8	15.6	3.7	13.0	7.3	2.1	7.6	H18D166	200401-D108	コビキB	
T147	2003	8		E2	SK11	いぶし	12.9*	10.9*	3.8	8.6*	6.8	2.3	4.9	H18D155	200301-D049	コビキB、刻印	
144	T148	2003	8		g-viii	SK11	いぶし	34.4*	16.8	3.4	10.1*	8.5	2.2	6.3	H18D156	200301-D050	コビキB
T149	2004	1		E2	SK11	いぶし	20.3*	15.9*	4.5	13.4	7.3	2.1	6.0	H18D177	200401-D119	コビキB、砂多、粗	
T150	2004	1		E2	SK11	いぶし	24.8*	16.7	4.2	14.6	8.5	2.3	6.8	H18D178	200401-D120	コビキB	
T151	2004	1		E2	SK11	いぶし	27.9*	13.1*	4.0			2.1	6.8	H18D179	200401-D121	コビキB	
T152	2004	1		E2	SK11	いぶし	26.5*	17.1	3.8	13.4	8.4	2.3	6.6	H18D180	200401-D122	コビキB	
T153	2004	1		E2	SK11	いぶし	31.1*	16.3	5.0	13.1	8.3	1.9	6.6	H18D181	200401-D123	コビキB	
T154	2004	1		E2	SK11	いぶし	18.0*	16.3	3.6	13.2	7.8	2.1	5.3	H18D182	200401-D124	コビキB	
T155	2004	1		E2	SK11	いぶし	16.5*	16.2	3.4	14.0	8.7	2.3	6.9	H18D183	200401-D125	コビキB	
T156	2004	1		E2	SK11	いぶし	14.3*	13.1*				6.9*	2.0	H18D184	200401-D126	コビキB	
T157	2004	1		g-viii	SK13C	いぶし	17.3	13.5*	4.7*	11.3*	6.0*	2.2		H18D190	200401-D132	コビキB	
T158	2004	1		E6	SK02	いぶし	4.5							H18D196	200401-D138	コビキB	
146	T159	2004	2		SK01(VI3層)	いぶし	34.1	16.9	4.6	13.1	9.4	2.5	7.8	H18D209	200401-D151	コビキB	
T160	2004	6		V層	釉	22.6*	14.2*	3.1	10.4	7	1.9*	5.6*	H18D228	200401-D170	コビキB、越前、刻印		
T161	2004	6		V層	釉	23.7*	14.2	1.0*	10.7*	6.8	1.9	5.2	H18D232	200401-D171	コビキB、越前、刻印		
T162	2004	6		V層	釉	28.1	12.1*	3.2	8.2*	5.1	2.0	3.9	H18D239	200401-D174	コビキB、越前		
T163	2004	6		V層	釉	15.0*	15.4	4.3	12.2	7.1	2.0	5.7	H18D233	200401-D175	コビキB、越前		
T164	2004	6		V層	釉	17.6*	16.1				7.8	2.0		H18D234	200401-D176	コビキB、越前	
T165	2004	6		V層	釉	16.5*	14.2				7.0	2.0		H18D235	200401-D177	コビキB、越前	

単位:cm

第21表 瓦礫表

平瓦 a 全長 b 広端幅 c 尖端幅 d 弧深 e 厚

図	額瓦	調査年	地点	区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	e	耳端%	IDNs	特記事項	
147	T166	2002	31			釉	15.0+	25.1	2.2	1.9	H17D006		200201-D057	越前、砂(楳粉)、楳込状	
	T167	2002	3		II層	いぶし	29.7	20.8+	13.1+	2.2	1.9	H17D046	200201-D0137	砂(炭焼)	
	T168	2002	22		II層	いぶし	23.3+				1.6	H16D060	200201-D0650	砂少、やや粘性あり、二次焼成?	
	T169	2002	22		V層	いぶし	23.0+				2.3	H16D061	200201-D0661	砂多	
	T170	2002	23		V層	いぶし	26.1	19.5		1.5	1.6	H16D082	200201-D0682		
	T171	2002	23		V層	いぶし	12.3+	18.8	1.6	1.7	H16D083		200201-D0683	砂少、粒子楳	
	T172	2002	23		V層	いぶし	25.3+	20.0	2.0	2.0	H17D027		200201-D118	砂	
	T173	2002	23		V層	いぶし	13.5+		3.0	1.9	H16D084		200201-D084	砂少、藍子楳	
148	T174	2002	25		I層	釉	20.4+	16.8+	3.1	2.1	H17D007		200201-D0988	砂、黒色靑(楳粉)	
	T175	2002	31		II層	釉	20.5+	23.3	3.3	1.9	H17D005		200201-D0996	越前、砂少(赤楳~炭焼)	
	T176	2002	5		II層	いぶし	11.5+	9.4+	1.8	1.9	H17D034		200201-D125	頰印、砂少	
	T177	2002	5		II層	いぶし	14.9+	25.6	2.9	2.0	H17D028		200201-D119		
	T178	2002	7		V13層	いぶし	7.1+		2.0		H16D043		200201-D043		
	T179	2002	7		V12層	いぶし	21.6+	22.3	2.7	2.2	H16D045		200201-D045	砂非常仁多、二次焼成	
	T180	2002	7		V12層	いぶし	19.0+	23.6	2.6	1.8	H16D046		200201-D046	砂多、二次焼成	
	T181	2002	7		V12層	いぶし	27.3+			2.2	H16D047		200201-D047	砂多、二次焼成	
	T182	2002	7		V11層	いぶし	31.2			2.4	H16D044		200201-D044	砂多、5~10mm石(楳粉)、二次焼成	
	T183	2002	32		調査区南壁	いぶし	26.7+	24.1	2.7	1.7	H17D020		200201-D111	砂非常仁多(炭灰~炭焼)	
	T184	2004	1	E2	SK11	いぶし	22.1+	25.2	2.7	1.9	H18D185		200401-D127		
	T185	2004	1	E2	SK11	いぶし	25.1+	25.9	3.0+	1.7+	H18D186		200401-D128		
	T186	2004	1	E2	SK11	いぶし	18.0+	18.0+			2.1	H18D187		200401-D129	
	T187	2004	1	E2	SK11	いぶし	17.7+	25.9			2.0	H18D188		200401-D130	
	T188	2004	1	E2	SK11	いぶし	32.2	16.8+	7.2+	2.1	H18D189		200401-D131		
150	T189	2004	1	W1	SK13C	いぶし	31.0	26.5	22.5	2.8	2.3	H18D190		200401-D134	
	T190	2004	1	303P	III層以上	いぶし	18.2+	10.4+			2.0	H18D200		200401-D142	頰印
	T191	2004	6	V層	釉	31.6	26.9	24.2	3.8	1.8	H18D236		200401-D178	越前	
	T192	2004	6	V層	釉	30.6+	14.2+	7.1+			2.2	H18D237		200401-D179	越前
	T193	2004	6	V層	釉	31.2					2.2	H18D238		200401-D180	越前
	T194	2004	6	V層	釉	15.0+	10.8+		1.2+	2.0	H18D223		200401-D165	越前	

単位:cm

第22表 瓦種別表8

平瓦 a 全長 b 広端幅 c 狭端幅 d 弧深 e 厚

図 類No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	表面	a	b	c	d	e	来源No.	IDNo.	特記事項
150	T195	2004	6	V層	釉	21.6+	8.9+	4.3+	1.9+	H18D224	200401-D166	200401-D166	越前、刻印、(焼色)
	T196	2004	6	V層	釉	13.4+	7.0+	1.5+	1.9+	H18D225	200401-D167	200401-D167	越前、刻印、(暗赤釉)

単位:cm

その他 a 全長 b 全幅 c 厚

図 類No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	表面	a	b	c	来源No.	IDNo.	特記事項	
151	T197	2002	3	II層	釉	27.4+	15.3	2.1	H17D047	200201-D138	谷丸(越前)、砂(灰摺釉)	
	T198	2003	3	IV層	いぶし	14.6+	10.0+	5.7	H18D150	200301-D044	鬼瓦	
	T199	2003	3	IV層	いぶし	15.5+	7.7+	5.3+	H18D146	200301-D046	鬼瓦 被熱	
	T200	2002	22	II層	いぶし	13.4+	11.6+	2.0	H16D062	200201-D062	製斗瓦	
	T201	2002	22	II 3層	いぶし				H16D059	200201-D059	砂非常に少、粒子細	
	T202	2002	23	V層	いぶし	9.0	7.8+	1.8	H16D065	200201-D065	体高3.4	
	T203	2002	5	II層	いぶし				H17D033	200201-D124		
	T204	2002	5	II層	いぶし	19.7+	12.5+	4.4+	H17D041	200201-D132	鬼瓦	
152	T205	2004	1	w2区	SK01,SD02	8.0+	6.2	7.4+	H18D194	200401-D136	赤色粒	
	T206	2004	1	E.W4	SK04	9.1+	11.2+	4.3	H18D165	200401-D107	鬼瓦	
	T207	2003	8	調査区遺構外	いぶし	6.3+	9.2+	2.6+	H18D162	200301-D054	釉瓦	
	T208	2004	2	3	SK02(V1層)	いぶし	11.8+	9.5+	5.5	H18D204	200401-D146	鬼瓦?
	T209	2003	6	I層	いぶし	14.0+	14.8	4.8	H18D154	200301-D048	鬼瓦?	
	T210	2004	6	V層	釉	9.0	12.8+	2.0	H18D230	200401-D172	越前、焼色い?	

単位:cm

第23表 金属製品・石製品鑑査表1

図	標No.	調査年	地点	区名	遺構・層位	材質	形種	全長	幅	厚	重量	測頭No.	IDNo.	特記事項
153	M1	2002	21		I層	銅	釦	10.4	2.2	0.2	3.98	H16M16	200201M16	耳環さ付
	M2	2003	3		IV層	鉄	不明	100.0	2.0	2.0	0.55	H18M01	200301-M001	鍍金部材
	M3	2003	3	南側	IV層	鉄	釘	26.5	3.3	2.1	78.05	H18M02	200301-M002	
	M4	2003	3	南側	IV層	鉄	釘	12.5	1.2	0.9	23.20	H18M03	200301-M003	
	M5	2003	3	南側	IV層	鉄	釘	6.5	1.6	0.6	8.85	H18M04	200301-M004	
	M6	2003	3		IV層	鉄	釘	7.8	1.8	0.8	9.20	H18M08	200301-M008	
	M7	2003	3	南側	IV層	鉄	釘	23.4	1.3	1.4	66.60	H18M10	200301-M010	
	M8	2003	3		IV層	鉄	釘	18.6	2.3	1.3	53.60	H18M09	200301-M009	
	M9	2003	3	南側	IV層	鉄	釘	17.5	1.1	0.8	32.70	H18M11	200301-M011	
	M10	2003	3		IV層	銅	釘	5.2	1.0	0.4	2.98	H18M05	200301-M005	
	M11	2002	22		II層	銅	釘	12.6	3.5	0.7	17.36	H16M17	200201M17	
	M12	2002	23		V層	鉄	釘	6.0+	1.6	0.6	10.16+	H16M18	200201M18	
	M13	2002	5		I層	銅	煙管	15.1	2.0	1.6	27.24	H16M01	200201M01	
	M14	2002	6		I層	鉛	軒丸瓦	17.2	16.8	0.2	424.75	H16M02	200201M02	
	M15	2002	7		V12層	鉄	釦?	16.1	6.9	2.6	134.86	H16M03	200201M03	
	M16	2002	7		V12層	鉄	不明	9.3	2.3	1.2	20.74	H16M04	200201M04	端部に輪を有し、連結されている器具
	M17	2002	7		V12層	鉄	釘	3.4	1.0	0.9	3.10	H16M05	200201M05	
	M18	2002	7		V12層	鉄	釘	8.4	2.1	1.3	20.43	H16M06	200201M06	
	M19	2002	7		V12層	鉄	釘	10.7	1.6	1.3	18.44	H16M07	200201M07	
	M20	2002	7		V12層	鉄	釘	9.7	3.1	0.8	17.82	H16M08	200201M08	
	M21	2002	7		V12層	鉄	釘	5.1	1.1	0.7	3.74	H16M09	200201M09	

単位:cm・g

第24表 金属製品・石製品調査表2

図	標No.	調査年	地点	区分	遺構・層位	材質	形態	全長	幅	厚	重量	測頭No.	IDNo.	特記事項
154	M22	2002	7		V12層	鉄	釘	10.6	1.3	1.2	25.11	H16M10	200201M10	
	M23	2002	7		V12層	鉄	釘	8.7	1.4	0.9	15.06	H16M11	200201M11	
	M24	2002	7		V12層	鉄	釘	4.7+	1.0	0.7	3.38+	H16M12	200201M12	頭部、端部欠
	M25	2002	7		V12層	鉄	釘	25.9	3.1	1.4	79.70	H16M14	200201M14	
	M26	2002	7		V12層	鉄	釧	(20.4)	5.6	1.4	138.43+	H16M15	200201M15	胴長(外)18.6、胴幅1.1、釘長4.4、釘幅0.9、釘厚1.0
	M27	2002	7	北側	III層	鉄	釘	27.1	5.9	1.3	117.20	H16M13	200201M13	
	M28	2002	35		I層	銅	釘	13.5	1.7	0.7	26.04	H16M19	200201M19	互折釘
	M29	2002	35		I層	銅	釘	13.1	1.8	0.6	23.36	H16M20	200201M20	互折釘
155	M30	2004	1	E4	SDG2 延長部分	鉛	不明	2.6	2.5	0.3	7.26	H18M29	200401-M017	
	M31	2003	8	W4	III層	銅	釘	6.0	1.2	0.6	4.57	H18M12	200301-M012	
	M32	2003	8	E2	SK11	銅	キセル	1.6	1.7	0.9	2.82	H18M06	200301-M006	大皿
	M33	2004	1	E2	SK11	銅	キセル?	4.0	0.7	0.1	0.85	H18M13	200401-M001	首?
	M34	2004	1	W2~3	SK11	鉄	刀子	9.7	2.3	0.4	[19.56]	H18M14	200401-M002	重量さび部分含む
	M35	2004	1	E2	SK11	鉄	釘	7.3	1.1	1.0	8.66	H18M15	200401-M003	
	M36	2004	1	W2~3	SK11	銅	不明	4.7	1.5	0.4	16.23	H18M16	200401-M004	近代以降混入?
	M37	2004	1	E2	SK11	銅	鏡貨	2.9		0.2	1.34	H18M17	200401-M005	鉛筆元質(摩蓋)(北宋 1094年初層)
	M38	2004	1	W2~3	SK11	鉛	鉄砲玉	1.3	1.3	1.2	9.72	H18M18	200401-M006	
	M39	2004	1	E2	SK11	鉄	釘	4.7	1.0	0.9	3.47	H18M19	200401-M007	
	M40	2004	1	W1	SK13-C	鉛	フツツ ¹⁾	3.0	2.3	0.9	7.57	H18M20	200401-M008	
	M41	2004	1	W1	SK13-C	鉄	釘?	5.7	1.0	0.8	4.21	H18M21	200401-M009	
	M42	2004	1	W1	SK13-C	鉄	釘	5.2	1.0	0.7	3.84	H18M22	200401-M010	
	M43	2003	8		SK14	鉄	不明	47.8	3.1	2.7	209.17	H18M07	200301-M007	鍍金製品

単位:cm・g

第25表 金属製品・石製品鑑査表3

図	標No.	調査年	地点	区分名	遺構・層位	材質	形種	全長	幅	厚	重量	測點No.	IDNo.	特記事項
	155	M44	2004	1	W2	SK15	鉄	釘	3.7	0.9	0.7	H18M23	200401-M011	
		M45	2004	1	W2	SK15	鉄	釘	4.6	1.3	1.1	H18M24	200401-M012	
		M46	2004	1	W2	SK15	鉄	釘	2.0	0.8	0.5	H18M25	200401-M013	
		M47	2004	1	W2	SK15	鉄	釘	1.6	0.4	0.7	H18M26	200401-M014	
		M48	2004	1	E6	SX02	鉛	鉄砲玉	1.1	1.2	0.8	H18M27	200401-M015	
		M49	2004	1	E5	SX02 集出部	鉛	鉄砲玉	1.2	1.2	1.1	H18M28	200401-M016	
		M50	2004	1	W5B	SD03	鉄	鉄滓	4.5	3.3	2.3	H18M35	200401-M023	
		M51	2004	2	4	SX02(V1層)	鉄	釘	4.6	1.2	0.7	H18M30	200401-M018	
		M52	2004	2	4	SX02(V1層)	鉄	釘	6.9	1.2	0.9	H18M31	200401-M019	
		M53	2004	2	4	IV層	鋼	釘	2.4	1.0	1.0	H18M32	200401-M020	
		M54	2004	2	3	I層	鋼	釘	5.5	1.2	0.6	H18M33	200401-M021	
		M55	2004	5-1	II・III層	鋼	鉄貨			0.2	1.46	H18M34	200401-M022	元龜通寶(行唐) (北宋 1078年初鑄)
156	S1	2004	1	E4	SD02下部	凝灰岩	建築部材	22.8	18.7	7.7	3550.00	H18S04	200401-S003	
	S2	2004	1	W3	SD02	凝灰岩	建築部材	22.2	19.8	6.7	2900.00	H18S05	200401-S004	
	S3	2004	1	W1~2	SK13-B	不明	磁石	10.1+	11.7+	4.33+	550.00	H18S07	200401-S006	
	S4	2004	1	E1	SK20	凝灰岩	石壁(石敷)	23.1	25.0	13.4	5700.00	H18S02	200401-S001	
	S5	2004	1	E5,6,7,9	SK26	凝灰岩	石壁の遺構*	11.9	10.2	4.7	411.00	H18S03	200401-S002	
	S6	2003	8	W6	SX02	安山岩系*	石臼	10.3		8.9	900.00	H18S01	200301-S001	白面径30.0
	S7	2004	2	4	SX02(V1層)	青戸凝石	石垣石材	18.1	6.9	8.1	950.00	H18S06	200401-S005	

単位:cm・g

第5章 石垣の基礎的調査

金沢城の石垣については、その保存状況の良好さや、石垣技術を詳しく記した文書（後藤家文書）が残されていること等から、喜内敏（喜内 1976）・北垣聰一郎（北垣 1987）氏らにより夙に注目されてきたところである。

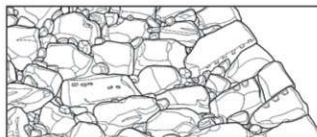
平成 10・11 年の金沢城公園整備事業に係る二ノ丸菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓の復元に伴い、その櫓台・長屋台石垣の解体調査に着手したことで、金沢城石垣の調査研究は大きな画期を迎えることとなった。第 1 点は、言うまでもないことであるが、石垣の外形状と合わせて内部構造を理解することができ、石垣材の加工状況等についても多くの情報を取得できた点である。第 2 点は、解体調査の対象となった櫓台・長屋台石垣が、粗加工石積・切石積という異なる様式を併せ持っており、更に構築以来度重なる修築を受け、江戸時代各期の特徴を諸処に残していたため、城郭の一部分の調査に過ぎないにもかかわらず、金沢城石垣の最大の特徴である石垣の多様性について、全般的に見通すような成果を挙げることが可能となった点である。

この成果を踏まえた城内石垣の観察と、文献記録の記載等から、金沢城の石垣は現段階で大別 7 期に編年されている（第 157 図、北野 2003・2004 他）。但し、文献記録に対する本格的な史料批判は始まったところであり、年代観については多少修正される可能性もある。また、石垣変遷のどの部分に大きな画期を見いだすべきかについては、石垣構築技術のより詳細な観察を進めることと並行して、各地の城郭石垣と比較するという視点も重要となる。この視点については、本事業とは別に、石垣構築技術等比較研究事業として平成 19 年度より着手しているところである。なお石垣の測量図化については、公園整備事業の一環として進められており、城内全体の 8 割方が完了している。

第 3 章でも述べたとおり、石垣の基礎的調査は、編年の大綱がほぼ定まった後を受け、時期ごとの石垣の分布状況について、改修範囲等も含めて把握することに加え、当面のところ本丸周辺や三ノ丸北面等、文禄～慶長期の石垣を対象に、積み方の他、石材に残された加工痕を詳細に観察し、石垣編年の精緻化や、細部に至る構築技術について認識を深めることを目標に進められている。その際の課題として、定量化を図ることが挙げられる。具体的には測量図面をベースに石材単位で面加工の内容・範囲を記入し、おおよその数量・面積を集計し、比率を求めるなどの手法を試みている。今回はその作業の一端を示し（第 158 図）、全体的なとりまとめ等については次回報告に期したい。以下に各年次の調査結果を簡略にまとめた。

平成 14 年度は、土木部からの受託事業である櫓復元可能性調査を踏まえ、丑寅櫓・辰巳櫓・戌亥櫓付近について重点をおいて実施された。

平成 15・16 年度は、東ノ丸東面・本丸～東ノ丸南面の石垣を対象に、刻印の有無や矢穴の有無形状等を確認し、立面図に記録するとともに、慶長新段階（石垣編年 2 期後半、粗加工石積石垣Ⅲ b 類）の標識とされている辰巳櫓下石垣について、石材加工の時期的特徴を抽出するための基礎的データを収集した。その結果、部位による石材加工の違い、自然面と割面の比率、ノミ調整加工の頻度と部位等の様相が明確化した。慶長新段階に石垣石が自然面、割面が半ばする様相であることが明らかになった。この他、慶長古段階（石垣編年 2 期前半）に位置づけられる申酉櫓下石垣についても、同じく石材詳細図を作成した。

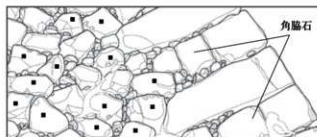


丑寅槽下 (北) (東ノ丸北面)

1期 文禄年間頃 (1592~1596)

自然石積

- ・築石は自然石主体 (割石混じる)
- ・隅角部：算木積み
(角石は割石、角脇石未成立)
- ・刻印ごく稀

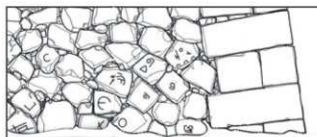


■小面が割面・ノミ加工面の築石 辰巳槽下 (本丸南面)

2期 慶長年間頃 (1596~1615)

割石積

- ・築石は割石主体
(ノミによる部分加工石混じる)
- ・角石加工進展、角脇石の定着
- ・小型刻印増加



東ノ丸附段 (東) (上部積み直し)

3期 元和年間頃 (1615~1624)

粗加工石積

- ・ノミによる部分調整の粗加工石主体
- ・角石、角脇石の切石化 (~7期)
- ・小型刻印普遍化

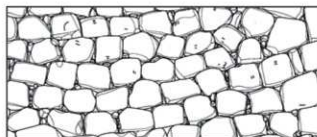


石川門下 (白鳥堀縁)

4期 寛永年間頃 (1624~1644)

粗加工石積

- ・ノミによる全面調整の粗加工石主体
- ・粗加工の板状詰石出現
- ・刻印の大型化



二ノ丸要槽下 (東)

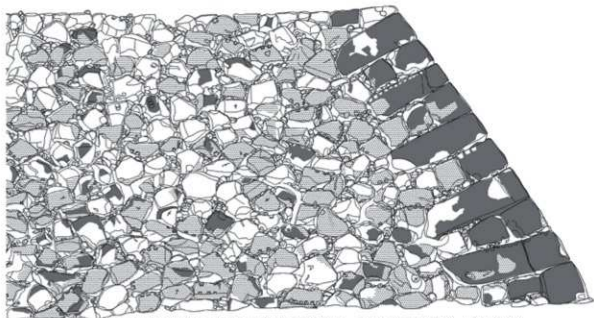
5期 寛文~元禄年間頃 (1661~1704)

粗加工石積

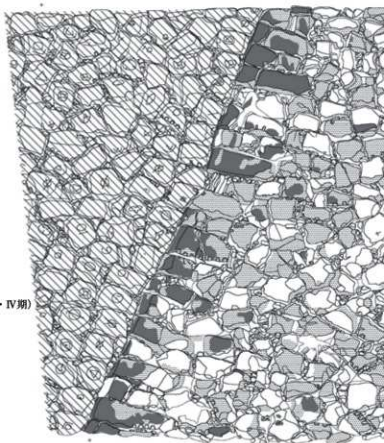
- ・粗加工石の規格化
- ・隅角の稜線を縁取り加工
- ・精加工の板状詰石出現
- ・刻印の減少、大型刻印の消滅



第157図 石垣の変遷 (金沢城研究調査編2005「石垣の匠と技」『金沢城フォーラム 記録集』より)



(本丸辰巳櫓下石垣 粗加工石積み石垣Ⅲb類 石垣編年2期後半 慶長後期)



V類(寛永期・IV期)
継ぎ足し

(本丸申西櫓下石垣 粗加工石積み石垣Ⅲa類 石垣編年2期前半 慶長前期)

- 自然面未調整
- 割面未調整
- ノミ調整加工

0 S=1/100 4m

第158図 本丸石垣の石材加工詳細図



丑寅槽（東ノ丸）北面（1121N）



丑寅槽東側の石垣・平坦面



丑寅槽（東ノ丸）北面（1121N）東



丑寅槽東側石垣（下段から1220E、1210E、1121E）



丑寅槽東側石垣（左から1131E、1200S・E、1220S）



丑寅槽（東ノ丸）北面（1121N）西



東ノ丸東面石垣（上段1130E、下段1131E 右手前1200E）

第159図 丑寅槽下・東ノ丸東面の石垣



辰巳櫓下石垣 (右から1131E・S、1140E)



辰巳櫓下石垣 (下段1140S2、上段は近代の改修)



東ノ丸東面石垣 (1131E) 近景



辰巳櫓下石垣 (1140S2) 近景



辰巳櫓下石垣 (1140E 右1131S・E)



申酉櫓下石垣 (左1151S1、右1151S2) 近景

第160図 東ノ丸東面・辰巳櫓下・申酉櫓下の石垣

第6章 自然科学的調査

第1節 金沢城跡本丸附段 2004-1 (2003-8) 地点の動物遺体同定

黒澤 一男 (パレオ・ラボ)

1. 対象試料および方法

石川県金沢市にある金沢城跡から出土した動物遺体について同定をおこなった。同定は現生標本との比較によりおこなった。

2. 同定結果および考察

対象試料には、金沢城跡本丸附段第1地点(2004-1 (2003-8) 地点)の南側に位置する食料残渣廃棄土坑2個(SK14・SK15)とそれに隣接する土坑(SK18)、大型土坑(SK11)、地下室状の土坑(SK13)の5つの土坑から採取された動物遺体を用いた。これらから出土した動物遺体について同定した結果を以下に述べる。なお詳しい出土内容および歯の計測値については、表1~3および付表に示す。

【SK11】

SK11からは貝類、魚類、哺乳類が出土している。

魚類試料は、細片化していることやその多くが、棘などの破片であることから同定できるものは少なかったが、タイ類の歯が検出されている。

貝類試料はいずれも保存状態が悪く、ほとんどが種同定にはいたらなかったが、破片でアサリが確認され、巻貝は芯しか残っていないもののその形状からサザエと考えられる。

哺乳類試料はウマの頭蓋骨であり、頭頂部が欠如している。骨が脆弱なため、土ごと取り上げられた状態のものから観察をおこなった。上顎の臼歯は歯根部を欠くもののほぼすべて確認された。切歯も確認されるが、細片化しているため、詳細は不明である。出土個体の年齢推定をおこなうために、臼歯の全歯高(歯根中心部と咬合面中心部の直接距離;久保和士・松井章, 1999)の計測をおこなった。なお、右上顎臼歯について第2前臼歯以外は歯根部が欠損し計測対象にならない。その結果、(表2)、およそ3~5才程度の若い成獣個体と推定される。またおおよその頭蓋底長(切歯接合部と大孔との直線距離)が計測できる状態であり、計測をおこなった結果、およそ体高140cmの中型のウマと推定される。

そのほかにウシの上顎臼歯が検出されている。これらの臼歯は咬耗しておらず、未萌出の歯もしくは萌出直後の臼歯と考えられる。ウシの臼歯は3才前後でおおよそ萌出が完了する。そのことを考慮すると、これらのウシの臼歯は3才未満の幼獣個体と推定される。

【SK13】

SK13からは貝類、魚類が出土している。

貝類試料はいずれも保存状態が悪く、ほとんどが種同定にはいたらなかった。巻貝は芯しか残っていないもののその形状からアカニシやテングニシのような貝類と考えられる。

魚類試料は、SK11と同様に細片化していることやその多くが、棘などの破片であることから同定できるものは少なかったが、タイ類の主上顎骨、第1腹椎、第2腹椎が検出されている。

【SK14】

SK14からは少量ではあるが、貝類、魚類が出土している。

貝類試料は保存状態が悪く、種同定にはいたらなかった。

魚類試料は、タラ類の尾椎が検出されている。

【SK15】

SK15からは多数の骨片が検出され、貝類や魚類、鳥類が確認されている。

貝類試料はいずれも保存状態が悪く、ほとんどが種同定にはいたらなかったが、カキが検出されている。

魚類試料は、SK11などと同様に細片化しており、棘などの破片が多数含まれている。その中で、タイ類、タラ類、スズキ類、フグ類、フサカサゴ科、サケマス類、ホウボウ科が検出されている。タイ類にはマダイ亜科のものが多く含まれ、マダイもしくはチダイである可能性が考えられる。タラ類にはマダラとスケトウダラの両種が含まれている。サケマス類には椎体横径1cm程度のものも含まれるが、5mm程度のものが多く含まれ、シロザケなどのサケ類のみではなく、小型のマス類も含まれていると考えられる。

鳥類試料は、大腿骨、橈骨、上腕骨、中手骨、指骨などが検出されている。大腿骨と橈骨はガン小型、そのほかの四肢骨片はモズぐらいの小型鳥類のものである。

【SK18】

SK18からは魚類、貝類が出土している。

魚類試料は、タイ類の主上顎骨や歯骨、椎骨が検出されている。

貝類試料は、アワビ類、ハマグリ、シジミが検出されている。アワビ類は保存状態が悪く、種類の同定はできないが、比較的大きなものである。

3. まとめ

金沢城跡本丸附段第1地点から出土した動物遺体を同定した結果、日本海などで採れる豊富な魚類と貝類が検出された。タイ類（おそらく多くはマダイ）やタラ類（スケトウダラとマダラ）、カサゴ類など近海で捕れる魚類が多く認められた。また現在では高級魚であるアラも検出されている。それらの大きさは、タイ類が大きいもので体長50cm以上のものが検出されているが、体長30～40cm程度のものが多く含まれ、タラ類は最大で体長60cm以上の個体が検出され、アラはやや小型の個体（体長30～40cm程度）が検出されている。全体として大きな個体のはあまり検出されなかった。また今回検出された魚類数はあまり多くない。その理由として、骨類の残存状況が良好でなく、魚骨でもっとも多く検出される椎骨の大半が同定のキーとなる棘を欠損しており、同定にはいたらなかったためである。

貝類では大型のアワビや、サザエなど比較的高価と思われるものが検出されている。

哺乳類や鳥類がほとんど検出されていないのは、それらの動物類は解体された後に持ち込まれている為、残滓としては含まれず、検出されなかったと考えられる。

また、ウマとウシが各1個体検出されている。ウマは3～5才程度の中型の成獣であり、ウシは3才未満の幼獣個体と推定された。

食材残渣には加工痕が残されていることがあるが、今回検出された試料は焼骨でとても脆弱になっているため、加工痕は確認できなかった。

引用文献

久保和士・松井章(1999)第9章家畜<その2>-ウマ・ウシ>、西本豊弘・松井章編「考古学と動物学」、169-208。

表1 金沢城跡本丸附段第1地点出土貝類集計表

地区 遺構名 層位・位置	E2・W2・W3 区						
	SK11(層位:第81図A断面参照 但し14・15、21層:整地層V・IV層 18層:SK15) 2層 7層 9層~11層 14・15層(V期) 18層(SK15) 21層(IV層)						
アサリ				Fr.			
アワビ類							
カキ							
シジミ	左						
	右						
	不明						
ハマグリ(?)	左						
二枚貝				2			
巻貝	Fr.	Fr.	Fr.	Fr.	Fr.	Fr.	Fr.
貝類				Fr.			

地区 遺構名 層位・位置	W1区		
	SK13	SK13-B	SK13-c
アサリ			
アワビ類			
カキ			
シジミ	左		
	右		
	不明		
ハマグリ(?)	左		
二枚貝		Fr.	
巻貝	Fr.		Fr.
貝類			

地区 遺構名 層位・位置	SK14	W2区					SK18
		SK15(層位:第86図参照) 南サブトレレンチ 1層 2,3,4層 5層 6層					
アサリ							
アワビ類							2
カキ		Fr.					
シジミ	左						5
	右						4
	不明						8
ハマグリ(?)	左						2
二枚貝							
巻貝	Fr.	Fr.	Fr.	Fr.	Fr.	Fr.	Fr.
貝類		Fr.		Fr.	Fr.		

表3 金沢城跡本丸附段第1地点SK11検出ウマ上顎白歯の全歯高計測値

	第2前白歯	第3前白歯	第4前白歯	第1後白歯	第2後白歯	第3後白歯
	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃
左	49.5	67.0	67.1	(69.2)	62.2	(60.2)
右	50.6	計測不可	計測不可	計測不可	計測不可	計測不可

※0付きの計測値は、歯根部が破損しているため、参考計測値としての表記である。

表2 金沢城跡本丸階段第1地点出土魚類集計表

	地区 遺構名	E2区 SK11	W1区				W2区 SK15					計				
			大形目 類	A断面9 ~11層	SK13	SK13-c	SK14	骨サブ トレンザ	2,3,4 層	5層	5,6層		7層	SK18		
アラ	主上顎骨	右						1					1			
	歯骨	左											1			
		右						1					1			
	方骨	右						1					1			
	舌顎骨	左						1					1			
アラウ	前上顎骨	左			1								2			
	方骨	左						1					1			
コナ	腹椎						1						1			
コナウ	歯骨	左						1					1			
サナマス類	腹椎							4		7		2	13			
	尾椎							1			3		4			
	椎骨		1					6	3				10			
タイ科	マダイ亜科 マダイ	前歯骨												2		
		主上顎骨	左			1								1		
			右										1		1	
		前上顎骨	左										1		1	
			右												2	
		歯骨	左				1				1				3	
			右												1	
		方骨	左												1	
			右												2	
		角骨	左												1	
			右												1	
		上後頭骨													2	
		後頭骨	右												1	
		前上顎骨	左												3	
			右												2	
		主上顎骨	左												1	
		歯骨	右							6			1	7		
		歯		1	1					7	2	1	1	13		
		方骨	左							2					2	
			右							1		1			2	
		角骨	左							1		1			2	
			右							1					1	
		主胸歯骨	左							1					1	
			右							2					2	
		口蓋骨	左							1					1	
		第1腹椎				1				3					4	
		第2腹椎				1				1					2	
タイ類	腹椎			1				4	1			1	7			
	尾椎			3				16	2	1	1	2	25			
タイ科?	前歯骨	左						1					1			
タウ科	マダラ	前上顎骨	左				1						1			
タウ科	マダラ	歯骨	左					1					1			
		右											1			
タウ科?	スケトウダラ	主上顎骨	右					1						1		
		歯骨	右					2						2		
		基後頭骨							1					1		
		主上顎骨	右						3					3		
		前上顎骨	右							1				1		
タウ科?	ホウボウ科	歯骨	右									1		1		
		角骨	左							1				1		
		第1腹椎							1					1		
		第2腹椎							1					1		
		腹椎					1		7		1			9		
		尾椎					2		15		2			19		
		タウ科?	第1腹椎	右					1					2		
		フナカサゴ科	前上顎骨	右							1			1		
		フナカサゴ科?	ホウボウ科	方骨	左					1					1	
				尾椎								6	8		17	
歯骨	左								1	1			2			
フナ科	魚鱗未同定	腹椎								1			1			
		尾上顎骨							2		1		3			
魚鱗未同定	魚鱗未同定	主上顎骨	右											1		
		歯骨	左											1		
			右											1		
		方骨												1		
		角骨	左											1		
		舌顎骨	左											1		
		基後頭骨										1		1		
		第1腹椎							3					3		
		腹椎		1					13	3	5	2		24		
		尾椎							35	3	5	8		51		
		椎骨							3	5	13			21		
		尾節棒状骨									1			1		
		魚鱗不明	魚鱗不明	主上顎骨	左											1
					右											1
前上顎骨	右											1		1		
歯骨	左					1								1		
方骨														1		
角骨	右											1		1		
歯									2		5			7		
前歯骨						1								1		
紅甲骨														1		
腹椎					1				5	1	1			8		
尾椎									10	1				11		
椎骨							3		3					6		
計			1	3	1	12	3	2	1	213	32	59	20	5	352	

付表 金沢城跡本丸附段第1地点における動物遺体出土表 (1/5)

試料 番号	地区	遺構名	層位・位置	採取日	種名	左右	部位	状態	備考
1	W2区	SK15	7層	040601	サケマス類		腹椎		2個
1	W2区	SK15	7層	040601	魚種不明	左	方骨		
1	W2区	SK15	7層	040601	魚種未同定		尾椎		
1	W2区	SK15	7層	040601	魚種未同定		尾椎		3個
1	W2区	SK15	7層	040601	魚種不明		椎骨	破片	多数
2	W2区	SK15	5層	040528	アラ	右	主上顎骨		標本体長56cmの2/3程度
2	W2区	SK15	5層	040528	タイ科		歯		2個
2	W2区	SK15	5層	040528	タイ型		腹椎		
2	W2区	SK15	5層	040528	タイ型		尾椎		
2	W2区	SK15	5層	040528	サケマス類		椎骨		3個
2	W2区	SK15	5層	040528	サケマス類		椎骨	破片	
2	W2区	SK15	5層	040528	フサカサゴ科		尾椎		6個, 椎体横径 3.8mm・ 4.4mm 標本体長64cmスケトウ ダラと同じ程度
2	W2区	SK15	5層	040528	タラ科	左	角骨		
2	W2区	SK15	5層	040528	魚種未同定		方骨		
2	W2区	SK15	5層	040528	魚種未同定		腹椎		2個
2	W2区	SK15	5層	040528	魚種未同定		尾椎		2個
2	W2区	SK15	5層	040528	魚種未同定		椎骨		5個
2	W2区	SK15	5層	040528	鳥類(小型)	左	中手骨	近位部破片	
2	W2区	SK15	5層	040528	鳥類		指骨	近位～骨幹部	
2	W2区	SK15	5層	040528	鳥類		椎骨		
2	W2区	SK15	5層	040528	鳥類		指骨	近位～骨幹部	
3	W2区	SK15	5, 6層	040601	タイ科		尾椎		椎体横径 10.6mm
3	W2区	SK15	5, 6層	040601	タイ科	右	方骨		
3	W2区	SK15	5, 6層	040601	タラ科		腹椎		椎体横径 7.4mm
3	W2区	SK15	5, 6層	040601	フサカサゴ科		尾椎		2個
3	W2区	SK15	5, 6層	040601	フサカサゴ科		尾椎		3個
3	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種不明		腹椎		
3	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種未同定		椎骨		11個
3	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種不明		椎骨	破片	
4	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種不明		椎骨	破片	
4	W2区	SK15	5, 6層	040601	鳥類	右	尺骨?	骨幹	
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科	左	前上顎骨		
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科		腹椎		2個, 椎体横径13.5mm・ 11.3mm
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ型		腹椎		
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ型		尾椎		
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	アラ	左	歯骨		標本体長56cmの2/3程度
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	マダラ	右	歯骨		
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	スケトウダラ	右	歯骨		標本体長64cmスケトウ ダラの1/2程度
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科	右	主上顎骨		標本体長64cmスケトウ ダラと同じ程度
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科		腹椎		2個
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定		腹椎		
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定		尾椎		
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		椎骨	破片	
5	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	貝類		椎骨	破片	
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	マダラ	左	方骨		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	マダイ		前上顎骨	破片	
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ型		尾椎		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科		歯		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科		前上顎骨	破片	
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	フグ科		前上顎骨	破片	2個
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科		尾椎		3個, 椎体横径 7.4mm・ 5.9mm
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定		尾椎		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定		腹椎		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定	右	主上顎骨		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定		咽頭骨		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定		尾部棒状骨		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		椎骨	破片	多数
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明	左	主上顎骨		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	ガン小型	右	大腸骨	近位部破片	標本カルガモより大
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	鳥類		椎骨		
6	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	鳥類		連合寛骨	破片	
7	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	アラ		腹椎		椎体横径 9.9mm

付表 金沢城跡本丸附段第1地点における動物遺体出土表 (2/5)

試料 番号	地区	遺構名	層位・位置	採取日	種名	左右	部位	状態	備考
7	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科		腹椎		
7	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ型		尾椎		
7	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		尾椎		
8	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科	右	主上顎骨		
8	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	サケマス類		椎骨	破片	4個
8	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明	右	前上顎骨		
8	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		椎骨	破片	
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	鳥類(小型)	右	上腕骨	近位~骨幹部	モズぐらいの大きさ
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科	左	前上顎骨	破片	
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科	右	歯骨	破片	
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		歯骨		
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	サケマス類		椎骨		
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	アラ?	左	前上顎骨	破片	
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科		腹椎		
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科		尾椎		4個
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		第1腹椎		
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		腹椎		3個
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		尾椎		12個
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		椎骨		3個
9	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		椎骨		多数
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科	左	主蹠歯骨		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科	左	角骨		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科	右	歯骨		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科		第1腹椎		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科	右	方骨		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科		歯		2個
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ型		尾椎		3個
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	アラ	右	方骨		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	アラ	右	歯骨		標本体長56cmの1/2程度
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	フサカザゴ科	左	方骨		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	フサカザゴ科		尾椎		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	フサカザゴ科?	左	歯骨		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科		腹椎		2個
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科		尾椎		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		第1腹椎		2個
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		腹椎		
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		尾椎		6個
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		椎骨	破片	多数
10	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		肩甲骨		
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科		歯		2個
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タイ科		歯骨	破片	
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科	右	主上顎骨	破片	
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科		腹椎		2個
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科		尾椎		3個
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	アラ?	左	方骨	破片	
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	スケウダラ		基後頭骨		
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	サケマス類		腹椎		
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		尾椎		2個
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未特定		尾椎		3個
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		椎骨	破片	多数
11	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明	右	方骨	破片	タイ科小型?
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	スケウダラ	右	歯骨	破片	
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	マダイ		前頭骨	破片	2個
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	マダイ	左	歯骨		
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	マダイ	右	方骨		2個
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	マダイ亜科		上後頭骨		2個
12未分	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	マダイ亜科	右	後頭骨		
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	左	口蓋骨		
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	左	下顎骨		2個
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	右	主蹠歯骨		2個
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		尾椎		3個, 椎体横径 11.2mm + 9.5mm + 9.3mm
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		第2腹椎		椎体横径 14.2mm
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		尾椎		椎体横径 12.2mm
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		尾椎		椎体横径 13.7mm
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		尾椎		椎体横径 9.1mm
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	右	歯骨		

付表 金沢城跡本丸附段第1地点における動物遺体出土表 (3/5)

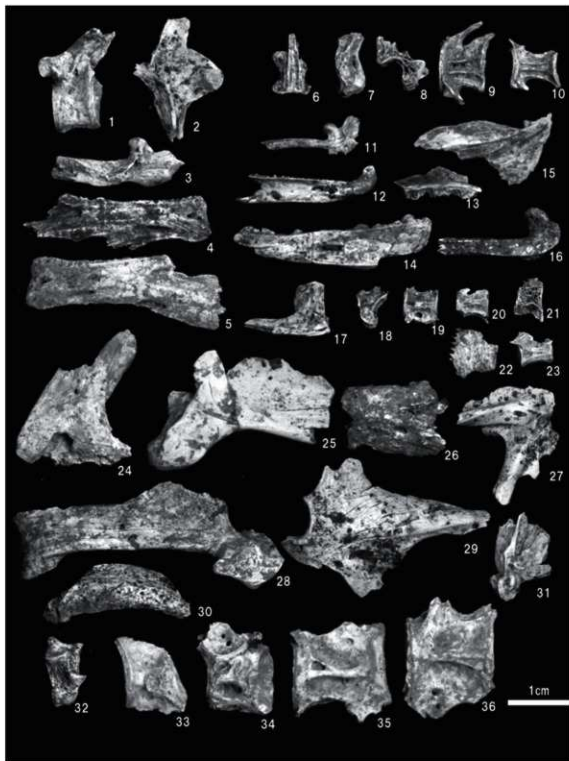
試料番号	地区	遺構名	層位・位置	採取日	種名	左右	部位	状態	備考
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		尾椎		椎体横径 8.0mm
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科?	左	前総蓋骨		
12未分	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	アラ	左	舌顎骨	2個	
12未分	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種未同定	左	歯骨		
12未分	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種未同定	右	歯骨		
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		椎骨	破片	2個
12未分	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	ガン小型	左	橋骨		標本カルガモより大
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	鳥類		四肢骨	骨幹破片	
12	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	貝類			破片	
13	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		歯骨		
13	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		歯		
13	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タラ科		第1腹椎		
13	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		椎骨	破片	
13	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		腹椎		
13	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	鳥類(小型)	右	中手骨		近位～骨幹部
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	左	方骨		
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	マダイ	左	前上顎骨		
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	右	前上顎骨		
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	右	前上顎骨		
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ型		尾椎		
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	サケマス類		腹椎		
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		腹椎		
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		尾椎	2個	
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		椎骨		
14	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		椎骨	破片	
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ型		尾椎		
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		尾椎		椎体横径 6.0mm
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		尾椎		椎体横径 5.7mm
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	右	歯骨		
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	マダイ	右	歯骨		
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タラ科		第2腹椎		
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タラ科		尾椎	2個	椎体横径 6.5mm
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	スケトウダラ	右	主上顎骨		
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	コチ		腹椎		椎体横径 6.1mm
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		腹椎		4個
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		尾椎		8個
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種不明		椎骨	破片	
15	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	鳥類		椎骨		
16	W2区	SK15		040521	貝類			破片	
17	W2区	SK15		040520	貝類			破片	
17	W2区	SK15		040520	巻貝		芯	破片	
18	W2区	SK15		040519	貝類			破片	
18	W2区	SK15		040519	巻貝		芯	破片	
19	W2区	SK15		040518	タラ科		腹椎		椎体横径 8.1mm
19	W2区	SK15		040518	マダイ	左	歯骨		
19	W2区	SK15		040518	魚種不明		椎骨	破片	
19	W2区	SK15		040518	貝類			破片	
19	W2区	SK15		040518	カキ			破片	
19	W2区	SK15		040518	巻貝		芯	破片	
20	W2区	SK15	南サブトレンチ	040603	タイ科?	右	前総蓋骨		
20	W2区	SK15	南サブトレンチ	040603	巻貝		芯	破片	
21	W2区	SK15	6層	040601	巻貝		芯	破片	
22	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	巻貝		芯	破片	
23	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		第1腹椎		
23	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	巻貝		芯	破片	
24	W2区	SK15	1層	040527	貝類			破片	
24	W2区	SK15	1層	040527	巻貝		芯	破片	
25	E2区	SK11		040526	巻貝		芯	破片	
26	E2区	SK11		040521	巻貝		芯	破片	
27	E2区	SK11		040527	巻貝		芯	破片	
28	E2区	SK11		040518	巻貝		芯	破片	
29	W2～3区	SK11	2層	040615	巻貝			破片	
30	W2～3区	SK11	7層	040616	巻貝		芯	破片	小1個
31	W2～3区	SK11	7層	040616	巻貝		芯	破片	大小各1個
32	W2区	SK11	9層～11層	040617	巻貝		先		
33	E2区	SK11	9層～11層	040610	二枚貝			破片	
34	E2区	SK11	9層～11層	040616	アサリ			破片	
34	E2区	SK11	9層～11層	040616	二枚貝	左	殻頂		

付表 金沢城跡本丸階段第1地点における動物遺体出土表 (4/5)

試料 番号	地区	遺構名	層位・位置	採取日	種名	左右	部位	状態	備考
34	E2区	SK11	9層~11層	040616	二枚貝	右	殻頂		
34	E2区	SK11	9層~11層	040616	巻貝		芯	破片	
34	E2区	SK11	9層~11層	040616	貝類			破片	
35	E2区	整地層V層	14・15層(第81図)	040623	巻貝		芯	破片	
36	E2区	整地層IV層	21層(第81図)	040629	巻貝		芯	破片	
37	E2区	SK15	18層(第81図)	040618	巻貝		芯	破片	
38	W2区	SK14		040518	タラ科		尾椎		2個
38	W2区	SK14		040518	魚種不明		棘など		
38	W2区	SK14		040518	魚種不明		椎骨	破片	
38	W2区	SK14		040518	魚種不明		前脛蓋骨		
38	W2区	SK14		040518	巻貝		芯	破片	
39	W1区	SK13		040526	巻貝		芯	破片	2個
40	W1区	SK13		040520	巻貝		芯	破片	2個
41	W1区	SK13-B		040629	二枚貝			破片	
42	W1区	SK13-c		040603	タイ科?		顎骨?		
42	W1区	SK13-c		040603	魚種不明		椎骨	破片	
42	W1区	SK13-c		040603	タイ科		第2腹椎		
42	W1区	SK13-c		040603	タイ科		尾椎		2個, 椎体横径 12.6mm・ 10.0mm
42	W1区	SK13-c		040603	魚種不明	左	歯骨	破片	
42	W1区	SK13-c		040603	巻貝		芯	破片	
43	W1区	SK13		040601	魚種不明		腹椎		
43	W1区	SK13		040601	巻貝		芯	破片	
44	W1区	SK13-c		040602	タイ型		腹椎		
44	W1区	SK13-c		040602	タイ型		尾椎		2個
44	W1区	SK13-c		040602	魚種不明		椎骨		3個
44	W1区	SK13-c		040602				破片	
44	W1区	SK13-c		040602	巻貝		芯	破片	8個
45	W1区	SK13-c		040604	タイ科		第1腹椎		
46	W1区	SK13-c		040602	タイ科		尾椎		2個, 椎体横径 11.3mm・ 10.5mm
46	W1区	SK13-c		040602	マダイ	左	主上顎骨		
46	W1区	SK13-c		040602	アラ?	左	前上顎骨		
46	W1区	SK13-c		040602	魚種不明		椎骨	破片	
46	W1区	SK13-c		040602	巻貝		芯	破片	4個
47	W2区	SK18		040614	アワビ類				2個
48	W2区	SK18		040616	マダイ	右	主上顎骨		
48	W2区	SK18		040616	タイ型		腹椎		2個
48	W2区	SK18		040616	タイ科	右	歯骨		
48	W2区	SK18		040616	タイ型	右	尾椎		2個
48	W2区	SK18		040616	巻貝		芯	破片	
49	W2区	SK18		040614	ハマグリ	左			2個
49	W2区	SK18		040614	シジミ	左			5個
49	W2区	SK18		040614	シジミ	右			3個
49	W2区	SK18		040614	シジミ	不明			5個
50	W2区	SK18		040609	シジミ	右			
50	W2区	SK18		040609	シジミ	不明			3個
51	W2区	SK15	7層	040601	サケマス類		尾椎		3個
51	W2区	SK15	7層	040601	タイ科		顎骨	破片	
51	W2区	SK15	7層	040601	タイ科		尾椎		
51	W2区	SK15	7層	040601	魚種未同定		腹椎		
51	W2区	SK15	7層	040601	魚種未同定		尾椎		2個
51	W2区	SK15	7層	040601	魚種不明	右	主上顎骨		
51	W2区	SK15	7層	040601	魚種不明		椎骨	破片	多数
52	W2区	SK15	7層	040601	タイ科		歯		
52	W2区	SK15	7層	040601	タラ科	右	歯骨		
52	W2区	SK15	7層	040601	魚種未同定		尾椎		3個
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	マダイ	左	歯骨	破片	
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	タイ科		歯		
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	フサカザゴ科	右	前上顎骨		
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	フサカザゴ科		尾椎		3個
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	コチ?	左	歯骨		小型
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	ホウボウ科		腹椎		
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	ホウボウ科		尾椎		
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	サケマス類		腹椎		
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	サケマス類		腹椎		6個
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	タラ科?		第1腹椎		2個

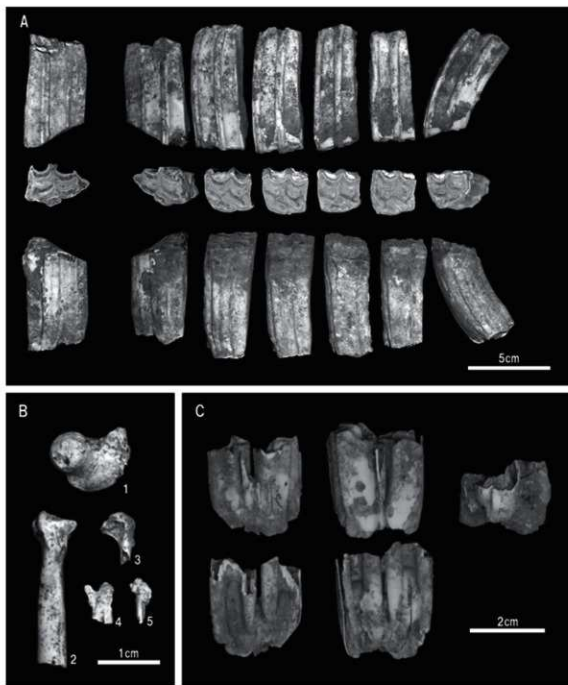
付表 金沢城跡本丸附段第1地点における動物遺体出土表 (5/5)

試料 番号	地区	遺構名	層位・位置	採取日	種名	左右	部位	状態	備考
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種未同定		腹椎		5個
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種未同定		尾椎		7個
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種未同定		基後頭骨		
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種未同定		尾部棒状骨		
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種不明		椎骨	破片	多数
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	魚種不明		歯		5個
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	鳥類(小型)	右	中手骨	近位部	
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	鳥類		指骨	骨幹～遠位部	
53	W2区	SK15	5, 6層	040601	鳥類		四肢骨	骨幹破片	
54	W2区	SK15	5層	040528	タラ科	右	前上顎骨		
54	W2区	SK15	5層	040528	タラ科		歯骨	破片	
54	W2区	SK15	5層	040528	フサカザゴ科?	左	歯骨		
54	W2区	SK15	5層	040528	タイ型		尾椎		
54	W2区	SK15	5層	040528	魚種不明		椎骨	多数	
54	W2区	SK15	5層	040528	魚種未同定		腹椎		2個
54	W2区	SK15	5層	040528	魚種不明		尾椎		
54	W2区	SK15	5層	040528	巻貝		芯	破片	
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	右	角骨		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	右	主上顎骨		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		歯骨		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科	左	方骨		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ科		尾椎		4個
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	マダイ	右	角骨		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	マダイ	右	前上顎骨		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タイ型		腹椎		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	タラ科		尾椎		2個
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	フサカザゴ科		尾椎		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	フサカザゴ科		尾椎		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	サケマス類		尾椎		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	サケマス類		腹椎		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種未同定	右	舌頭骨		
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種未同定		尾椎		6個
55	W2区	SK15	2, 3, 4層	040527	魚種未同定		腹椎		5個
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	タラ科?		第1腹椎		
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	マダラ	左	歯骨		
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	マダラ	左	前上顎骨	破片	
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	サケマス類		腹椎		
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	サケマス類		腹椎		
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定		方骨		
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定	左	角骨		
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定		腹椎		2個
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種未同定		尾椎		4個
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		椎骨	破片	
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		歯	破片	
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明	右	角骨		
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	魚種不明		鱗		
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	鳥類		四肢骨	骨幹破片	
56	W2区	SK15	2, 3, 4層	040528	鳥類		指骨	遠位部	
57	E2区	SK11	大別B層	040603	タイ科		椎骨	破片	
57	E2区	SK11	大別B層	040603	魚種不明		椎骨	破片	
58	W2～3区	SK11	7層	040616	魚種不明		椎骨	破片	
59	E2区	SK11	9～11層	040616	タイ科		歯		
59	E2区	SK11	9～11層	040616	魚種不明		鱗		
59	E2区	SK11	9～11層	040616	魚種不明		椎骨	破片	
59	E2区	SK11	9～11層	040616	魚種未同定		腹椎		
59	E2区	SK11	9～11層	040616	サケマス類		椎骨		
61	E2区	SK11	東タチワリ下部	040702	ウシ		上顎後臼歯		未萌出
—		SK11			ウマ		頭蓋骨		後頭骨、上顎骨、切歯骨、左右上顎第2前～第3後臼歯、左右切歯頭蓋底長約46cm



図版1 金沢城跡本丸附段第1地点出土魚類

- 1~5. アラ(1:腹椎, 2:舌顎骨 左, 3:主上顎骨 右, 4:齒骨 左, 5:齒骨 右)
 6~11~12. スケトウダラ(6:基後頭骨, 11:主上顎骨 右, 12:齒骨 右)
 7~10~15~16. タラ科(7:第1腹椎, 8:第2腹椎, 9~10:尾椎, 15:角骨 左, 16:主上顎骨 右)
 13~14. マダラ(13:前上顎骨 左, 14:齒骨 左)
 17~20. フサカサゴ科(17:前上顎骨 右, 18:方骨 左, 19~20:尾椎)
 21. サケマス属 腹椎 22. フグ科 前上顎骨 23. コチ科 腹椎
 24~31~34. タイ科(24:前上顎骨 左, 31:方骨 左, 32:第1腹椎, 33:第2腹椎, 34:腹椎)
 25~30. マダイ亜科(25:主上顎骨 左, 26:齒骨 左, 27:後側頭骨 右, 28:主上顎骨 右, 29:角骨 右, 30:前上顎骨 左)
 35~36. タイ型尾椎



図版2 金沢城跡本丸附段第1地点出土鳥類・哺乳類

A. ウマ(上段:外側面, 中段:咬合面, 下段:内側面)

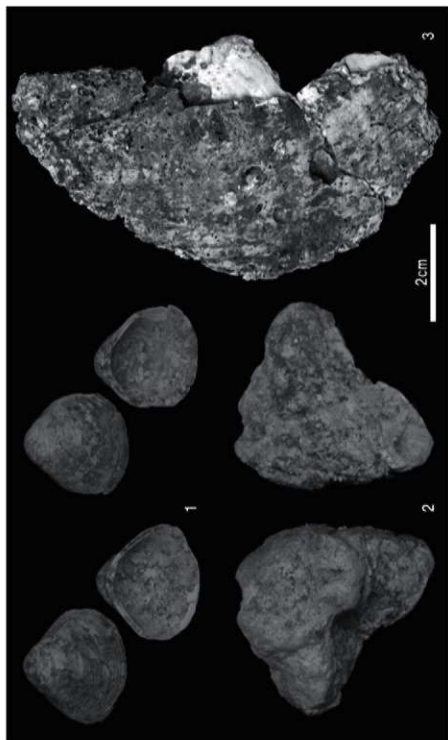
(左から)右上顎第2前臼歯・左上顎第2前臼歯～第3後臼歯。

B. 鳥類

1・2. ガン小型(1:大腿骨 右近位部 2. 橋骨 左近位～骨幹部)

3～5. 小型鳥類(3:上腕骨 右近位～骨幹部, 4・5:中手骨 右近位～骨幹部)

C. ワシ 上顎臼歯(上段:内側面, 下段:外側面)



図版3 金沢城跡本丸附段第1地点出土貝類
1. シジミ 2. カキ 3. アブヒ類

第2節 金沢城跡土壌試料フローテーション

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

ここでは、金沢城跡本丸附段第1地点(2004-1(2003-8)地点)、W5 拡張区の土壌試料のフローテーションを行い、遺物等の分類・選別を行った。

2. 試料と方法

試料は、第1地点W5 拡張区の第11層土壌、SD03、硬化面東西断割、P15、Pit19 焼土層、Pit20(北赤化面)土壌、SX04土壌である(表1)。

表1 フローテーションを行った試料

試料No.	試料取上げ位置	試料総重量 (Kg)	2mm篩残渣 重量(Kg)	2mm篩残渣 重量%
1	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	13.95	6.900	49.46
2	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	13.55	5.510	40.66
3	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	16.20	9.420	58.15
4	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	12.65	4.915	38.85
5	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	13.45	6.770	50.33
6	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	18.65	9.940	53.30
7	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	12.20	4.695	38.48
8	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	13.85	7.540	54.44
9	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	14.10	7.100	50.35
10	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	14.30	6.400	44.76
11	本丸附段、第1地点、W5拡張区、第11層土壌サンプル	22.30	9.890	44.35
12	本丸附段、第1地点、W5拡張区、SD03西端、暗褐色土	5.95	2.990	50.25
13	本丸附段、第1地点、W5拡張区、SD03	10.20	3.360	32.94
14	本丸附段、第1地点、W5拡張区、SD03	10.30	3.260	31.65
15	本丸附段、第1地点、W5拡張区、SD03	11.00	3.250	29.55
16	本丸附段、第1地点、W5拡張区、SD03	9.65	2.790	28.91
17	本丸附段、第1地点、W5拡張区、SD03	4.95	1.200	24.24
18	本丸附段、第1地点、W5拡張区、硬化面東西断割	14.20	6.310	44.44
19	本丸附段、第1地点、W5拡張区、硬化面東西断割	11.10	7.020	63.24
20	本丸附段、第1地点、W5拡張区、P15	11.40	2.690	23.60
21	本丸附段、第1地点、W5拡張区、Pit19 焼土層サンプル 21-1		0.870	
22	本丸附段、第1地点、W5拡張区、Pit19 焼土層サンプル 21-2		1.070	
23	本丸附段、第1地点、W5拡張区、Pit19 焼土層サンプル 21-3		0.215	
24	本丸附段、第1地点、W5拡張区、Pit19 焼土層サンプル 21-4	9.20	0.450	32.77
25	本丸附段、第1地点、W5拡張区、Pit19 最下部(焼け面) 21-5		0.230	
26	本丸附段、第1地点、W5拡張区、Pit20(北赤化面)土壌サンプル 21-6		0.055	
27	本丸附段、第1地点、W5拡張区、SX04土壌サンプル 21-7		0.125	

これらの試料は、1mm 篩と 2mm 篩を用いて湿式篩い分けし、鉍滓等人工物、獣骨、貝類、その他に仕分け・分類した。なお、鍛造片は、肉眼による選別のほか、1mm 篩残渣を磁石により磁性分離した磁性物の中から特に強い板状片を分離した。

なお、青銅片および白色物については、定性的に成分を調べるために蛍光X線分析(開場場製作所製 XGT-5000Type II)を行った。

3. 結果

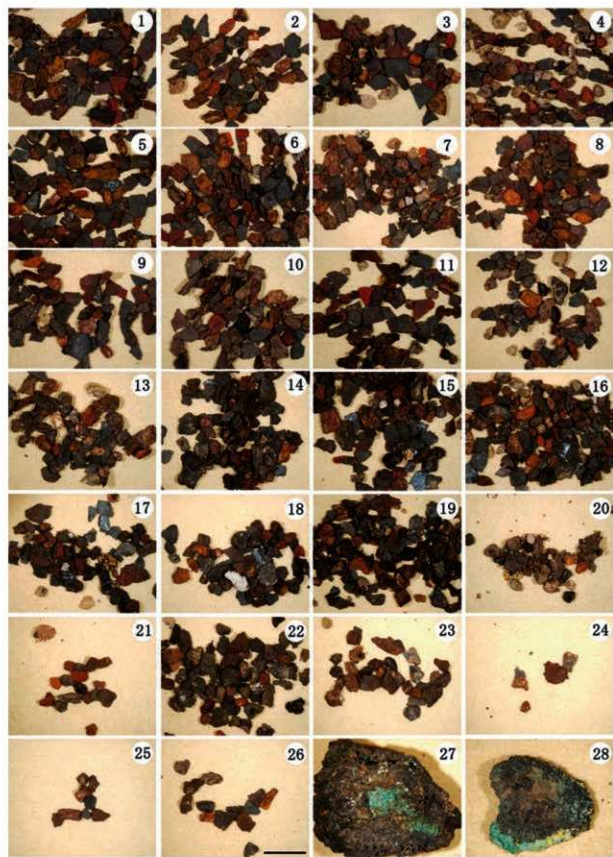
フローテーションの結果、全体的に礫が多く、鍛造片および炭化材小片が普遍的に含まれていた。その他では、瓦片や土器片、銅滓片(青銅附着)、鉄滓片、鉍滓等の遺物が若干含まれていた(表2)。なお、試料No. 26(21-6)において、カルシウムCaを主成分とする白色物片(貝殻?)が少量含まれ

いた。その他の試料では、獣骨・貝類は含まれていなかった。

表2 篩残渣中の遺物およびその種類

試料No.	標	2mm篩残渣中の遺物片							1-2mm篩残渣	備考
		瓦片	土器片	銅滓片	鉄滓片	鉛造片	鉛滓片	炭化材	鉛造片	
1	◎	△				△		○	○	焼土
2	◎	△						△	○	焼土
3	◎					△		△	○	焼土
4	◎		2片		△			△	○	スサ入り焼土
5	◎	△						△	○	スサ入り焼土
6	◎				△			△	○	焼土
7	◎	△	1片	△				○	○	
8	◎			△	△			△	○	焼土、黒色不明物
9	◎	△	1片		△?			△	○	
10	◎	△	1片					△	○	磁器、黒色不明物
11	◎	△	1片		△		△	○	○	黒色不明物
12	◎	△				△		△	○	焼土
13	◎	△			△			○	○	
14	◎	△			△			○	○	
15	◎	△			△			△	○	
16	◎				△			△	○	
17	◎	△			△			△	○	
18	◎	△						△	○	
19	◎							△	△	
20	◎	△			△		△	△	△	焼け石?、白色物
21	◎							△	△	焼土
22	◎							△	○	
23	○							△	△	焼土
24	◎						△	△	△	スサ入り焼土(還元)
25	○						△	△	△	白色塊(凝灰岩)
26									△	焼土主体、白色物(貝片?)
27	○						△		△	

◎;非常に多い、○;多い、△;少ない、無し;未検出



図版 1mm 篩残渣中の鍛造片および銅滓 (スケール ; 5mm)

1-26. 試料 1-26 中の鍛造片 27. 試料 7 の青銅附着 28. 試料 8 の青銅片

第7章 まとめ

第1節 遺構・遺物から見た初期金沢城の特徴

第4章では、調査地点ごと、区域ごとに遺構・遺物の内容について記述した。報告の最後にあたり、調査全体を見通した初期金沢城の変遷について、段階ごとの特徴を検討しまとめたい(第26表)。

1. 遺構

天正期については、本丸附段 2004-1 (2003-8) 地点の初期遺構面Ⅱ等がその時期に属する可能性をもつが、確証が得られていない。文禄期には、本丸附段・東ノ丸唐門前・丑寅櫓北東・東ノ丸東・本丸南(辰巳櫓下)の各区域で石垣や堀といった構造物が築造されている。その一方、生活に関わる遺構・遺物はほとんど得られていない。

慶長期は、7年(1602)の天守焼失、後期における本丸南側高石垣(1140S)の築造等、郭構造の変容を想定させる事柄が知られている。発掘事例では、本丸南において、高石垣が築造された過程が窺え、また本丸附段においては、堀と併存して、食物廃棄土坑や地下室状の土坑等が造られていることが判明した。本丸附段の事例は、本丸周辺の郭が、防御を第一とする空間から、御殿機能を補う位置へ移行する、過渡的な様相として理解しておきたい。

元和期においては、元和6年(1620)の本丸火災を契機として、本丸附段・東ノ丸唐門前・東ノ丸附段・本丸南の各区域で大きな改変が認められる。本丸附段では本丸西側堀が埋まり、本丸御殿との一層の一体化が図られる。東ノ丸唐門前ではルート的大幅な改変があり、付近では東ノ丸附段が新たに築造される。本丸南では、小規模石垣群が最終的に埋め立てられ、御花畑が形成されるとともに、古いもり堀から新しいもり堀に切り替わり、以後定着する。この元和期の変容は、織豊期の城郭が、近世城郭へと変貌を遂げる最も重要な局面として評価できる。その一方、丑寅櫓周辺では大きな変化が見受けられない。

寛永8年(1631)の大火により本丸御殿が焼失し、本丸が実質的機能を失う段階については、遺構・遺物からもこの間の事情を窺うことができた。特に本丸附段では、初期遺構面が廃絶し、大火後の片付けを経て整地される過程が確認された。この段階は、新たに御殿が移された二ノ丸を中心として、現在にまで受け継がれる縄張りが確定するなど、元和期と並ぶ画期であり、本丸周辺についても、本丸附段が本丸の正面とされ、三十間長屋が創建される等の動きが認められるが、元和期ほどの大規模な造成は認められない。

2. 遺物

出土遺物のうち、陶磁器については、東ノ丸附段 2002-7 地点・32 地点の資料中に優品が含まれる。本丸附段の出土資料は普及品と呼べるものがほとんどであり、本丸エリアにおける場の機能分担を反映していると思われる。但し本丸附段では、慶長後期(17世紀初頭)に下る京都系土師器皿が出土している。15世紀後半に始まる京都系土師器皿の系譜の最後に位置付けられるものであり、金沢城内においては、この時期に至っても、土師器皿を用いる儀礼がなお有用とされていた可能性がある。

瓦は景観に大きな影響を与え、城郭のシンボルとも言える側面をもつ。金沢城では、現存する石川門・三十間長屋に鉛瓦が葺かれていることが大きな特徴となっているが、今回の調査で、鉛瓦採用までの過程が大略整理された。このため以下では、初期金沢城以後の様相も併せて言及する。

文禄・慶長期は、まとまった資料に乏しいが、元和6年(1620)に廃棄されたと推定される、2004-1(2003-8)地点 SX02 や SK13 周辺出土資料が当該期の様相を示すと思われる。その特徴は、①金箔瓦を含み、②軒平瓦は桐文が主体、③丸瓦の切り離しはコピキAが多く、④平瓦は厚手が目立ち、厚さ2cmに達する場合も珍しくない、等にまとめられる。

2002-7 地点VI層、2004-1 (2003-8) 地点SK11、2003-3 地点IV層等出土資料は、寛永8年(1631)の大火による廃棄と考えられ、元和7年(1621)～寛永8年(1631)の様相を示している。①軒平瓦は、中心飾りが三葉文で、上下に強く反転する(巻きが強い)唐草文を脇に配するタイプが主となり、②丸瓦の切り離しはコビキBで占められること等が、この段階の主な特徴である。

2002-22 地点II層、2002-23 地点V層は、全体的に細身・薄手のものを含み、これに対応する三葉文軒平瓦(単純化、唐草文の連続性の欠如等)が見られ、寛永8年(1631)大火以後の様相を示すと思われるが、新相を呈するものが、寛永大火直前に部分的に採用されていた可能性も否定できない。

大きな変化はむしろこの後であり、2002-3・5 地点II層、2004-6 地点V層等の出土資料の特徴は、越前赤瓦・梅鉢文・磚の存在に典型的に示されている。これらは基本的に前代の瓦を含まず、1640年前後に、三葉文軒平瓦の系譜を引くものの多くが屋根から降ろされ、変わって梅鉢文等の燻し瓦、越前赤瓦が併用されたことを示唆している。燻し瓦と赤瓦の使い分けは定かではないが、長屋(倉庫)などの建築物に赤瓦が優先されたのではとの見通しをもっている。

梅鉢文燻し瓦・越前赤瓦のまとまった廃棄は、共存する陶磁器などから17世紀後半頃と考えられる。一方、文献上の鉛瓦の初出は寛文5年(1665)とされ、発掘調査の所見と照合すると、寛文期を境に、鉛瓦が本格的に採用され、現在まで受け継がれる景観が形成されたと判断される。ただし磚(腰瓦)は引き続き用いられ、鉛瓦とセットとして金沢城の景観を特徴づける要素となっている。なお、磚以外の粘土瓦については、18世紀代の様相が不明瞭で、この段階の解明は今後の大きな課題であるが、19世紀代には、越前系とは異なる赤瓦(軸葉瓦)が盛行する。金沢城にはこの他、銅瓦・石瓦も用いられており、考古資料から建築物を考える良好な素材が揃っていると言える。

3. 課題

今回の報告で扱えなかった点については、枚挙に暇がない。石垣の詳細観察の結果についてほとんど言及できていないし、土器・陶磁器の計測・集計等の数量化、編年等についても示し得なかった。また全体的な縄張りの復元や変遷、このことに係る他の城郭との比較についても、検討するに至らなかった。これらについては、平成17年以後の調査結果をまとめた上、課題として改めて取り組むこととしたい。

第26表 遺構の変遷

年代	事項	発掘された遺構				
		本丸附設	唐門前	東ノ丸附設	丑寅境周辺	本丸南(腰巴下)
天正	8 1580 金沢城創建					
	11 1583 前田氏入城					
	14 1586 天守造営					
文禄	元 1592 東ノ丸石垣築造	本丸西段堀・石垣 (文禄築造で に築造)	初期遺構Ⅱ	第Ⅰ段階 通路	高石垣 1131E 離れ石垣	石垣 1801S 石垣 1802S
	4 1599 内惣構築造					
慶長	7 1602 天守焼失 (翌年三階焼造営)					
	15 1610 外惣構築造		初期遺構Ⅰ(古) SK14・15 SK13A・13C等			石垣 1803W 高石垣 1140S
元和	6 1620 本丸火災	堀埋立	初期遺構Ⅰ(新) SD01-02 SK11 堀造遺構群等	第Ⅱ段階 通路	東ノ丸附設 築造	いも子堀 御成成道成
寛永	8 1631 寛永大火	(本丸正園として整備) 三十間長屋敷跡		第Ⅲ段階 通路	V層跡成	離れ石垣 一部埋立

第2節 2004-1 (2003-8) 地点 SK11 出土の馬骨について

1. はじめに

金沢城跡本丸附段 SK11 からは、ウマ頭蓋骨が出土している。本遺構に関しては未調査の部分もあり、観察を行うには制約もあるが、動物遺存体に関する研究を振り返りつつ、他の遺跡出土の事例との比較をおこない、どのような解釈が可能であるか考えてみたい。

2. 遺跡出土のウマ・ウシに関する研究

遺跡出土の動物遺存体に関しては、松井 章氏や久保和士氏の研究や、金子浩昌氏におうところが多い。各氏の活動を通して、主にウマ・ウシに対するこれまでの動物考古学的研究を見ていきたい。

松井 章氏[松井・神谷 1994]によると遺跡からのウマ出土状況によって「犠牲ウマ」か「斃馬」かどうか区別することが可能だが、明確に両者が識別できるわけではないとしている。犠牲ウマの殉殺の目的としては、海外での出土事例や日本での民俗事例を含めて 1. 水神に捧げる 2. 葬送の道連れに殉葬する 3. 土木工事や戦いに際して神に捧げる の3つをあげている。加えて、葬送儀礼としての殉葬馬は、7世紀の大化の薄葬令を契機に8世紀までになくなっていくが、「水神への犠牲、あるいは軍事的目的から馬を犠牲にする習俗は後世まで残存し続けた」としている。

続いて松井氏は[松井 1995]動物祭祀を、発掘調査における記録と動物遺存体の観察に基づいて、「生きた動物を殺して神に捧げる『動物犠牲』と、それが形骸化したと思える動物骨をシンボルとして捧げる『動物儀礼・祭祀』」の2つであるとしている。安易に動物祭祀と考えられてきたことを危惧し、考古学的に動物祭祀と確定できるものとして、水田の畦畔・水路に穴を掘り頭蓋骨などを埋納する例と井戸機能喪失時にウシの頭蓋骨を埋納する例の2種類を示している。この、ウシの頭蓋骨埋納に関しては、岡山県鹿田遺跡の13世紀初頭に埋め戻された井戸6を例にあげている。埋土中に下顎を欠いた成獣のウシの頭蓋骨が仰向けに置かれており、骨の詳細な観察から「この牛は、死後、角を取られ首を落とされ、下顎骨を離され、頭蓋骨がおそらく白骨化した後に祭祀のために井戸の機能の喪失とともにここに取められた可能性が高い」としている¹⁾。この井戸6からは、他にウシ骨下から桃の種子、ウシ骨出土の標高近くから完形の土師皿が井戸の四隅に刺さり確認されている。

さらに、久保和士氏・松井氏[久保・松井 1999]によって、ウマ・ウシは、出土状態等によってA自然死・事故死 B屠殺 C犠牲 に分類できるとされる。C犠牲については、前出研究をふまえ、1古墳に伴う馬 2水田における農耕祭祀、祈晴・祈雨祭祀 3建物に係る祭祀 4祭祀のための骨備蓄 一井戸を埋める際の祭祀 に分けている。ウシ・ウマともに一般に解体されずに埋葬されることは少ないことも指摘している。鹿田遺跡の事例は、4と考えられている。

金子浩昌氏[金子 1997]は、下総国分僧寺跡の調査で、9世紀後半の橋脚抜取穴出土のウマ歯を観察することから、上顎と下顎が意図的に離され納められた事例を報告している。これは、上記分類の「3建物に係る祭祀」に該当するのだろうか。また、「頭骨埋設」と「埋葬」の区別を適切に行うことの重要性について述べ、「頭骨埋設」については、当初から四肢骨を伴わず、1. 頭蓋上顎骨と下顎骨を組み合わせた状態。2. 頭蓋と下顎骨を離して置いた状態。3. 頭蓋と下顎骨のいずれかを置く 3つの方法があるとしている。1については頭の肉皮をつけた状態で、不安定なため「埋葬」と報告される例と同じように倒されているのだろうかとしている。また、歯列の整っている頭蓋と下顎が離れて置かれていた場合、この時点で骨になっていたことが予想されるとも指摘している。

久保和士氏[久保 1999]は、大阪市長原遺跡出土のウシ骨埋納の柱穴(SP6001)について検討を加えている。骨の配置等を詳細に観察し『延喜式』に記載される祭祀に関する規定と比較することから、「建物を壊した後、牛の四肢を神に供献し、肉を食べて宴を催し、残った骨を丁重に埋納した行為」であり、松井氏の言う「動物犠牲」を伴う儀礼であるとしている。また、この牛骨埋納柱穴は、6世紀後

半から7世紀の初期に流入した漢神信仰であるとも考察している¹⁰⁾。

なお、獣医師である大江正直氏は、その専門的な知識をもとに群馬県の「上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)」において1059点もの動物遺存体について多くの紙面を割き報告している[大江1990]。当該地域の各時代のウマ・ウシに関する平均体長や年齢を出すとともに、文献資料から日本のウマの改良についても触れているとても興味深い考察である。2005年には、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による「群馬県出土獣骨データベース」[楢崎2005]では群馬県下の動物遺存体出土遺跡が網羅され、多くの資料が蓄積されつつある。

以上の点をまとめると、ウマの骨出土の背景としては、A自然死・事故死 B屠殺 C犠牲 が考えられるが、本丸附段SK11出土のようなウマ頭骨に関して出土状況のみから推定できる解釈としては、1犠牲 2埋葬 の2つに絞られるように思われる。

3. 金沢城本丸附段SK11の出土状況

金沢城本丸附段(2004-1(2003-8)地点)SK11出土のウマ頭骨の出土状態について以下概観していく(第4章 第80~83図参照)。

SK11が確認された第1地点-E2区は、本丸の西側の本丸附段の南側に位置する。同地点は、初期遺構面I[17世紀初頭頃~寛永8年の大火(1631)頃]と初期遺構面II[17世紀初頭以前]に分けられ、SK11は初期遺構面Iにあたる。初期遺構面IIの段階には、本丸附段は自然地形を削平するなどして造成が行われている。初期遺構面I(古段階)には、大規模な盛土造成をおこなうとともに、食物残渣廃棄用のゴミ穴が設けられ、御殿の奥向きの生活に密着した施設があった可能性が高い。初期遺構面I(新段階)には、ほぼ南北方向の新旧関係のある板塀の基礎2条と、その板塀より本丸側でSK11を確認している。寛永8年の大火以前は、生活に密着した御殿の奥向きの空間であったと想定されるが、寛永8年の大火以降は、御殿が二ノ丸に移動したことによって三十間長屋以外の建物はほとんどなくなり、二ノ丸との間の斜面に大規模な階段が設けられて、本丸に至る表空間になったと推測される。

平成16年度E2区では、SK11の南東端は調査区外に続き、平成17年度の第1地点で上端を確認し、大まかにその全体像を把握している。同遺構は北西から南東にかけての池状のなだらかな落ち込みの区間[浅い区間]と、南東隅の立ち上がりの急な落ち込みの区間[深い区間]で構成される。まず、遺構全体が掘削された後、板等で遺構壁面が土留めされ、裏込めのようにE層(以下A~Eは第4章の遺構内の大別層)が堆積する。次に両区間の間に[浅い区間]の標高に合わせるようにテラス状の平坦面が東に向かい作られ、その落ち際にウマの頭蓋骨が仰向けに置かれている。本遺構では、a~gの計7か所で土層を観察しているが、テラス状の平坦面上に置かれたウマは、B層最下層の炭層(a-7層・b-3層・c-1層・f-21層・g-39層)に覆われている。この炭層は遺構のほぼ全面に堆積し、南東調査区壁へと続いている。[深い区間]底面には、上層に比較し遺物の少ないD層が堆積し、次に径20cm程度の河原石を含むC層が堆積する。B層は炭層を含むという特徴と、A層と同様にC層以下の土層に比較して細かい堆積状況を示す。A層に関しては、版築状とも思われる均一的な堆積である。以上のように、B層最下層の炭層の上下では、土質や堆積状況に違いが見られ、炭層の上下の土層は一括に埋め戻されていないことが想定される。SK11は、元和7年(1621)頃に埋め立てられたと想定される本丸西側堀(SF01)よりも新しく、寛永の8年の大火(1631)頃には埋没しているものと思われる。

ウマの頭蓋骨の詳細な観察は第6章 第1節に掲載されているが、概略としては3~5才程度の若い成獣個体で体高140cmの中型馬ということである。ウマ頭蓋骨は、鼻先が北方を向き、長軸はほぼ南北軸に一致している。他に下顎骨、頭頂部やその他の部位は確認されていない。他に3才未満のウシの上顎遊離臼歯が出土している。SK11内や遺構周辺でウマ骨は確認されておらず、その場で解体されたとは考え難い。SK11同様にウマ頭骨が埋置されている遺構も検出してない。今回は、遺存状態が

悪く、解体痕跡等は確認できる状態ではなかったが、先述のように皮肉のある状態で下顎と上顎を切り離すことは難しいといわれており、皮肉を剥いだ後解体されたものであると考える。肉がある状態では、土上にうまく座らずに横に寝てしまう可能性が高い上に、骨体の残存状況や整った歯列、破片が散乱していなかったことも2次的な混入ではなく、当初から皮肉を剥いだ、あるいは白骨化した頭蓋骨が遺構内に置かれたものと思われる。

4. 中・近世のウマ頭骨出土事例

SK11には、元和7年(1621)～寛永8年(1631)年という年代が与えられていることから、今回はこの前後の時代の中世後半から近世のウマ(一部ウシ)の頭骨が出土する事例では、どのようなものがあるか見ていきたい。関東の近世の牛馬埋葬遺構に関しては、大八木氏が出土状態や骨の観察をおこない論考をまとめており、ウマ頭骨出土遺構の観察項目としては、大八木氏の分類[大八木 2001a・b]を参考にさせていただいた²⁾。

- ・ 行為の一回性・継続性 一土坑が集中しているか単発か切りあいがあるか
- ・ 部位の選択性 一部分骨か全身骨か(今回は、頭骨を含むもの)
- ・ 儀礼的側面の有無 一共存遺物など
- ・ 解体痕の有無
- ・ 構築空間および他の遺構との組み合わせ

東京都葛飾区青戸・葛西城址(第161図)[宇田川1975]

9号井戸の2層上部から下顎を欠いた頭骨が出土している。共存遺物として、同2層から瀬戸灰釉小皿や美濃緑釉鉤し皿などが出土していることから中世後期の遺構と思われる。頭蓋骨は完全に埋存されていたにも関わらず、歯牙が多く脱落し、完掘後も確認されていないことから、当初から白骨化した頭骨の入っていた可能性が高い。祈雨祭祀の可能性が示唆されている。同地点では、9号井戸より新しい16世紀の堀から9個体のウマ骨が出土している他、近世の堀からは穿孔された骨製品も出土しているが、いずれも頭蓋骨はみられない。

東京都文京区東大塚本郷構内の遺跡工部14号館地点(以下、工部14号館)

(第161・162図)[東京大学埋蔵文化財調査室2006]

中山道沿いの御先手組屋敷に該当し、C2区のSK326は屋敷裏の地境相当の空地で確認された浅い土坑である。底面からは、ウマの頭蓋骨と下顎骨がT字状に組み合わせた状態で2個置かれるように出土している。4・5歳と10～12歳で、傷や切断痕、脳頭蓋の破損は確認されていない。時期は出土遺物から17世紀代と想定されている。同地点では、他にもウマの骨が2点出土しているが、ウマの頭蓋骨が出土しているのは本遺構のみであり、周辺に他の部位が廃棄されている様子もない。大八木氏は、「祈雨儀礼と推定される事例に類似した頭骨の意図的な埋納行為であることが想定される」としながらも、遺構の規模が「頭骨の埋納にしては著しく大きい」ことを指摘している[大八木 2001b]。また、遺構底面に植物移植坑によく見られるような凹凸があること等、検討の必要がありそうである。動物遺体を使用する祭祀・儀式がどのような階層で行われていたのか等、雨乞い以外も考える必要があろう。

東京都新宿区市谷甲良町遺跡(以下、甲良町)

L字状に屈曲する溝状遺構(3号遺構)の底面直上付近からウマの頭蓋骨が出土している[大八木 2001b]。同遺跡は、御持筒組大縄地から享保年中頃(1716～1735)に旗本・御家人屋敷地へと変遷するが、溝状遺構は大縄地拝領以前の17世紀前葉段階までさかのぼる可能性がある。水成堆積は見られず、地境として利用された可能性が高い。また、同遺構から他にウマ骨を含む獣骨は出土していない。

東京都新宿区四谷御門外橋詰・御堀端通・町屋跡地点(以下、四谷御門)(第161図)[池田1996]

009号遺構ではウマ頭骨が出土している⁴⁾。同遺構は木製の水溜枡であり、寛永13年(1636)の外堀開削以降に構築され、明暦2年(1656)までに廃棄されている。ウマ頭骨や陶磁器の他、1085点もの銭貨等や45点の煙管などの特徴的な遺物が出土しており、考察では、地上は開放された井戸側状の上部構造であった可能性もあるとしている[村井1997]。坂井 隆氏によって、井戸廃絶祭祀の可能性も示唆されている[坂井2004a]。

埼玉県行田市忍城跡(第162図)[塚田1989]

2次調査では、15世紀末～16世紀に築造された本丸と諏訪曲輪間に架けられた橋の橋脚によって右顔稜部付近を打ち抜かれたウマの頭蓋骨(8～9歳健康なオス)が出土している⁵⁾。ウマの出土した最下層からは、他に多くの土師質土器や火鉢、漆器等が出土している。本事例に関しては、坂井氏は、偶然橋の橋脚に頭骨が打ち抜かれるとは考えにくいことから、架橋時の祭祀や水関連の祭祀としてウマ頭蓋骨が用いられたと推測されている[坂井2004]。1次調査の7層下部(最下層・16世紀後半)でも15歳前後のウマ左下顎骨片が出土しており、写真では、頭蓋・下顎骨とも水に浸かり遺存状態が良好である。未完掘であるが1・2次調査合わせ70m以上の長さになる堀内で、他にウマ骨は20cm以下の体部6点しか出土していないことから、堀内にウマの他の部位は無いことが予想され、ただの廃棄とはみなし難い。

次は、近世のウマと、中世後半のウシの体部出土の事例である。

千葉県木更津市マミヤク遺跡

1号土坑出土ウマについて松井氏が考察を加えている[松井1993・1995]。「死んだ馬の首を切り、わざわざ頭蓋骨と下顎骨を分離し、さらに胴体を切断した後に頭部だけを別にして下顎骨と胴部をこの土坑に収めた」と分析し、外された頭蓋骨は動物祭祀に使用された可能性が強いとしている。20歳以上の老齢ウマで、土坑に収めるにあたっては全身を分割している。

広島県福山市草戸町草戸千軒町遺跡 第36次

ウシの事例ではあるが、松井氏は、中世後半の池SG3450について「四肢を1箇所縛り、身動きできないようにして殺して首を切り取った後に、埋没しつつあるこの池に投棄された」と考えられる特殊な出土事例をあげている[松井1995]。老齢でなく、病死とも思われないことから、マミヤク遺跡のウマ体部同様、「なんらかの目的のために」「首を取り去ったものと解釈」している。皮を剥いだり、解体したりした痕跡もないという。

5. 他遺跡とSK11の比較と課題

以上、中世後半から近世のウマ頭骨出土の遺構や、金沢城跡本丸SK11で共通する出土状態としては、以下のようなことが考えられる。

- ① 行為は単発的である。
- ② 1個体である。
- ③ 儀礼的側面を示すような共伴遺物は特に見られない。
- ④ 埋置されている。
- ⑤ 頭骨のみである。
- ⑥ 遺跡の環境に共通点はあまりみられない。

- ① 行為の一回性とは、ウマ頭骨出土遺構周辺で、ウマ骨を含む遺構が確認されていないということである。このことから、遺構内にウマ骨を収めるという行為の連続性はみられず、鬘牛馬処理空間として、ウマ骨が廃棄されたものではないことを意味する。金沢城内では、鉄砲鍛冶関連遺構など、工房と思われる遺構も確認されているが、現段階で骨製品や、未製品、全身がバラバラに解体された多数のウマ骨廃棄土坑等が確認されていないことからSK11が骨製品工房や

それに伴う廃棄土坑である可能性も低い。

- ② 工学部 14 号館地点、四谷御門地点を除いては、ウマ骨は同一遺構から複数体出土していない。
- ③ 多くの遺構では、儀礼的側面を示すような共存遺物出土していないが、その点が、中世末以降の動物骨を用いる祭祀の特徴といえるかも知れない⁶⁾。
- ④ 埋土に混入したもので、二次的な堆積に含まれるものでもなく、遺構内にきちんと意図的と思われるような置かれ方をしている頭骨が多い。
- ⑤ 同一遺構内に四肢骨等の他の部位を含まない遺構が多い。頭骨の遺存状態から考えると、酸性土壌によって頭骨以外が分解されたとも考えにくい。遺存状況によっては解体痕跡の観察は困難であるが、忍城跡、葛西城址では頭蓋のみ、東京大学工学部 14 号館は頭蓋と下顎が離され、置かれており、先述のとおり骨の状態を持ち込まれた可能性が高く、SK11 においても白骨化した骨が遺構内に置かれたと考えるとよいであろう。四谷御門、忍城跡では、他の動物骨、SK11 ではウシの遊離臼歯も出土している。骨が持ち込まれたことを踏まえると、埋葬遺構である可能性もとても低い。
- ⑥ 16 世紀の中世城館、17 世紀以降の城館、17 世紀初頭の太縄地等共通点は見られない。甲良町に関しては太縄地拝領以前の遺構の可能性もある。

頭蓋骨出土については、土坑や井戸、溝出土の牛馬骨を安易に祭祀と結びつけることの危険性については本文中でも触れたが、中世末から近世の事例との比較から SK11 に関しては祭祀や儀礼である可能性が高いといえよう。

今回は、中世末以前のウマ頭骨出土事例に関しては松井氏等の先行研究に依拠し、個別に事例を記載しないが、動物祭祀と考えられている岡山県鹿田遺跡の 13 世紀の井戸 6 のウシとも比較してみた。下顎が外されていた点、そして仰向けに置かれていた点が SK11 を始めとする中近世のウマの出土状態にも共通している。この他にも中世以前には、下顎が離され仰向けで置かれた頭蓋が、動物祭祀と考えられている事例が見られ⁷⁾、SK11 と多くの共通性を見出すことが可能であり、鹿田遺跡にみられるような出土事例に、SK11 の解釈のヒントがあるように思われる。

いかなる祭祀・儀礼が行われたかについては、葛西城跡、工学部 14 号館地点、四谷御門は先述のように、雨乞祭祀について言及されており、忍城に関しては、架橋時の祭祀や水関連の祭祀などが言われている。このように今回、SK11 との比較を試みた遺跡では、雨乞祭祀と推測されているものが多かったが、近世以前の事例としては、大阪市長原遺跡出土のウシ骨埋納の柱穴 (SP6001) は、建物解体に伴う動物犠牲といわれている。雨乞祭祀は古代以降の出土事例や民俗事例から、おもに農村部の人々によって祭祀が執り行われたと考えられる。他の儀礼の可能性も考えられるため、SK11 に関しては、雨乞祭祀を含めた儀礼であると考えたい⁸⁾。遺構をめぐる環境は異なるが、ウマ頭蓋骨の出土状態に多くの共通点が見られたこと等から、階層や地域や時代を超えて共通する儀礼についての検討が必要であると思われるが、今回は祭祀の遺構である可能性を示唆することとどめたい。

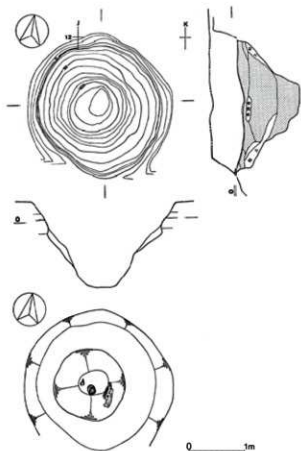
註

- 1) 岡山県鹿田遺跡の井戸 6 の頭蓋骨の傍らには、焼けた石もあり、井戸をめぐる祭祀には、火を使った可能性もあるとしている。同様の事例は、10 世紀後半の周防国府跡井戸 SE3700 にも見え、下顎骨を欠いた牛頭蓋骨が出土している。水田の畦畔・水路の例としては、平安時代の下関市延行桑里遺跡のウマ頭蓋骨や、鎌倉時代 13 世紀の大阪府八尾市池島・万福寺遺跡出土のウシの事例等があげられている。
- 2) ウマの遺骸の処理に関しては、すでに 8 世紀はじめの『養老令』『観牧令』にその取扱いが示されている。近世では『日本馬政史』によると、加賀藩では 19 世紀の資料で村で死馬が出た場合肝煎や役人等が見廻し・見届け、役所に届け

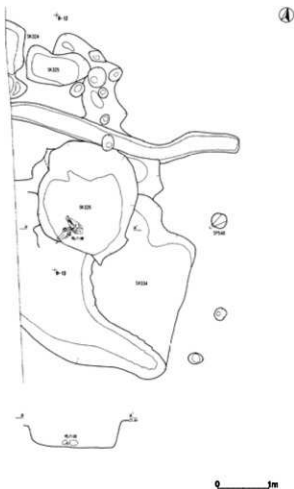
る手続きが確認されるが、他藩では、17世紀末には既に同様の手続きが取られていたことが記載されている。このように古代には既に始まっていた斃牛馬処理は、近世になり解体場と骨加工場などが分離されること等から流通のシステムが確立していったものと思われる。南借当遺跡[松井1991]では、多量の動物骨の廃棄や骨未製品の出土から、古代から中世までウシやウマの解体処理がおこなわれ、皮革・骨・肉等の斃牛馬の利用がなされていたと考えられている。また、斃牛馬処理に関しては、『養老令』『鹿牧令]で、すでに「凡そ、官の馬死なば、各皮、脳、角、胆を取れ。若し牛黄得ば、別に進せよ」とあり、公の馬を死なせた場合、それぞれ皮、脳、角、胆を取って収めよ。もし、牛黄があれば、別に進せよとある。さらに「官私馬牛至死条」には、「凡そ公事によりて、官私馬牛に乗り、理を以て死に到らせば、証見明かなれば、並びに徴ることを免せ、其の皮穴は、所在の官司出し売り、価を本司に送り納めよ(後略)」とある。公の馬を死なせた場合に皮、脳、角、胆を取って納め、牛馬を地方で死なせた場合も皮等を売りに出し、その代金をその牛馬を管理していた役所に納めよという規定がある。

- 3) 牛馬埋葬遺構にはどのような種類のものがあり、地域的、年代的にいかなる差異があるのかを考察するために考えられた観察項目である。
- 4) 大八木氏の実見の結果、頭骨以外に椎骨、肩甲骨も出土しているということである[大八木2001a・b]。
- 5) 坂井隆氏、宮崎重雄氏の実見による[坂井2004a]。
- 6) 四谷御門地点においては銭貨等が出土しているが、遺物の出土状況等詳細は不明な点が多い。
- 7) 10世紀後半の下関市延行条里遺跡のウマ頭蓋骨、13世紀の大阪市八尾市池島・万福寺遺跡のウシなどがあげられる。
- 8) 石川県においても、以下のような事例も伝承している。「湯谷原村。○当村の嶺に往古より温泉あり。中比湯室を開かむとせしを、湯涌村の湯主共きゝつけ、此地に温泉を開く時は、必ず湯涌村の衰微なるべしと、是を止めん事を計りける。温泉を止るには、馬の生首を湯底に納めば、必ず冷水と成よし、古よりいひ伝へける故に、或夜密に計て白馬の生首を打落し此村の湯底へ納む。然る故にや湯気薄らぎ、湯室を開くべき術なくして止りたり。故に今當村の者へ入場なすも、湯代を乞ずといひ伝へり。今其温泉の地有て、少しく温気ありといへども、湯気甚薄し。湯谷原といふ村名も、此湯ある故に称するよし(『加賀志徴』)」このように、温泉を冷泉化するのにウマの首が用いられたと記されている。

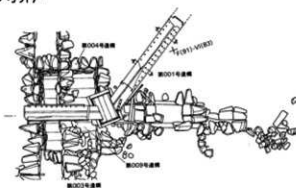
本文を記すにあたり大八木氏には、ご指導・ご教示いただきました。深厚な謝意を表します。



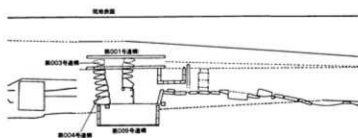
東京都葛飾区青戸・葛西城址
9号井戸



東京都文京区本郷構内の遺跡
工学部14号館 SK326



東京都新宿区
四谷御門外橋詰・御堀端通・町屋跡地点
009号遺構



第161図 馬頭骨出土事例1



東京都文京区本郷構内の遺跡
工学部 14 号館地点 SK326

(東京大学埋蔵文化財調査室提供)



埼玉県行田市忍城跡
堀内橋脚

(行田市郷土博物館提供)

第162図 馬頭骨出土事例2

引用参考文献

- 石川県教育委員会文化課・金沢御堂金沢城調査委員会 1991『金沢御堂・金沢城調査報告書Ⅰ』
- 石川県教育委員会編 2001『金沢城フォーラム いま甦る金沢城』
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2002『金沢市金沢城跡Ⅰ』
- 石川県図書館協会編 1933『越登賀三州志』
- 石川県図書館協会編 1937『金城深秘録』
- 石川県埋蔵文化財センター1998・1999・2000『金沢城を掘る』
- 池田悦夫編 1996『江戸城外堀跡四谷御門外橋詰・御堀端通・町屋跡』地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会
- 伊藤さやか 2004『金沢城跡』『石川県埋蔵文化財情報』第12号 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 伊藤さやか 2005『金沢城跡』『石川県埋蔵文化財情報』第14号 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 伊藤雅文編 1990『元菊町遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 伊藤雅文編 1992『特別名勝 兼六園(江戸町推定地)発掘調査報告一附 本多家上屋敷跡試掘調査報告一』
石川県立埋蔵文化財センター
- 伊藤雅文 1995「金沢城出土の瓦について」『織豊城郭』第2号 織豊期城郭研究会
- 伊藤雅文編 1996『金沢城跡車橋門発掘調査報告書』石川県立埋蔵文化財センター
- 伊藤雅文 1997『金沢城跡石川門前土橋(通称石川橋)発掘調査報告書Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
- 伊藤雅文編 1998『金沢城跡石川門前土橋(通称石川橋)発掘調査報告書Ⅱ』石川県立埋蔵文化財センター
- 伊藤雅文編 2007『金沢市三社町遺跡』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- 井上鋭夫 1969『金沢城址の発掘』金沢大学金沢城学術調査委員会
- 上野佳也 1976「金沢城四十間長屋跡発掘調査概報」『日本海文化』3 金沢大学文学部日本海文化研究室
- 宇田川洋編 1975『青戸・葛西城址調査報告Ⅲ』葛西城址調査会
- 大江正直 1990 付章 上野国分僧寺・尼寺中間地域出土の動物遺存体 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)』<本編(2)>
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 大八木謙司 2001a「37号遺構に「埋葬」されたウマをめぐる」『染井VII』豊島区遺跡調査会
- 大八木謙司 2001b「近世における髯牛馬処理空間の変化—江戸および緑隊部の考古学的事例を中心に—」『ツンドラから熱帯まで—加藤晋平先生古希記念論集—』(『博望』第2号) p.153~162 東北アジア古文化研究所
- 垣内光次郎・宇佐美孝 2001「第一編 考古資料 第三章 近世・近代の瓦」『新修小松市史 資料編3 九谷焼と小松瓦』
新修小松市史編集委員会
- 垣内光次郎他 2002『金沢市経王寺遺跡』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- 柿田祐司編 2001『金沢市三社町遺跡』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- 金沢大学埋蔵文化財調査センター編 2000『金沢大学文化財学研究』2
- 金沢大学埋蔵文化財調査センター編 2001・2002『金沢大学文化財学研究』3・4
- 金沢大学埋蔵文化財調査センター編 2003『金沢大学文化財学研究』5
- 金沢御堂・金沢城調査委員会 1993『金沢城跡』石川県教育委員会
- 金沢城研究調査室編 2003~2007『年報1~5』
- 金沢城研究調査室編 2003~2008『金沢城研究』創刊号~5号
- 金沢城研究調査室編 2004・2005年『金沢城史料叢書1・2 御造営方日並記 上・下』
- 金沢城研究調査室編 2006『金沢城史料叢書3 金沢東照宮(尾崎神社)の研究』

- 金沢城研究調査室編 2006『金沢城史料叢書4「金沢城跡Ⅱ」』
- 金沢城研究調査室編 2007『金沢城史料叢書5「金沢城代と横山家文書の研究」』
- 金沢城研究調査室編 2005「石垣の匠と技」『金沢城フォーラム 記録集』
- 金沢城研究調査室編 2006『よみがえる金沢城(1) 450年の歴史を歩む』
- 金子浩昌 1997「下総国分寺跡出土のウマ」『市立市川考古博物館研究紀要』第1号 市立市川考古博物館
- 神田千里 1998『一向一揆と戦国社会』吉川弘文館
- 木越隆三 2000『織豊期検地と石高の研究』桂書房
- 木越隆三 2003「元和～寛文期の金沢城修築について」『金沢城研究』創刊号
- 木越隆三 2004「金沢城全城絵図の編年と分類」『金沢城研究』2号
- 木越隆三 2005「金沢城の地割図の二の丸御殿絵図」『金沢城研究』3号
- 木越隆三 2005「金沢城下 内惣構築城時期について」『陶磁器の社会史』桂書房
- 喜内敏監修 1976『金沢城郭史料』(日本海文化叢書第三卷) 金沢大学法文学部日本海文化研究室
- 北垣聰一郎 1987「石垣普請」『ものと人間の文化史 58』法政大学出版会
- 北野博司 2003～2004「金沢城石垣の変遷Ⅰ・Ⅱ」『金沢城研究』創刊号・2号
- 久保和士 1999『動物と人間の考古学』真陽社
- 久保和士・松井章 1999『考古学と動物学』(考古学と自然科学②)「家畜その2 ウマ・ウシ」西本豊弘・松井章編 同成社
- 久保智康 2003「尾崎神社の飾金具」『金沢城研究』創刊号
- 楠 正勝編 2001『金沢市昭和町遺跡Ⅰ』金沢市教育委員会(金沢市埋蔵文化財センター)
- 楠 正勝編 2003『石川県金沢市昭和町遺跡Ⅱ』金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 楠 正勝編 2004『石川県金沢市昭和町遺跡Ⅲ』金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 楠 正勝編 2004『石川県金沢市広坂遺跡(1丁目)Ⅰ(測量図編)』金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 楠正勝・庄田知充編 2005『石川県金沢市広坂遺跡(1丁目)Ⅱ(古代・中世編、測量図編2)』金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 楠正勝・庄田知充・谷口明伸編 2006『石川県金沢市広坂遺跡(1丁目)Ⅲ(近世編1)』金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 楠正勝・庄田知充編 2007『石川県金沢市広坂遺跡(1丁目)Ⅳ(近世編2)』金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 楠 正勝・小西昌志編 2003『野田山墓地』金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 楠 正勝・小西昌志 2005『石川県金沢市片町二丁目遺跡』金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)
- 熊谷葉月 1999「金沢城跡(三の丸東調査区)」『石川県埋蔵文化財情報』創刊号(財)石川県埋蔵文化財センター
- 日置 謙編 1930～1948『加賀藩史料』1編～18編
- 坂井 隆 2004「馬生饗祭祀遺構と「捏造」問題」『研究紀要 22 一創立25周年記念論文集一』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 佐々木達夫 1980「金沢城跡の発掘—一九七九年—」『日本海文化』7 金沢大学文学部日本海分化研究室
- 佐々木達夫 1981「金沢城跡の発掘—1977年—」『金沢大学日本海域研究所報告』第13号
- 貞末亮司他 1986「金沢城の発掘—1981—藤右衛門丸北側法面裾部発掘報告—」『金沢大学日本海域研究所報告』18号
- 貞末亮司他 1989「金沢城の発掘—1986年—黒門横北側懸崖部発掘調査報告」『日本海文化』15 金沢大学文学部日本海文化研究室
- 正見 泰 2005「鶴丸倉庫の構造と意匠」『金沢城研究』3号

- 庄田知充編 2001『金沢市高岡町遺跡Ⅰ』 金沢市教育委員会（金沢市埋蔵文化財センター）
- 庄田知充編 2002『金沢市彦三町遺跡』 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）
- 白峰 旬 1998『日本近世城郭史の研究』 校倉書房
- 新出敬子編 2004『金沢市久昌寺遺跡』 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）
- 瀬戸 薫 2000「『北信愛覚書』について—天正十五年の金沢城—」『加能史料研究』第12号 石川県地域史研究振興会
- 曾根原理 2004「金沢東照宮と寛永寺常照院」『日本学研究』7号
- 高沢裕一監修 1989『加賀藩御細工所の研究（一）』 金沢美術工芸大学美術工芸研究所
- 高沢裕一監修 1993『加賀藩御細工所の研究（二）』 金沢美術工芸大学美術工芸研究所
- 高谷重夫 1993『雨乞習俗の研究』 法政大学出版局
- 滝川重徳 1999「金沢城跡（本丸附段調査区）」『石川県埋蔵文化財情報』創刊号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 滝川重徳編 2002a『金沢市金沢城跡Ⅰ』 石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター
- 滝川重徳編 2002b『金沢市木ノ新保遺跡』 石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター
- 滝川重徳編 2002c『金沢市高岡町一ツ木溜跡』 石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター
- 滝川重徳 2000「金沢城跡（五十間長屋調査区）」『石川県埋蔵文化財情報』第3号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 滝川重徳・熊谷葉月 2006『金沢城史料叢書4「金沢城跡Ⅱ」』 金沢城研究調査室
- 竹間芳明 1999「金沢御堂の再考」『加能史料研究』第11号 石川県地域史研究振興会
- 田中徳英 2005「金沢城二の丸御殿の用途による部屋の構成」『金沢城研究』3号
- 田川捷一 1980「金沢と尾山の地名について」『北陸史学』29号
- 谷口宗治編 2001『金沢市醜ヶ井遺跡』 金沢市教育委員会（金沢市埋蔵文化財センター）
- 谷口宗治編 2003『金沢市本町一丁目遺跡Ⅲ』 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）
- 塚田良道編 1989『行田市郷土博物館研究報告Ⅰ 忍城跡の発掘調査』 行田市郷土博物館
- 土田友信 2000「金沢城跡」『石川県埋蔵文化財情報』第4号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 帝国競馬協会 1982（復刻）『日本馬政史』
- 出越茂和編 2003『金沢市高岡町遺跡Ⅱ』 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）
- 出越茂和編 2006『石川県金沢市市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2006『東京大学本郷構内の遺跡 工学部14号館地点』
- 栃木英道 1998「金沢城跡」『石川県立埋蔵文化財センター年報』第19号
- 富田和氣夫・湊屋玲美 2002「金沢城跡」『石川県埋蔵文化財情報』第7号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 橋崎修一郎ほか 2005「群馬県出土獣骨データベース」『研究紀要23』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団編（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 成瀬晃司 1997「江戸遺跡出土資料による磁器碗・皿の変遷—文様、銘款を中心に—」『東京大学構内遺跡調査研究年報1』 東京大学埋蔵文化財調査室
- 藤 則雄 1999「金沢城跡「百間堀」の層層とその周辺の地形」『北陸の考古学Ⅲ 石川考古学会会誌』第42号
- 藤澤良祐 1993『瀬戸市史 陶磁史篇Ⅳ』 瀬戸市史編纂委員会
- 北國新聞社 2002『ふるさと石川歴史館』
- 堀内秀樹 1997「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」『東京大学構内遺跡調査研究年報1』 東京大学埋蔵文化財調査室
- 前田雪恵編 1997『金沢市本町一丁目遺跡Ⅱ』 金沢市教育委員会
- 前田雪恵・谷口宗治 2006『石川県金沢市本町一丁目遺跡Ⅳ』 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）

- 前田雪恵・谷口明伸 2007 『石川県金沢市兼六元町遺跡 彦三町一丁目遺跡』金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）
- 増山 仁編 1991 『瓢箪町遺跡』金沢市・金沢市教育委員会
- 増山 仁編 1995 『本町一丁目遺跡』金沢市・金沢市教育委員会
- 増山 仁編 1997a 『安江町遺跡』金沢市・金沢市教育委員会
- 増山 仁 1997b 「金沢城下における近世墓—久昌寺墓地を中心として—」『第9回関西近世考古学研究会大会 西日本近世墓の諸様相』
- 増山 仁編 1998 『長町遺跡 長町遺跡 穴水町遺跡』金沢市埋蔵文化財センター
- 増山 仁編 1999a 『下本多町遺跡』金沢市埋蔵文化財センター
- 増山 仁 1999b 「金沢城跡」（「近世」）『金沢市史 資料編 19 考古』金沢市史編さん委員会
- 松井 章 1991 「南借当遺跡出土の動物遺存体」『千葉県文化財センター調査報告第 195 集 多古町南借当遺跡』千葉県文化財センター編
- 松井 章 1993 「マミヤク遺跡出土ウマについて」『小浜遺跡群 V 依ヶ谷古墳群・マミヤク遺跡』財団法人君津都市文化財センター
- 松井 章 1995 「古代・中世の村落における動物祭祀」『国立歴史民俗博物館研究報告』61
- 松井 章 1993 「鹿田遺跡第 5 次調査（医学部附属病院管理棟新宮に伴う発掘調査）出土のウシ」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第 6 冊 鹿田遺跡 3—第 5 次調査—』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 松井 章 1994 「草戸千軒町遺跡発掘調査報告 2—北半地域南半部の調査—」広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 松井 章・神谷正弘 1994 「古代の朝鮮半島および日本列島における馬の殉殺について」『考古学雑誌』80
- 三浦純夫 1994 「金沢城本丸跡の石造遺物」『金大資料館だより No. 5』金沢大学
- 三浦純夫 1997 「金沢城御宮跡出土の石造遺物」『金大資料館だより No. 9』金沢大学
- 三浦ゆかり 1999 「金沢城跡（いもり堀）」『石川県埋蔵文化財情報』第 2 号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 見瀬和雄 2000 「金沢城の創建と前田利家」『石川県史だより』39 号
- 湊屋玲美・土田正信 2001 「金沢城跡」『石川県埋蔵文化財情報』第 5 号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 湊屋玲美・土田正信他 2001 「金沢城跡」『石川県埋蔵文化財情報』第 6 号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 村井益男 1997 『江戸城外堀跡 四谷御門外橋詰・御堀端・町屋跡<考察編>』地下鉄 7 号線溜池・駒込間遺跡調査会
- 森 毅 1992 「16 世紀後半から 17 世紀初頭の陶磁器」『難波宮址の研究 第九』財団法人大阪市文化財協会
- 谷口明伸・増山 仁 2004 「前田土佐守家の下屋敷と醒ヶ井遺跡」『研究紀要』第 1 号（財）金沢文化振興財団
- 谷口明伸・向井裕知 2007 『石川県金沢市下堤・青草町遺跡』金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）
- 安中哲徳編 2002 『金沢市前田氏（長種系）屋敷跡』石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター
- 山川出版社 2000 『石川県の歴史』
- 吉岡康暢（文真）1970 『金沢城二ノ丸跡発掘調査概報』石川県教育委員会
- 吉岡康暢 1985 「金沢城の発掘」『金沢城と前田氏領内の諸城』（日本城郭史研究叢書 第五巻）名著出版
- 吉田純一 2003 「金沢城の『三階御櫓』」『金沢城研究』創刊号

報告書抄録

ふりがな	かなざわじょうあとまいぞうぶんかざいかくにんちょうさほうこくしょ1							
書名	金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書1							
副書名	金沢城史料叢書							
巻次	8							
シリーズ名								
シリーズ番号	1							
編著者名	木越隆三、滝川重徳、布尾幸恵、伊藤さやか、黒澤一男、藤根 久							
編集機関	石川県金沢城調査研究所							
所在地	石川県金沢市広坂2丁目1-1 石川県広坂庁舎2号館							
発行年月日	平成20年3月28日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′		(㎡)	
かなざわじょうあと 金沢城跡	かなざわしまるのうち 金沢市丸の内	01	01215	36° 33′ 45.82″	136° 39′ 52.79″	20020805～ 20030212	2500	学術調査
						20030512～ 20031226	2500	
						20040506～ 20050216	2500	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
金沢城跡	城跡	近世	石垣、石段(通路)、堀、塀跡、廃棄土坑、金属加工関連遺構等	陶磁器、土器、瓦、骨				
要約	<p>丑寅橋北東の調査では、城内最古の可能性があった雛壇状石垣が、南接する文禄元年(1592)築造とされる高石垣と同時に築造されたことが明らかになった。東ノ丸唐門前では、文禄・慶長期と元和・寛永期に属する石垣・石段が確認された。両時期では、本丸に至る進行方向が異なっており、寛永の大火後の整備も合わせると、3段階の虎口の変遷が明らかになった。また、東ノ丸附段は石垣根石の特徴から、元和期の虎口と一体に整備されたものと思われる。本丸附段の調査では、初期金沢城(寛永8年(1631)の大火以前)の遺構面を二面確認した。うち上層遺構面では、ゴミ穴等の生活に密着した遺構が見られ、御殿と一体化した奥向きの空間として利用されていたと考えられる。同附段に現存する重要文化財三十間長屋は、根石・土層等の観察から寛永の大火後に創建されたことが判明した。これら東ノ丸・本丸両附段の調査成果から、寛永の大火以前は、東ノ丸唐門が金沢城の本丸正面であり、大火後は、御殿が二ノ丸に移ることに伴い、本丸附段が本丸に至る表空間として整備されたことが判明し、初期金沢城の実像にせまる重要な知見を得た。また、遺構確認調査に並行し、本丸・東ノ丸周辺の石垣について、積み方、加工技術等の詳細な観察を行った。</p>							



2002-1地点 全景



2002-1地点 石垣(1221W)



2002-1地点 礎石検出状況



2002-2地点 全景



2002-2地点 石垣(1221W)



2002-2地点 石垣下断面



2002-2地点 北壁



2002-2地点 南壁



2002-3地点 全景



2002-3地点 断面



2002-4地点 西壁 (部分)



2002-4地点 石垣立面(1121N)



2002-11地点 石垣立面(1121E)



2002-11地点 石垣立面(1121E)



2002-11地点 東壁



2002-11地点 南壁



2002-12地点 全景



2002-12地点 石垣立面(1121E)



2002-12地点 南壁



2002-12地点 石垣裏込め栗石(1200E)



2002-13地点 全景



2002-13地点 石垣立面(1200E)



2003-2地点 全景



2003-2地点 全景



2003-2地点 石垣立面(1121E)



2003-2地点 調査区北西(下部)



2003-2地点 調査区北側



2003-2地点 北側断割南壁



2002-10地点 全景



2002-10地点 石垣立面(1210E)



2002-10地点 西側中央サブトレ



2002-10地点 南壁



2002-10地点 北壁



2002-10地点 東壁



2002-17地点 南壁1



2002-17地点 南壁2



2002-17地点 全景



2002-17地点 石垣立面(1220E・1221E)



2002-17地点 北壁



2002-17地点 作業風景



2002-18地点 石垣立面(1220E)



作業風景



2002-18地点 北壁1



2002-18地点 地表下石垣(1230E)



2002-21地点付近 調査着手前



2002-21-2地点 全景



2002-21-1地点 石垣立面(1230S)



2002-21-1地点 北壁



2002-21-2地点 石垣石出土状況



2002-21-2地点 北壁



2002-21-2地点 石垣立面 (1243E)



2003-3-2地点 全景



2003-3-2地点 石垣立面(1200E)



2003-3-2地点 断面



2003-3-1地点 遺物出土状況



2003-3-1地点 全景



2003-3-1地点 南壁



2003-3-1地点 西壁



2003-3-1地点 北壁



2003-3-1地点 遺物出土状況



2002-14地点 全景



2002-14地点 西壁1



2002-14地点 西壁2



2002-14地点 石材出土状況



2002-15地点 全景



2002-15地点 石垣立面(1241E)



2002-15地点 北壁



作業風景



2002-16地点 全景



2002-16地点 南北断面



2002-16地点 東西断面



2002-16地点 石垣石材出土状況



2002-19地点 全景



2002-19地点 石垣立面(1241E)



2002-20地点 全景



2002-20地点 石垣石材出土状況



2002-22地点 全景



2002-22地点 石垣立面 (1131E)



2002-22地点 断面 1



2002-22地点 断面 2



2002-22地点 断面 3



2002-23地点 全景



2002-23地点 北壁



2002-23地点 南壁



2002-23地点 瓦層



2002-24地点 全景



2002-24地点 断面



2002-25地点 全景



2002-25地点 石垣立面(180IS)



2002-25地点 西壁中央



2002-26地点 全景



2002-26地点 東壁



2002-26地点 北壁



2002-26地点 南・西壁



2003-4・5地点 遠景



2003-4地点 全景



2003-4地点 南壁



作業風景



2003-4地点 石垣立面(1802S)



2003-4地点 東壁



2003-5地点 全景



2003-5地点 石垣立面(1803W)



2003-5地点 石積遺構



2003-5地点 石積遺構



2003-5地点 南北断面



2003-5地点 南壁



2003-5地点 現地指導



2003-5地点 拡張区西壁



2003-5地点 拡張区東壁



2002-27地点 全景



2002-27地点 石垣立面(1140S2)



2002-27地点 東壁



2002-27地点 西壁



2002-28地点 全景



2002-29地点 石垣立面(1150S)



2002-29地点 西壁 1



2002-29地点 西壁 2



2002-31地点 全景



2002-31地点 東壁



2002-31地点 西壁



2002-31地点 東壁



2002-5地点 断面



2002-5地点 石垣立面(1710E)



2002-5地点 瓦層



2002-5地点 石垣下方(1710E)



2002-1~6地点付近 遠景(後方石垣1121N)



2002-6地点 全景



2002-6地点 北壁



2002-6地点 南壁



2002-7地点 作業風景



2002-7地点 全景



2002-7地点 瓦層



2002-7地点 石垣立面(1110N)



2002-7地点 東壁 1



2002-7地点 東壁 2



2002-7地点 石敷



2002-7地点 石敷下



2002-7地点 石敷下



2002-8地点



2002-8地点 石垣立面(1110N)



2002-9地点 石垣立面(1110N)



2002-33地点 全景



2002-33地点 石垣立面(1300E)



2002-34・35地点(西) 石垣立面(1300N)



2002-34・35地点(西) 石垣(1300N)基礎



2003-1 (2002-34・35) 地点 全景



2002-34・35地点 全景（第Ⅱ段階通路）



2002-34・35地点 第Ⅰ段階側壁石垣(1111W)



2002-34・35地点 第Ⅱ段階石段



2002-34・35地点 第Ⅱ段階側壁石垣



2002-34・35地点 土層断面



2002-34・35地点 土層断面



2002-34・35地点 石段上面焼土層



2002-34・35地点 写真測量



2002-36地点 全景



2002-36地点 南壁



2003-1 (2002-34・35) 地点 第I段階通路



2003-1地点 西壁



2003-1地点 北側



2003-1 (2002-34・35) 地点 第I段階側壁石垣(1111W)・第II段階通路との重複状況



2002-32地点 全景



2002-32地点 石組溝SD01



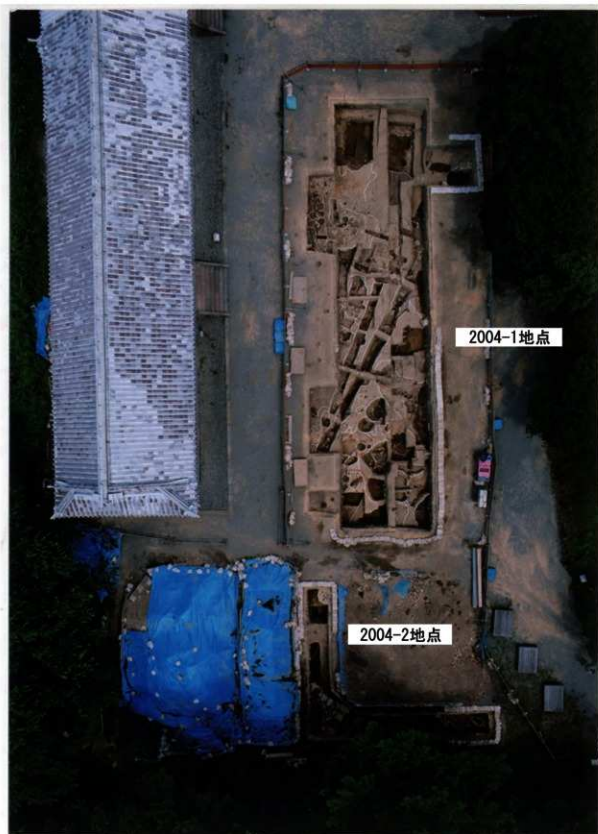
2002-32地点 遺物出土状況



2002-32地点西側断割 東壁土層断面



作業風景



2004-1・2地点 全景



2004-1地点 全景



2004-1地点 全景(SD01(SA01)・SD02(SA02))



2004-1地点 SD01 (SA01) - SD02 (SA02) 断面 (W2区)



2004-1地点 SD02 (SA02) 底面 (W2拡張区)



2004-1地点 SK10・SD01 (SA01) 断面 (W4区)



2004-1地点 SD01 (SA01) 断面 (W3区)



2004-1地点 SD02 (SA02) 底面 (E4区)



2004-1地点 SD02 (SA02) 断面 (W3区)



2004-1地点 SK04 全景



2004-1地点 SK04 断面 (E5区)



2004-1地点 SK04 断面 (W5区)



2004-1地点 SK11 A断面（E・W区境）



2004-1地点 SK11 全景



2004-1地点 SK11 断面（W3区）



2004-1地点 SK11 瓦出土状況



2004-1地点 SK11 遺物出土状況



2004-1地点 SK11 D断面



2004-1地点 SK11 E断面



2004-1地点 SK11 F断面



2004-1地点 SK11 馬骨 出土状況



2004-1地点 SK13A 断面(東)



2004-1地点 SK13A 断面(南)



2004-1地点 SK13A 全景



2004-1地点 SK13A 底面



2004-1地点 SK13A 東側掘方



2004-1地点 SK13C 東西断面



2004-1地点 SK13C 南北断面



2004-1地点 SK13C 遺物出土状況



2004-1地点 SK13C・SK13B 断面



2004-1地点 SK14 全景



2004-1地点 SK15 断面



2004-1地点 SK15 遺物出土状況



2004-1地点 SK15 遺物出土状況



2004-1地点 SK15 全景



2004-1地点 SD01・02、SK14・15・18 (右下)



2004-1地点 SK18 断面



2004-1地点 SK18 遺物出土状況



2004-1地点 SX01 断面



2004-1地点 SX02 断面（中央）



2004-1地点 SX02 全景



2004-1地点 SX03 検出状況



2004-1地点 SX03 断面



2004-1地点 土間状硬化面



2004-1地点 W5拡張区 西壁



2004-1地点 P14



2004-1地点 P15



2004-1地点 P20・P13



2004-1地点 SX04



2004-2地点 石列立面(SW01)



2004-2地点 石列(SW01)



2004-2地点 SX01



2004-2地点 4区遺構群



2004-2地点 SX02



2004-2地点 SX02北壁



2004-2地点 SX03 断面



2004-2地点 SX04



2004-3地点 遺構群



2004-3地点 東壁



2004-7地点 全景



2004-7地点 石材出土状況



2004-7地点 石垣立面(1352W)



2004-7地点 北壁



2004-7地点 南壁



2003-6地点 全景



2003-6地点 石垣立面(1421W)



2003-6地点 北壁



2003-6地点 南壁





2004-5-1地点 全景



2004-5-2地点 全景



2004-5-1地点 中央断面



2004-5-1地点 東壁



2004-5-1地点 西壁



2004-5-1地点 詳細調査



2004-5-1地点 石垣掘方検出状況



2004-5-1地点 石垣(1421N)東部



2004-5-1地点 石垣(1421N)中央



2004-5-1地点 石垣(1421N)西部



2004-5-1地点 石垣基盤層



2004-5-1地点 三十間長屋と石垣1421N



2004-5-2地点 SX01埋土・上部堆積土



2004-5-2地点 西壁



2003-7地点 全景



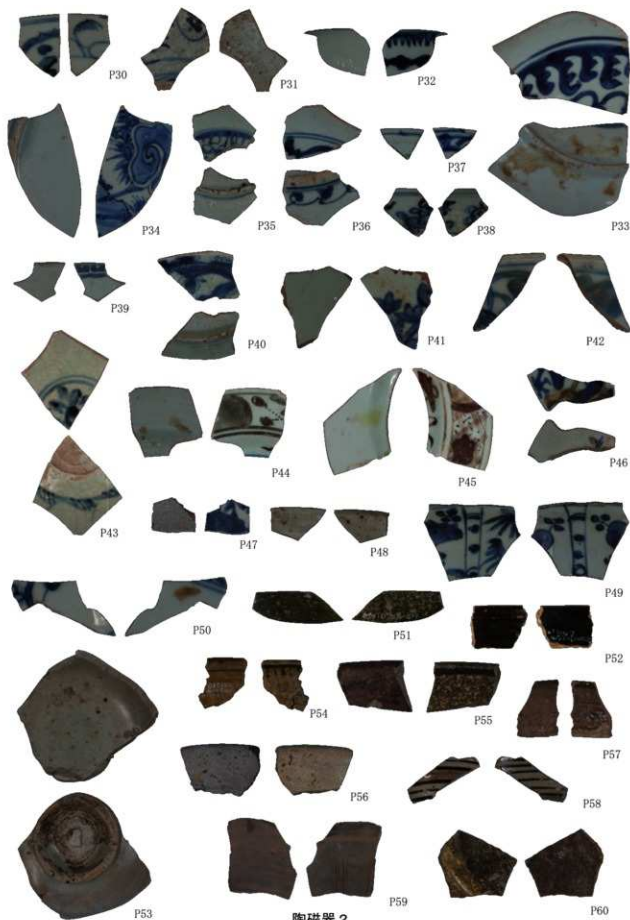
2004-6地点 全景



2004-6地点 瓦出土状況



陶磁器 1



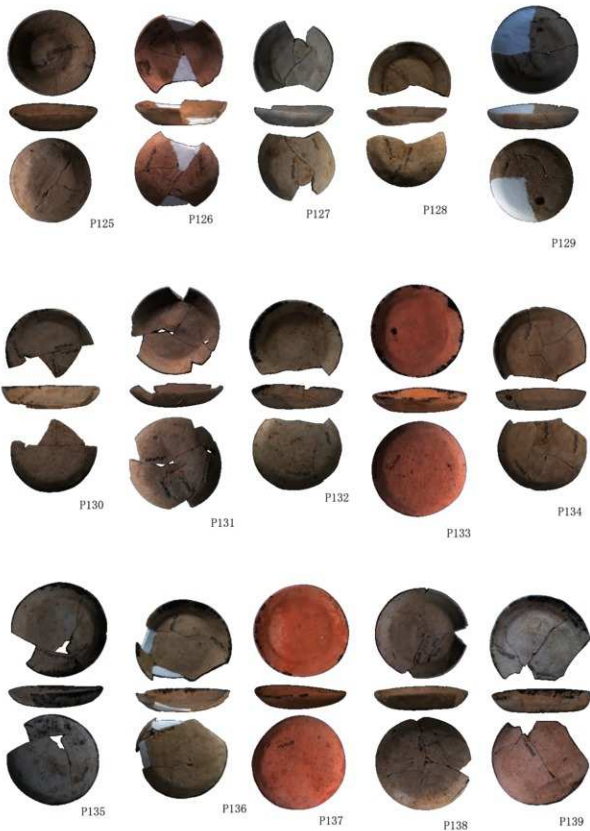
陶磁器 2



陶磁器 3

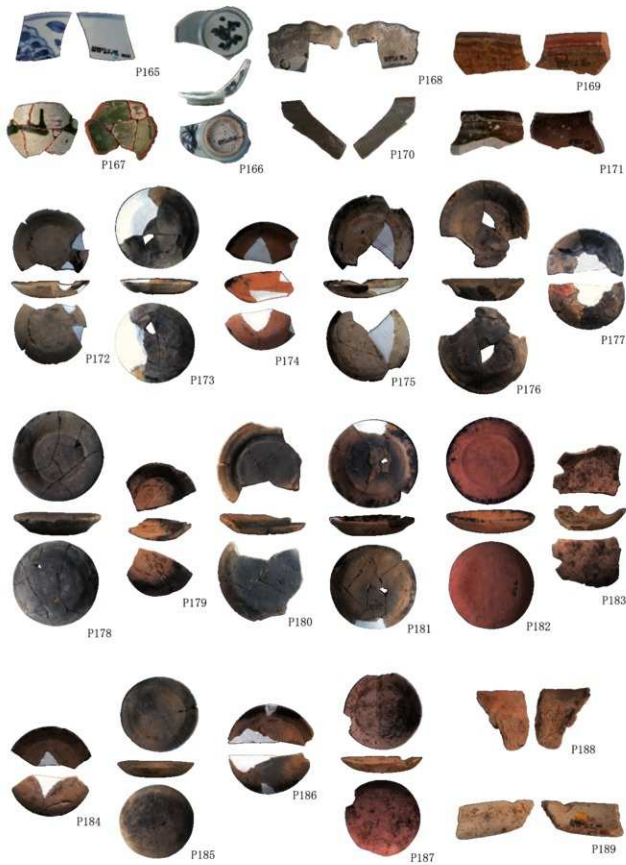


陶磁器 4

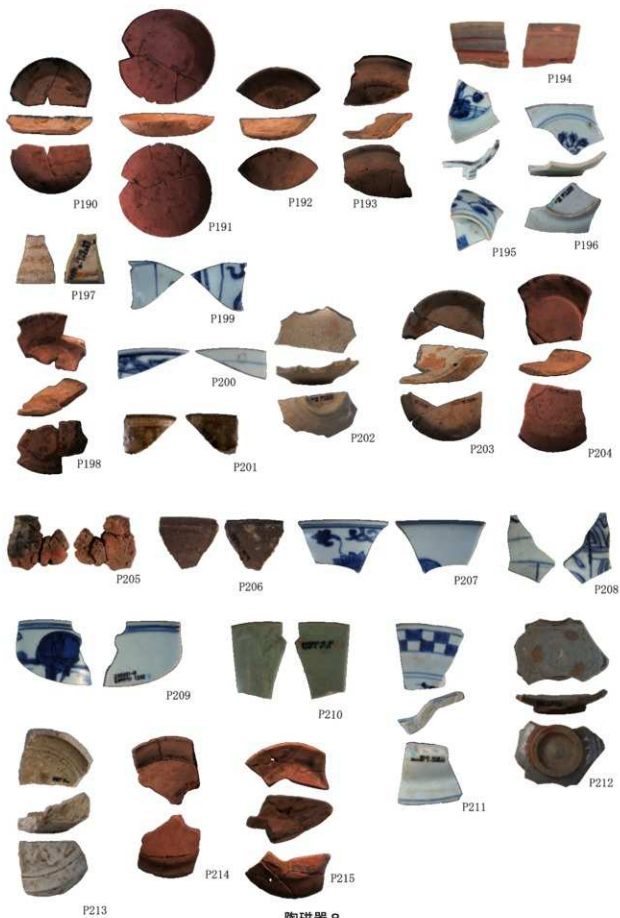




陶磁器 6



陶磁器 7



陶磁器 8



陶磁器 9



陶磁器10







瓦 3





T46



T45



T47



T49

T48



T50



T51



T52



T54



T55



T53

T57



T56



T58









T99



T100



T101



T102



T103



T104



T105



T106



T107



T108



T109



T110



T111



T112



T113



T114



T115



T116



T117



T118



T119



T120



T121



T122



T123







T139



T140



T141



T142



T143



T144



T145



T146



T147



T148



T149



T150



T151



T152



T153



T154



T155



T156



T157



T158



T159



T160



T161



T162





T173



T174



T175



T176



T177



T178



T179



T180



T181



T182



T183



T184



T185



T186



T187



T188



T189



T190



T191



T195



T192



T193



T194







金属 2



金沢城史料叢書 8

金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書 I

平成 20 年 3 月発行

編集・発行 石川県金沢城調査研究所

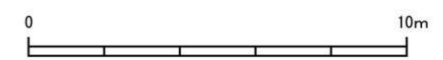
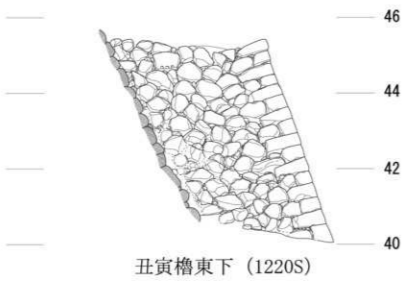
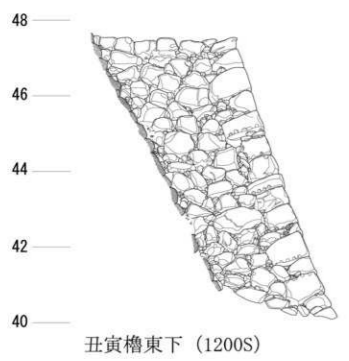
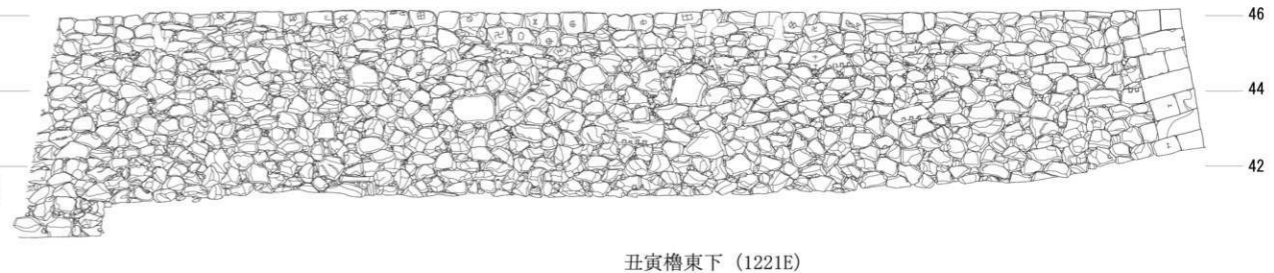
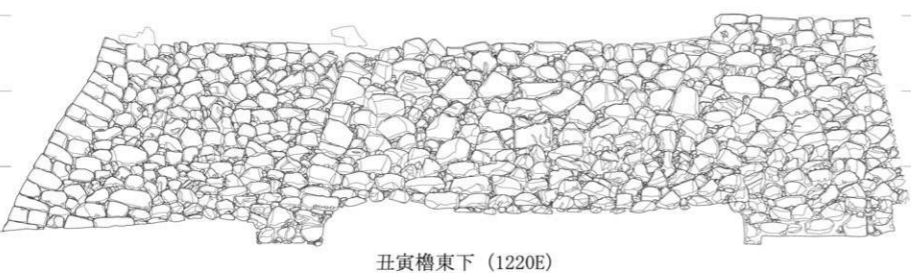
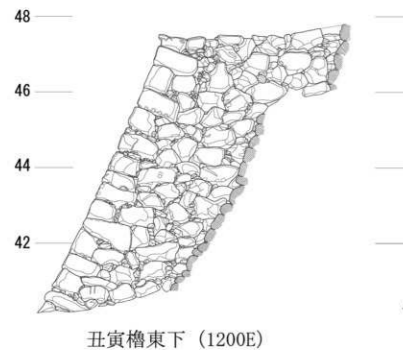
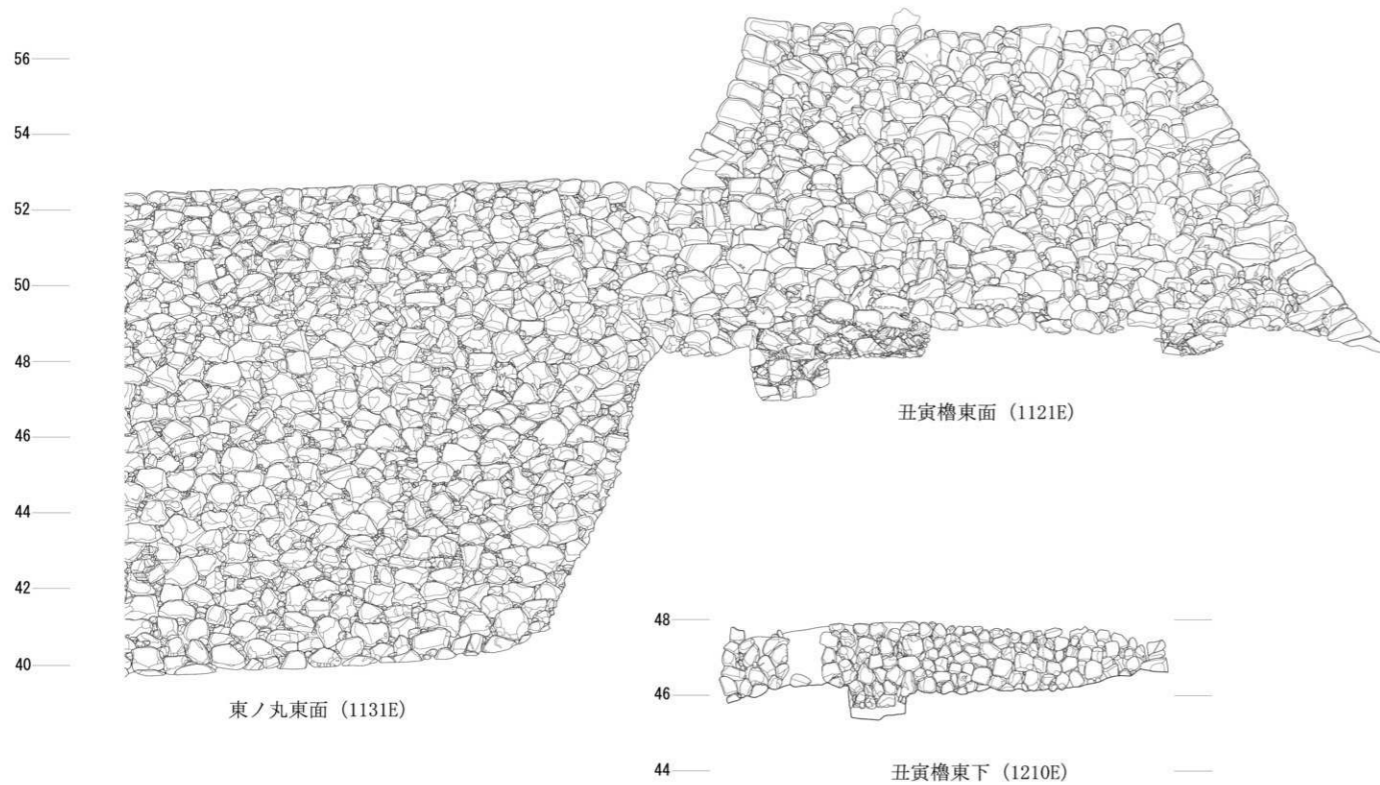
〒 9 2 0 - 0 9 6 2

石川県金沢市広坂 2 丁目 1 番 1 号 石川県広坂庁舎 2 号館

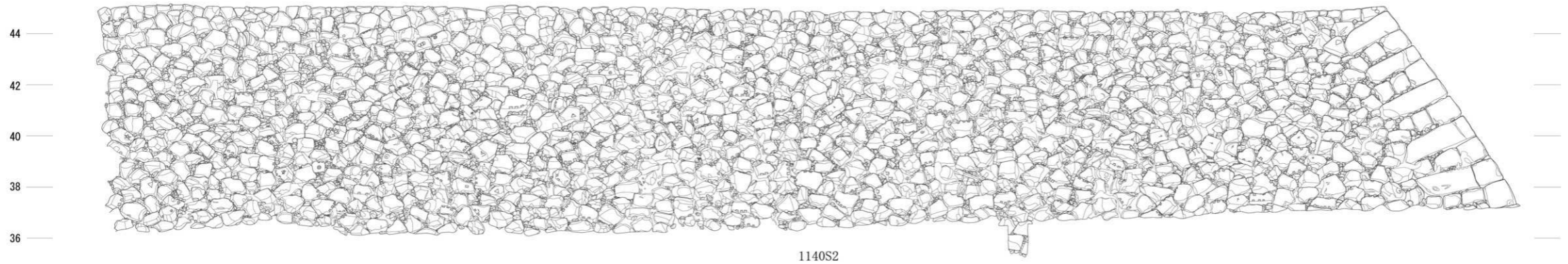
TEL 076-223-9696 / FAX 076-223-9697

E-mail kncastle@pref.ishikawa.lg.jp

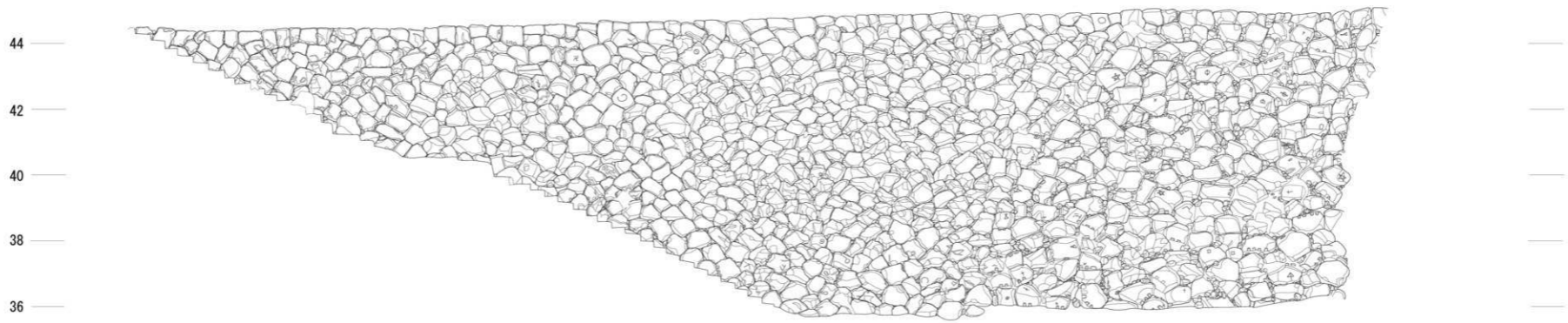
<http://www.pref.ishikawa.jp/kyoiku/bunkazai/kanazawazyo/index.htm>



石垣立面図1 丑寅櫓周辺 (S=1/100)



1140S2

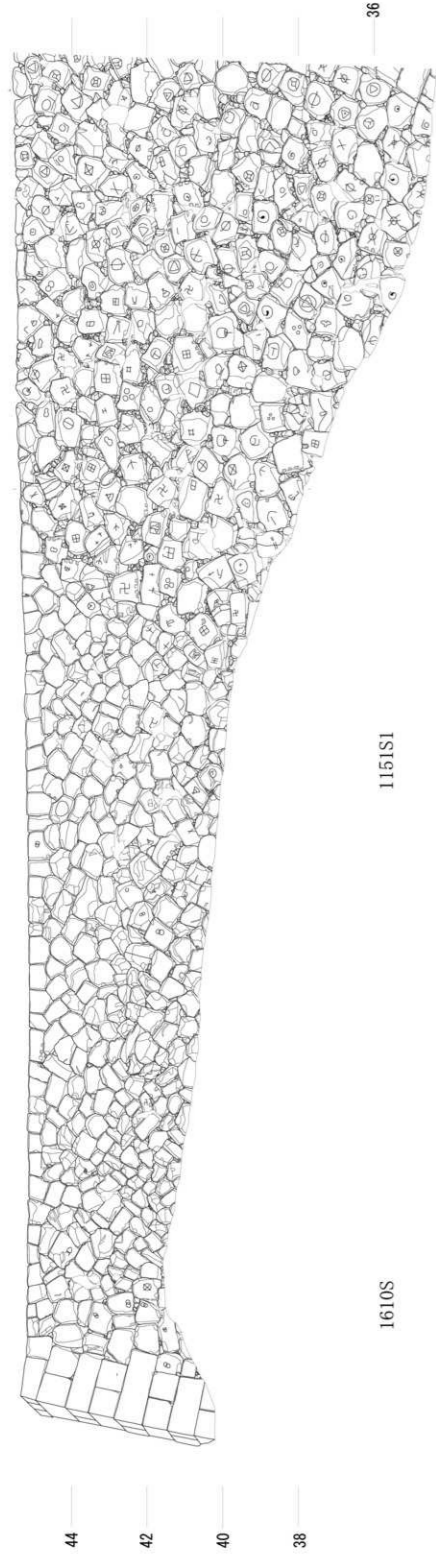


1140S1

石垣立面图2 本丸南1 (S=1/100)



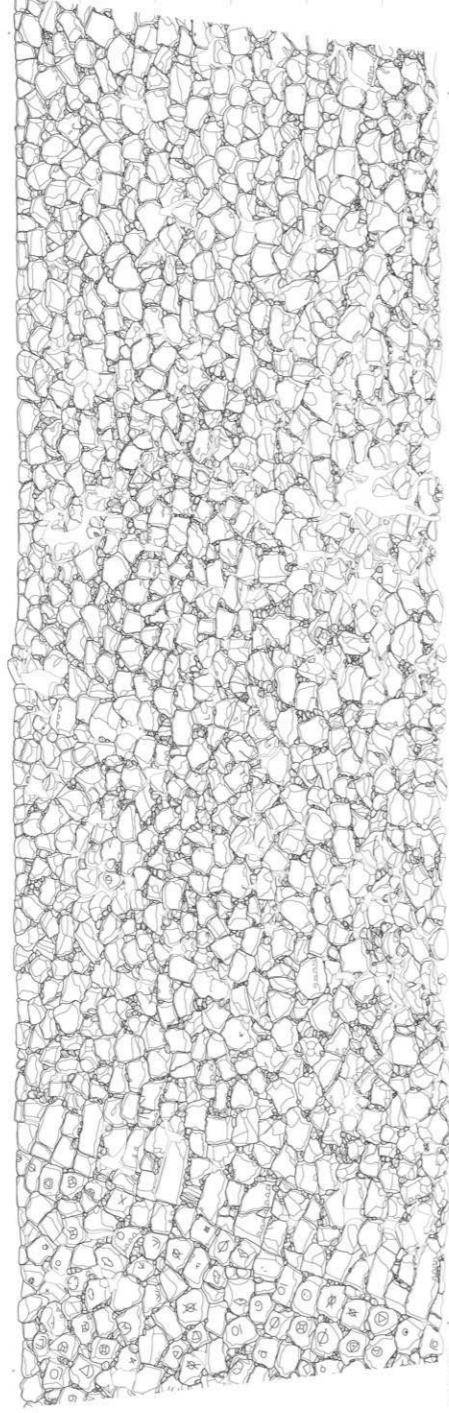
(北西)



1610S

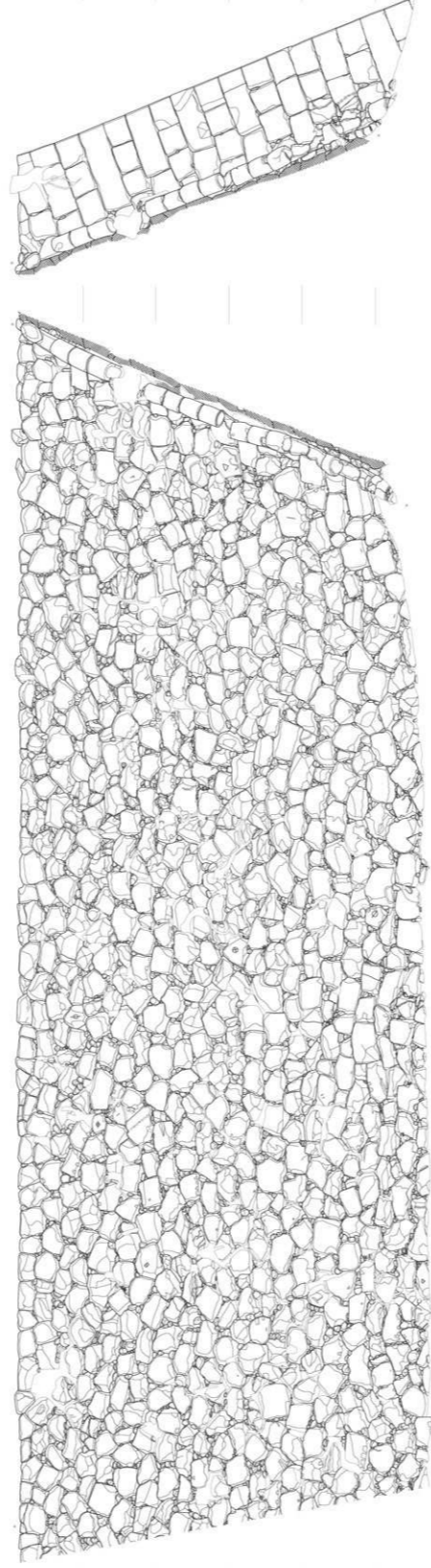
1151S1

36



1151S1

1151S2



44

42

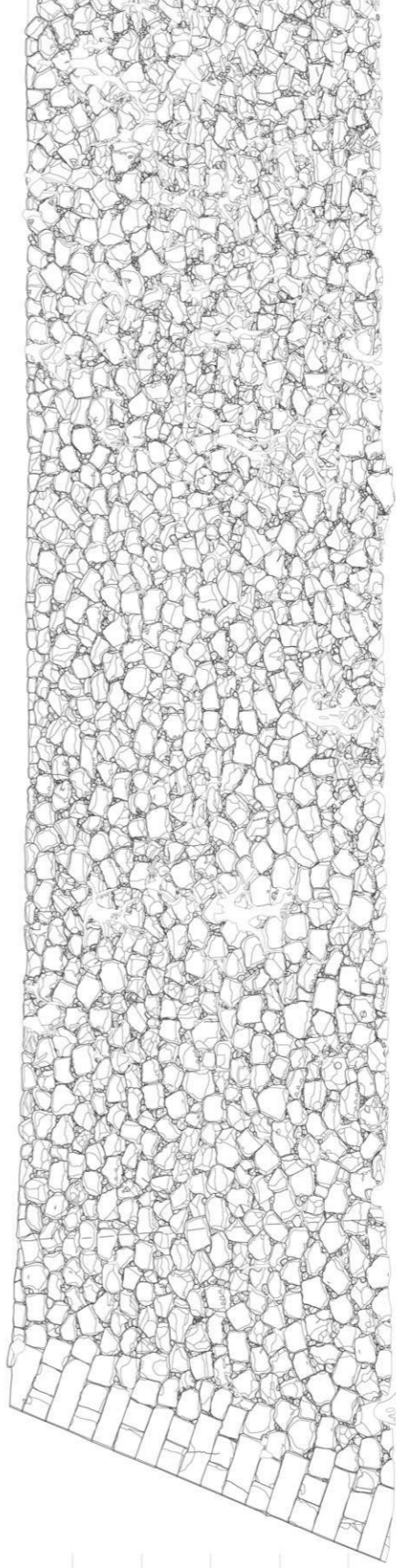
40

38

36

1151S2

1150W



44

42

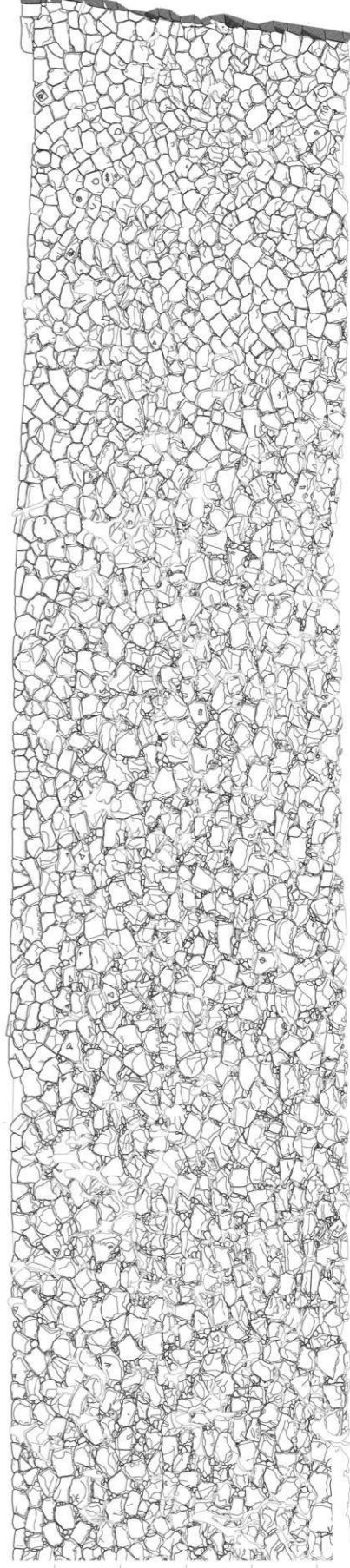
40

38

36

1150S

(南東)



44

42

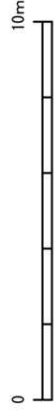
40

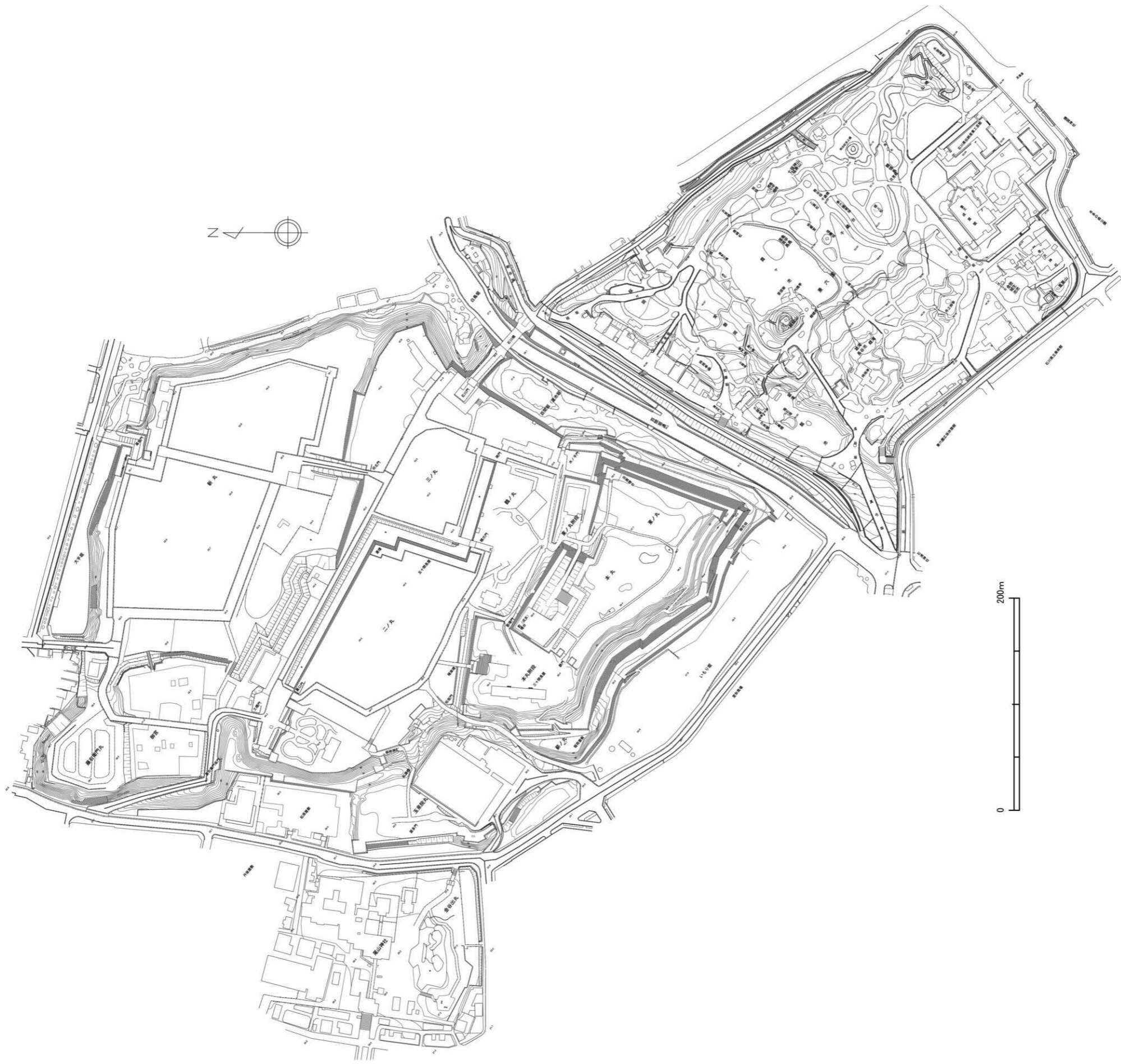
38

36

1150S

石垣立面图3 本丸南2 (S=1/100)





金沢城跡現況平面図 (S=1/2000)